配水池　（二個連續し各市四十尺二寸長五十二尺八寸有効水深五尺にして有効水量は約一萬五千立方尺人口一萬人に對する夏期給水十時間分を貯ふ滿水面に於ける海面上の高百六十七尺六寸）

一　新水道（水源聖知谷）

貯水池　（容積二千九百六立坪貯水池滿水面積一萬八千六百三十四坪貯水容積一千九百五十二萬六千五百立方尺人口四萬五千人に對する百五十日分なり滿水面に於ける海面上の高三百九十三尺）

沈澱池　（容積百四十三立坪貯水量二十三萬一千立方尺人口四萬ヵ千人に對する四十時間分なり滿水面に於ける海面上の高三百十五尺）

濾過池　（內面九十尺角四個連續內一個豫備にして濾過速度一晝夜八尺滿水面に於ける海面上の高二百五十四尺五寸）

水源配水池　（內面長四十六尺六寸同巾三十尺三寸有効水深十二尺此容積一萬六千百二十七立方尺人口七千人に對する夏期給水十五時間分を貯ふ滿水面に於ける海面上の高二百四十九尺にして釜山配水池へ送水の傍途中釜山鎭、古館及草梁に於ける人口七千人に給水する爲めに設く）

釜山配水池　（市街の北部なる伏兵山の後部に在り內面長九十五尺五寸幅七十九尺二寸有効水深十二尺のもの二個あり各屋蓋を有す人口四萬五千人の夏期給水量一人一日三立方尺六の二十四時間分を貯ふ滿水面に於ける海面上の高百八十尺なり）

一　給水量

給水人口　（舊水道は人口一萬人に對する設備を有し新水道は人口四萬五千人に對する設備あり總て五萬五千人に給水し得べく而し給水區域に於ける現在（四十五年三月）の日鮮人及外國人の總人口は約四萬人なり）

給水量　（一人一日の給水量は季節に依り左の如く區別す

冬期（十二月、一月、二月、三月の四ケ月間）　一人一日平均二立方尺四（約三斗七升）

春秋期（四月、五月、十月、十一月の四ケ月間）　一人一日平均三立方尺（約四斗六升）

夏期（六月、七月、八月、九月の四ケ月間）　一人一日平均三立方尺六（約五斗五升）

一年間平均一人一日三立方尺）

給水使用料及給水戶數表

年別	給水戶數	給水使用料	備考
明治三十六年度	六〇九	七、六三八円	
明治三十七年度	六一一	七、六六六	
明治三十八年度	七〇六	一〇、三五一	
明治三十九年度	八三五	一一、七二一	
明治四十年度	一、二七八	一八、二七七	
明治四十一年度	一、五六八	二〇、四一二	
明治四十二年度	一、八〇四	二六、二〇七	
明治四十三年度	三、三七九	三四、七二二	
明治四十四年度	四、〇五四	四四、七五一	（豫算額）

二　下水道設備

本港に於ける下水設備は從來居留民團に於て必要に應じ夫々施設し來りしが明治二十八年十一月領事館達第三十八號を以て始て下水道規則を設け下水に關する監督を爲す事と爲り次て三十四年四月更に之を改正し爾來下水道は凡て該則に據り施設せられしも未だ設備不完全の箇處多く爲めに汚水の排通充分ならざるのみならず雨水汎濫道路を泥濘ならしむるの虞多きを以て衞生上交通上溝渠改善の必要を認め明治四十年度事業として工費三萬餘圓を以て之が施工を爲せしが其延長二千七十九間餘に達し其內長手通、大廳町、西町、寶水町、富平町埋立新町

等各街路に暗渠を布設せるもの七百七十四間に及び大に下水の疏通を良好ならしめたると共に衞生設備の改善を見るに至りしが民團に於ては尙今四十五年度に於て暗渠三十四間延長の計劃あり其他現在民團區域內に於ける排水小溝は延長二萬九千餘間を有し本港の下水設備は略ぼ整備の域に達せり

第四節　墓地及火葬場

一　共同墓地

本港の共同墓地は元と居留地の北部なる伏兵山に在り同地は我が政府が日本專管居留地の附屬として韓國政府より租借せるものにして其地積三萬餘坪を有し始め領事館に於て之を管理せしが明治二十四年六月居留地役所に之が管理を委託せしを以て爾後同役所に於て其維持掃除其他凡て管理の責に任じ同時に領事の認可を得て日本居留地墓地管理規則を設け墓地に關する諸般の件を規定せり然るに爾來居留人口の增加に伴ひ人家漸次墓地附近に膨脹し風致上衞生上墓地移轉の必要に迫りたるを以て居留民團に於ては遂に三十八年其移轉地を市の西方なる峨嵋山に撰定し同所に敷地を買收し三十九年より之か設備に著手し同時に理事廳令を以て同年十月一日より伏兵山墓地を峨嵋山新墓地に移轉の旨を達せられ翌四十年五月に至り全部の移轉を了せり現在の共同墓地即ち是なり現今の埋葬地借受料は一坪に付一等地貳圓二等地壹圓五拾錢三等地壹圓なり

二　火葬場

本港居留地に於ける火葬場は始め市外大新里に在り個人の經營に屬せしが明治三十七年二月に至り東本願寺別院は領事の認可を得て更に同地に火葬場を設置し爾來同院に於て之を經營し來りしが同四十年に至り從來伏兵山に在りたる居留地共同墓地を市街の西方峨嵋山に移轉せし爲め墓地と遠隔し不便尠なからざるを以て同院に於ては四十二年四月公認を得て更に之を峨嵋山に移轉し以て今日に及べり目下民團區域內に於ける火葬場は峨嵋山火葬場の外牧ノ島及釜山鎭の二箇所に在り何れも私人の經營に屬せり

第五節　防疫施設

一　流行病豫防法

本港は前叙の如く惡疫流行の機會多きを以て流行病に對する豫防施設に就ては其直接と間接とを問はず本港の最も致意せる所にして領事館時代以來直接間接之に關する布達を發し規定を設けたるもの一にして足らず爾來今日に至る迄公私當該機關に於て常時若くは臨機に是等布達規定の勵行に努めつゝあり加ふるに日韓併合以來衞生に關する法令規則は一般に益具備するあり本港各種の都市衞生機關の整備と相竢て一層惡疫に對する衞生施設の整齊を見るに至れり今本港領事館以來發布せられたる流行病豫防に關する直接間接の規則の重なるものを示せば左の如し

一、傳染病豫防消毒方執行心得（明治二十四年七月領事館布達）
一、交通遮斷規則（明治二十八年八月領事館布達）
一、種痘假規則（明治二十五年三月領事館布達）
一、市街掃除規則（明治十四年十月領事館布達）
一、清潔方取締規則（明治二十四年一月領事館令にて改正　明治三十五年五月領事館布達同）
一、下水道規則（明治二十八年十一月領事館布達　同三十四年四月改正）
一、衞生組合規則（明治三十七年七月領事館令にて改正　同三十九年六月理事廳令）
一、牛乳取締規則（明治十九年八月領事館布達　同二十九年十一月及三十九年十一月改正）
一、賣肉取締規則（明治三十年九月領事館布達　同三十三年一月改正）

二　市街清潔法

本港市街清潔法に關し始て規定を設けられたるは明治十四年十月領事館達第三十八號を以て發布せられたる市街掃除規則を以て嚆矢と爲す爾來二十八年七月街路取締規則を設け次て三十四年九月領事館達第三號を以て該則を改正し街路溝渠下水等に關する清潔法を規定し且つ毎年四月を以て定期下水浚渫を執行する事と爲せしが尙其一面に於て明治二十四年一月領事館達第一號を以て清潔方取締規則を制定し次て三十五年五月更に之を改正し街路清潔法、便所清潔法、下水清潔法及芥溜清潔法等各種取締に關し街路の掃除より便所、下水、芥溜等の構造制限並其掃除清潔の方法等を規定せられ又毎年四月及十月の春秋兩期を以て市内大清潔法施行の件を定めらる此の如く市内清潔方法に就ては夫々の規定を設け

警察署監督の下に今日に至る迄勵行しつゝあり而して之が實行即ち市内塵芥不淨物の掃除に就ては從來より個人をして之を請負はしめ居留地役所より之に補助を爲せしことありしが三十五年に至り私設清掃社なるもの起り各戸より清潔費を徴して一般の清潔事業を開始し毎日掃除人夫を使役して各町の塵芥汚物の掃除に從事せしが三十九年四月當時の領事館達に基き八頭司直吉橋本鶴吉氏等釜山清潔社なるものを設立し市内の清潔事業を營むに至りしが爾來今日に至るまで之を經營しつゝあり同社は毎月市内各戸より最低拾錢より最高四圓に至る清潔費を徴し毎日市内各町の塵芥不淨物の掃除を請負ひつゝあり同社取扱の糞尿は目下小林彦一氏の經營に係る安母尼亞肥料製造の原料として供給せられ又塵芥は日々一定の場處に於て之を燒却せり

第六章　防火設備

第一節　消防組

一　釜山消防組

明治二十七八年日清戰役後本港居留民の數著しく增殖せるに伴ひ日本風家屋の建築益增加し漸く防火機關の必要を感ずるに至り茲に始て消防組の設立を見るに至れり當時居留地には小規模の水道を敷き街路各所に消火栓の裝置ありしと雖も火災屢々起れるを以て消防喞筒及腕用ポンプ等を購入して之に備へ其の後更に蒸汽喞筒二臺を購入せるも未た消防設備の不備を免れざりしが明治三十四年四月に至り領事館達第二號を以て始て釜山港日本消防組規則を制定せられ從來の消防組々織を之に據らしむるに至り組織上一段の改良を見るに至れり其後三十九年前警視廳消防本部長松井茂氏の釜山理事官として赴任するや釜山消防組の組織を革新し或は常設消防手を設けて市内の非常警備を爲し一面警視廳消防主任を聘して消防上の練習を爲さしむる等大に消防上の施設に改善を加ふる

所あり尋て龜山理事官の時に至り四十二年九月更に消防組規則を改正し其組織、組員の手當、非常信號等規定上に改善を施せしが爾後水道設備及市區改正の整頓と相俟ち消防設備の面目を一新し爲めに火災の數を減ずるに至れり同消防組は釜山警察署の監督に屬し其經費は民團警備費を以て支辨す現今の組織は正副組長及部長、小頭各若干名と消防手百三十名とを置き蒸汽ポンプ二臺、腕用ポンプ四臺及防火栓用ホース五臺を備置し市内を六部に分ち各部即ち警察本署前、思案橋、富平町、寶水町、草梁及牧ノ島に各消防手夜警詰所を設け消防器械及消防手を配置し各區内を巡邏警戒せしむ今參考の爲め本港に於ける明治二十四年以來の火災數を示せば左の如し

釜山火災統計

年次	度數	棟數	戸數
明治二十四年	三	全焼	一三
同三十一年	一	半焼	〇
至同三十二年	〇	全焼	八
自同三十三年	〇	全	九
至同三十三年	一	半焼	〇
同三十四年	〇	全焼	二
同三十五年	〇	全	六
同三十六年	一	全焼	四
同三十七年	一	半焼	〇
同三十八年	二	全焼	一
同三十九年	〇	全	〇
自同四十年	一	全焼	二
至同四十一年	〇	全	三
同四十二年	三	全焼	一
同四十三年	一	全焼	一
同四十四年	四	全焼	三

二　釜山鎮義勇消防組

釜山鎮消防組は明治四十四年七月同地有志者の私設に係り釜山警察署の監督に屬せり消防定員は組頭及小頭の外消防手四十四名を以て火災警備に充て其經費は地方有志者の寄附金を以て支辨せり

第二節　水道防火栓

日清戰役後本港に於て始て消防組の設置せらるゝや當時本港は飲用水の必要より小規模の水道設備を爲し傍ら防火用として街路の要所三十ヶ所に消火栓を裝

置し僅に火災に備へしが後三十五年に至り高遠見谷水道の敷設せらるゝに及び市内に四十七ヶ所の消火栓を設け其水壓も五十磅乃至七十磅を有し次て居留民團に於て韓國政府と共同經營の下に五萬五千人に供給すべき設計を以て最後に起工したる新水道の四十三年七月全部竣成するに及び更に新式裝置の消火栓百餘を增加せるを以て現在に至りては其數公設百五十六ヶ所及私設十六ヶ所を有するに至り毎六十間に一ヶ所を有するの割合と爲れるのみならず其水壓の如きも六十磅乃至百五十磅以上に達し消防組の設備と相俟ち防火上一層の整備を見るに至れり

石炭、木材、セメント、機械類及電信電話材料
三榮棉布及金巾、木綿銑鐵、亞鉛板、金物類
燐寸、麥粉、パインアップル（ライオン印　サルタン印）滿鮮一手販賣

本社　東京日本橋區駿河町

三井物産株式會社

京城出張所　電話二六番七二四番一一一九番
仁川出張所　電話六三番
釜山出張所　電話六五五番

（中付一九）

三石耐火煉瓦株式會社製品
耐火糖土販賣
中央セメント株式會社製品一手販賣
建築材料販賣
大阪窯業株式會社煉瓦製品
火山灰一手販賣

朝鮮釜山本町四丁目
㊎戸島楢太郎商店
鎭海灣軍港縣洞新市街地
電話(六七一)番
㊎戸島縣洞支店
電略(トシ)又ハ(ト)

(中付二〇)

第七章　港灣

第一節　港灣設備

一　商港設備

本港の港勢たる啻に朝鮮半島に於ける日鮮貿易の重要港たるに止まらず時運の進展に伴ひ將來歐亞交通の關門と爲り世界的樞要の港灣たるべき運命を荷へるにも拘はらず其港灣の狀態たる赤裸々なる自然の儘に放委せられ商港としての何等人工的施設なきのみならず其稅關設備の如き規模頗る狹小にして到底今後に於ける貿易の發展に伴ふべからざるや明かなるを看取し先に韓國政府は本港に大改善を施し豫め此趨勢に應ぜしむるの目的を以て港灣の改築を計劃し先づ其第一期事業として光武十年(明治三十九年)より五ヶ年の繼續事業とし工費豫算百四拾四萬餘圓を以て釜山稅關の移轉改築及海陸連絡設備其他の工事に着手し同四十四年十月工事の竣成と共に稅關の移轉を行ひ次て滿鮮鐵道の連絡工事既に着手せられ暮年ならずして本港の將に歐亞交通の關門たるべき時機に到達せ

んとするや總督府は更に第二十七議會の協賛を經て工費豫算參百八拾貳萬餘圓を以て明治四十四年度に至る四ヶ年繼續事業として港灣の第二期計劃事業に着手し目下着々工事進行中に在り今第一期及第二期計劃工事の梗概を擧ぐれば左の如し

（イ）第一期計劃工事（既成）

一、地區別　港灣改築地區を外國貿易及沿岸貿易の二區に區別す

一、沿岸貿易船溜　沿岸貿易地區に於ける同船溜は水面積約六千坪を有し周圍岸壁延長四百三十八間餘に達せる凹字形の船溜にして周圍岸壁には三間半の斜傾面龕腹を設け船溜内には同時に五六十隻の船舶を繫留し得べく專ら沿岸出入貨物の積卸の便に供す

一、稅關廳舍　稅關本廳舍は釜山停車場本館の側面十間道路を隔てたる處に建設し建坪百五十餘坪を有する宏麗なる煉瓦二階建にして港灣を一眸の下に展望すべく輪奐の美在鮮稅關中の第一とす又監視部廳舍は第一棧橋の基部に建設し建坪百十二坪木造洋風二階建にして樓上には貴賓室等を設備す

一、棧橋　釜山停車場西側埋築地先より一の突堤を築設し同堤の南面内側に沿ひ長さ百五十間幅員十三間の一大鐵造の片棧橋を架設し三千噸乃至四千噸の汽船二隻を同時に繫留せしむるに足らしむ

一、突堤設備　釜山停車場西側埋築地の南端より延長約二百三十九間の突堤を築造し其外側は防波石垣とし内側に沿ひ鐵造片棧橋を設け突堤には棧橋と並行して建坪千六百餘坪の鐵造大上屋一棟を始とし棧橋出入取締所、鐵道手荷物取扱所、稅關吏派出所、鐵道吏員派出所、貨幣交換所、待合室、自働電話、電燈等其他の設備を爲し又上屋倉庫の背面には停車場構内に連絡したる二條の鐵道軌條を敷設し以て貨客の海陸連絡輸送に便ならしむ

一、上屋及倉庫　釜山停車場西側に於て面積約一萬三千坪の地を埋築し此處に稅關本廳舍を置き其水際延長約百二十間を物揚場として艀船荷役に便ならしめ岸頭には倉庫四棟其坪數合計九百二十四坪を設け又貨物積卸用の起重機を設備す

一、起重機の設備　棧橋其他水際物揚場に設備せる起重機は扛力十噸三噸及一

噸半のもの三臺を設備す

一、水道　大棧橋及荷揚場には水道栓を配置し船舶給水の便に供す

(ロ) 第二期計劃工事（未成）

一、港内整理　釜山港東口（鵜ノ瀨港口）航路及び既設第一棧橋並に新設すべき第二棧橋の前後周圍を合せて面積三十三萬千四百七十五坪の海底を浚渫し以て船舶の錨地を擴充す而して其浚渫水深は鵜ノ瀨港口平均朔望干潮面以下三十六尺、第二棧橋沿同二十七尺及第一棧橋前同二十四尺の三區に分ち繫船浮標を配置して船舶の碇繫に便ならしむ

一、第二棧橋架設　既設新棧橋突堤の北側に於ける地先海岸面積約一萬六千三百坪を埋築し其埋築突端より既設新棧橋に並行して鐵造棧橋長さ二百間幅十八間の第二棧橋を架設す而して第二棧橋と既設第一棧橋とは其間隔約百十五間の距離を保たしめ此第二棧橋兩側には二萬噸の汽船二隻及七千噸の汽船二隻同時に四隻を繫留するを得せしむるの計劃なるを以て第二棧橋の竣成と共に兩棧橋に於て都合六隻の汽船を同時に繫留せしむるを得べし又

該棧橋上には軌道四線を敷設して船車の連絡を便にし且つ橋基埋築地に二階建鐵造上屋二棟（此建坪約八百坪）を建設す

一、陸上設備　釜山草梁間の鐵道を沿岸埋築地に換線して聯絡上の便利を計り又釜山停車場より連絡鐵道を第一棧橋突堤及び第二棧橋上に延長し第一棧橋に並行する突堤及第二棧橋の基部埋築地に諸種の設備を施すは前述の如し

一、第二船溜の新設　第一期計劃に係る既設沿岸船々溜は狹隘にして到底今後沿岸貿易の發展と共に益々增加すべき多數船舶を收容するに足らざるを以て第二期計畫として第二棧橋の北部即ち草梁より釜山鎭方面に向ふ海面に於て陸岸より二百間の前面を基點とし左右に長さ百九十間と三百九十間との二條より成れる防波堤を築造し小型船舶に對する安全なる泊地として水面積約十一萬六千坪の船溜を增設し船舶の碇繫及貨物積卸の便に供せんとす

二　魚港設備（水產物輸出入場）

本港は朝鮮沿岸中漁業の最も盛なる南鮮沿岸漁業圏の中樞に位し加ふるに海陸の交通運輸至便にして所謂四通八達の地に在り朝鮮半島中水產事業上最も天惠の好地位を占むるを以て先に韓國政府財政顧問目賀田男爵は此形勝の地利に鑑み舊稅關移轉後同構內を利用し文明的漁港設備の計劃を爲せしが明治四十四年港灣改修第一期工事の竣工と共に稅關廳舍を新地區に移轉するや同年二月工費約二十五萬圓を以て漁港設備の工事に着手し本年三月を以て全部竣成し玆に東洋唯一の漁港を見るに至れり然れども其經營方針尙決定せざるが爲め未だ事業を開始するに至らず嚮に朝鮮海水產組合は代議員會の決議を以て漁港の經營管理を同組合に委託せられんことを前後兩度總督に請願する所ありしが當局の方針は一の財團法人を組織せしめ之をして其經營管理に當らしむるの意嚮なるやの說あるも未だ決定するに至らず今同漁港設備の概要を擧ぐれば左の如し

一、製氷所及冷藏庫　內港の沿岸に接し總建坪百八十三坪の木造平家を建設し之を二棟に區別し一を製氷所他を冷藏庫と爲し製氷所には「レミントンアンモニア」壓搾機二臺を据付け一日九噸の製氷力及六噸の冷藏力を保たしめ以

て生魚の貯藏發送の用に供す

一、魚類競賣場　沿岸中央に總坪數三百二十坪の上屋を設け全部混凝土叩とし之を魚類の競賣場と爲し而して上屋の一半を二階建とし階上を數室に仕切りて船具其他漁夫携帶品預り倉庫とし他の一半を平屋とし屋上に水產物干場を設く

一、仲買人貸庫及荷造場　競賣場の後部道路を隔て總建坪二百八坪の仲買人貸庫及荷造場を設け貸庫は六坪とし總數二十七戶前を設く

一、運送店　魚類運送用として仲買人貸庫に連續して建坪十五坪の運送店一戶を設く

一、仲買店及雜品庫　運送店に隣接して間口二十六間奥行三間の木造二階建を設け其一部を雜品庫とし他を五戶に仕切り階下を仲買人出張店とし階上を職員住宅と爲す

一、漁港事務所　漁港正門內左側に木造二階建洋館を設け階上を漁港事務所に充て階下の一部を事務室其他を稅關出張所及宿直室等とす

一、倶樂部　正門内右側に建坪五十四坪の日本風の二階建を設け階下を二分して一を日用雜貨店他を浴場と爲し階上を以て倶樂部及集會所となす

一、鹽藏庫及干燥物庫　競賣場の左側沿岸に鹽藏庫並貯鹽庫一棟及干燥物庫一棟を設く

一、漁船溜　漁港の左右兩側より突堤を築き中央に出入口を設け水面積約六千坪を包擁し之を漁船々溜と爲す

第二節　埋築工事

釜山港灣設備に附帶し記述せざる可らざるものは港灣に於ける各埋築工事なりとす本港は由來山岳海濱に逼り沿岸の平地積狹隘にして市街發展の餘地に乏しかりしが曩には釜山埋築株式會社の企業に係る北濱海岸の埋築成りて大に市街地の面積を增加し次て志村作太郎氏の企劃に係る絶影島薩摩堀の埋築事業起り既に一部の工事を了し將に二三年を出でずして數萬坪の埋築新に成らんとし今や又名古屋資本團を中心として組織せられたる朝鮮起業株式會社に依り釜山鎭の大埋築起工せられんとするあり而して是等の埋築事業たる何れも將來に於ける市街地の發展に資すると共に船舶の碇繫貨物の積卸等港灣設備上にも亦幾多の利便を加ふべきは明かなり今左に各埋築工事の概要を示さんとす

一　北濱埋築工事　(既成)

本工事は釜山埋築株式會社(資本金參拾五萬圓)の企業に係り明治三十五年韓國政府より北濱海面埋築の認許を得其第一期工事として同年七月起工同三十七年十二月に至る間に於て三萬二千六百二十七坪餘の埋築を爲し第二期工事として四十年四月起工同四十一年八月に至る間に於て八千七百四十七坪餘の埋築を竣へ市街區劃の整頓を竣ち四十二年一般賣却を開始せしが今や既に賣約及貸約を了せるもの其半に至り今の佐藤町、大倉町、高島町、中ノ町、池ノ町、新町、岸本町等の各町及沿岸帆船々溜、釜山稅關構内、釜山停車場等は何れも該埋築地に屬し將來樞要の地區なりとす

二　薩摩堀埋築工事　(工事中)

本工事は絕影島と洲岬との中間なる所謂薩摩堀と稱する潴澤を埋築して之

を利用せんとするものにして始め釜山民團事業として計劃せられたるものなるも後志村作太郎氏其權利を讓受け個人の企業に移れるものにして其埋築坪數は洲岬前面一萬二千八百七十坪、絕影島前面三千九百五十坪及薩摩堀內四萬四千七百十坪即ち總坪數六萬千五百三十坪にして絕影島と洲岬との中間を貫き港灣海面より入口幅二十四間中間十八間の水路を通し其後部に五十間四方の帆船溜を造設し其一部に荷揚場を設け船溜の周圍及絕影島、洲岬兩側面埋築地を以て工場、倉庫其他漁業上の設備及市街地等に利用するの計劃にして其中三萬九千十二坪を以て市街地に充つべき豫定とし總工費豫算は四拾萬圓にして全部竣工の上は埋築地總價格六拾四萬八千圓を得べき豫算なりと云ふ全部の竣工期限は明治四十八年三月末の豫定なれば完成の後は同島の發展に資する所尠なからざるべし

三　釜山鎭埋築工事（未着手）

本工事は名古屋資本團を中心として新に組織せられたる朝鮮起業株式會社（資本金參百萬圓）の企業に係り朝鮮總督府の許可を得て釜山鎭地先海面四十

萬坪の埋築及之に關する經營を爲さんとするものにして其工程は第一期工事として約十三萬七千坪を三ヶ年間に第二期工事として十七萬坪を三ヶ年間に又第三期工事として其殘餘の坪數の埋築を爲し尙海面護岸線の中央船舶の出入に最も適當なる地位に出入口十二間奥行六十間總幅百間即ち面積六千坪の長方形船入場を設け場內四隅に長さ十五間幅三間の荷揚場を設け旅客の昇降貨物の積卸に便せんとする設計にして全部完成期限は準備行爲共約十ヶ年の豫定なるが竣成の上は將來工場地市街地として發展し同方面樞要の地區たるに至るべし

第八章　交通及運輸

本港は日鮮交通の要衝に當り且つ水陸交通の連絡地點に在り加ふるに朝鮮南北兩沿岸の中樞に位し所謂四通八達の地利を有し交通運輸の點に於て朝鮮半島中最も形勝の地位を占むるを以て旅客交通の頻繁なる貨物集散の多大なる海陸交通機關の整備と共に朝鮮各地の首班に居るのみならず客秋滿鮮鐵道の連絡成立以來は一轉して世界的幹道の關門と爲り行々歐亞交通貨客の增加を見んとするの機運に進達せるが故に本港は今や獨り朝鮮交通の樞要地點に止まらずして亦世界的交通の一要地たらんとするに至れり是を以て本港に於ける交通運輸の前途は益殷盛の狀勢を呈すべきは敢て疑を容れざるなり

第一節　陸上交通

一　鐵道

本港に於ける海上交通は其便夙に開けたりと雖も陸上交通に至りては久しく何

磨擦精白米販賣
諸雜穀委托賣買
輸出入貿易

朝鮮釜山西町

上田精米所

電話三五九番
電略ウ又ハ（ウヱ）

（中付二一）

專用商標 俊

海陸物產委托賣買 貿易商 釜山埋立新町 中村俊松商店 電話五六番 電略トシ

煎子鰹節類 鹽乾魚一切 北海道產品 卸商 釜山南濱町二丁目 中村俊松支店 振替口座 電話四六七番 京城四五番 電略トシ

醬油味噌發賣元 釜山寶水町二丁目 中村俊松釀造部 電話六八七番 電略トシ

（中付二二）

等の施設をも見ざりしが京釜鐵道の敷設せらるゝに及び始て陸上に於ける文明的交通機關の利便に浴するを得るに至れり本鐵道は日清戰役の際日韓兩國の間に協定せられたる暫定條約に基き明治三十四年六月を以て成立したる京釜鐵道株式會社の企業に係るものにして同年八月南は本港草梁北は京畿道永登浦の兩方面より同時に起工せられしが三十六年日露兩國の形勢切迫し風雲愈急を告ぐるに及び政府の命に依り大に工事の速成を圖り遂に三十七年十一月を以て全線二百六十七哩餘を竣成し翌三十八年一月一日より營業を開始するに至り本港の交通に一新紀元を開けり然るに日露戰役後鐵道國有の議決定せらるゝや政府は三十九年七月を以て同社の經營に屬する京仁線と共に本線を買收し同時に本線は統監府鐵道管理局の管理に移れり然れども當時本線は草梁を起點と爲し未だ草梁釜山間の連絡なかりし爲め本港に於ける鐵道の利用を完ふする能はず交通上尙不便を免れざりしが四十一年に至り漸く兩地間の鐵道敷設竣工し同年四月一日より釜山驛の開始と共に鐵道の開通を見るに至り京釜間の交通機關は玆に始て完璧を成すに至れり先是京釜線の竣成するや山陽鐵道會社は早くも日韓間

鐵道連絡の便を圖らんが爲め下關釜山間に壹岐丸及對馬丸の二大汽船を以て連絡航路を開始し次で鐵道國有の實施に及び遞信省之を繼承し爾來航行時間の短縮輸送力の增加等益航路の改善を施し交通の利便を圖るに至れりと雖も當時本港には尙未だ完全なる海陸連絡の設備なく連絡船の發著基點たる棧橋（釜山棧橋株式會社の經營に係りしを以て旅客の不便尠なからざるのみならず貨物の如きも聯帶直通輸送に係るものは釜山驛開始後と雖も設備の關係上尙草梁驛を以て取扱驛と爲し移出入共何れも艀船に依り本船に積卸せざる可らざるを以て運輸上の不利不便も亦尠なからず然るに四十五年六月釜山稅關第一新棧橋の竣工するに及び同月十五日より從來の連絡船の發著を該新棧橋に改めたる結果停車場との距離を接近せしめ大に船車の連絡を便ならしめ爲めに旅客に對する從前の不便を一掃するに至れり加之のみならず之と同時に是迄長春京城間に限られたる滿鮮直通列車を本港迄延長し每週三回（火、木、土曜）長春釜山間九百五十哩を一貫せる急行列車（一等車に限る）を直通せしむる事と爲り同日以後萬國寢臺會社の最新式なる寢臺車附滿鐵會社の急行列車は蜿

蜒として本港に去來し我埠頭に歐亞交通の旅客を送迎するに至り本港は玆に事實上歐亞公道の關門たるに至れり之と共に鐵道院に於ても內地鐵道時間の改正を爲し特に新橋下關間に新造の一二等急行列車（完美なる展望車附）を運轉して每週三回の滿鮮直通列車に接續せしめ且つ該接續に限り特に連絡船の航行時間を短縮して交通の敏速を圖りたるを以て日鮮間來往の旅客に一層の利便を與へたるのみならず歐亞連絡交通上亦一新面目を啓きたるものにして同時に本港交通上の一大發展と謂ふを得べし然れども現下尙棧橋背部の突堤に於ける鐵道軌條及上屋其他の設備工事未だ竣成を告ぐるに至らざるを以て船車連絡上尙多少の不便を免れざるも幾くならずして是等諸設備も竣整を告ぐるに至るべければ海陸連絡の完成を見るも應さに數月を出でざるべく加ふるに第二新棧橋の竣成を告ぐるに至らば本港交通上更に一大面目を發揮すべきや今より豫想するに餘りあり此の如く本港に於ける陸上交通機關は著々として其面目を革め來れると共に貨客の運輸交通狀態も亦年を逐ひ著しき增進を示すに至れり今左に釜山及草梁驛に於ける汽車發著貨客の統計等を揭げ以て其趨勢の一斑を示さんとす

釜山及草梁驛乘降車人員表

(イ) 乘車の部

	四十四年 釜山驛	四十四年 草梁驛	四十四年 計	四十三年 釜山驛	四十三年 草梁驛	四十三年 計	四十二年 釜山驛	四十二年 草梁驛	四十二年 計
一月	七、九二三	五、一五四	一三、〇七七	七、一九四	五、〇四一	一二、二三五	七、四四九	五、六〇六	一三、〇五五
二月	八、三九四	四、六五〇	一三、〇四四	一〇、六一七	四、三八二	一四、九九九	五、七七五	四、三五三	一〇、一二八
三月	一七、二二九	五、四〇〇	二二、六二九	九、〇七四	五、〇三一	一四、一〇五	九、七五六	五、〇九二	一四、八四八
四月	一七、八七一	五、五八六	二三、四五七	一七、七三二	五、四六一	二三、一九三	七、七七九	五、三五九	一三、一三八
五月	一五、三九九	五、七八一	二一、一八〇	一六、一二六	五、八〇一	二一、九二七	九、四二一	五、七九五	一五、二一六
六月	一二、二九五	五、二三九	一七、五三四	一一、九二一	五、一六〇	一七、〇八一	八、一二三	五、三四〇	一三、四六三
七月	一二、三〇六	六、二三〇	一八、五三六	一一、〇六八	五、一五〇	一六、二一八	七、四六三	五、四九四	一二、九五七
八月	一五、〇六七	六、六四一	二一、七〇八	一二、七四二	六、四四三	一九、一八五	八、二〇九	五、五〇六	一三、七一五
九月	一四、一八四	五、八一九	二〇、〇〇三	九、〇五八	六、二六四	一五、三二二	八、〇二六	五、五六一	一三、五八七
十月	一四、一三三	六、一二三	二〇、二五五	九、八七六	六、四六二	一六、三三八	八、一四八	五、四〇九	一三、五五七
十一月	一三、三五二	五、二七七	一八、六二九	一二、六四六	六、九一八	一九、五六四	七、三〇九	五、六〇九	一二、九一八
十二月	一二、九五七	五、三一八	一八、二七五	八、七五九	五、一四三	一三、九〇二	九、八八〇	五、〇三四	一四、九一四
計	一六二、一〇九	六七、一九八	二二九、三〇七	一三六、八一三	六七、二五五	二〇四、〇六八	九七、三三八	六三、二五八	一六〇、五九六

(ロ) 降車の部

	四十四年 釜山驛	四十四年 草梁驛	四十四年 計	四十三年 釜山驛	四十三年 草梁驛	四十三年 計	四十二年 釜山驛	四十二年 草梁驛	四十二年 計
一月	八、〇四三	五、二八五	一三、三二八	九、〇七一	五、三五四	一四、四二五	九、七〇三	六、〇四三	一五、七四六
二月	七、八五六	四、九〇八	一二、七六四	八、〇五三	四、一九五	一二、二四八	七、八五六	四、七六八	一二、六二四
三月	一一、九二九	六、四三一	一八、三六〇	一〇、〇五六	五、〇九四	一五、一五〇	九、二四三	五、九七三	一五、二一六
四月	一四、六五四	六、一二九	二〇、七八三	一四、四四〇	五、七二八	二〇、一六八	一〇、八八七	五、四八一	一六、三六八
五月	一二、八〇八	五、八八七	一八、六九五	一二、一四〇	六、七七八	一八、九一八	九、七六三	五、八三七	一五、六〇〇
六月	一二、八五三	五、三四二	一八、一九五	九、七四二	五、六六五	一五、四〇七	一〇、五三七	五、五八一	一六、一一八
七月	一一、二二五	五、五八二	一六、八〇七	一〇、〇〇六	五、一五三	一五、一五九	九、二〇〇	五、三三三	一四、五三三
八月	一三、五二一	六、六一二	二〇、一三三	一二、二三八	六、三三六	一八、五七四	一二、〇八五	五、八六七	一七、九五二
九月	一二、四四五	六、一七九	一八、六二四	一一、五六一	六、〇三二	一七、五九三	一〇、〇〇七	六、〇三五	一六、〇四二
十月	一三、一一一	六、四一五	一九、五二六	一三、八三三	六、九一八	二〇、七五一	九、九五八	五、七四四	一五、七〇二
十一月	一四、一〇二	五、四三一	一九、五三三	一二、三九七	五、七一三	一八、一一〇	一一、三四七	四、六八〇	一六、〇二七
十二月	一二、七七〇	五、三〇八	一八、〇七八	一一、五六九	五、一四九	一六、七一八	一〇、二五三	五、〇七六	一五、三二九
計	一四五、三〇六	六九、五〇九	二一四、八一五	一三五、一〇六	六八、一一四	二〇三、二二〇	一二〇、八三八	六六、四一八	一八七、二五六

釜山及草梁驛發着貨物噸數月別三ヶ年表

(イ) 發送の部

年	驛	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
四十四年	釜山驛	三、一六八	二、三三五	三、五〇六	二、七七〇	二、七四六	二、八七三	一、九三二	二、〇五三	三、二一五	二、三二一	二、八三八	三、七八〇	三三、四三六
	草梁驛	一、三三〇	一、三九八	一、〇一七	六一八	五七三	五九一	六五三	七五九	七八七	四三六	六二九	五五五	九、三三五
	計	四、四七八	三、七五三	四、五二三	三、三八八	三、三一九	三、四六四	二、五七三	二、八一二	四、〇〇二	二、六四七	三、四六七	四、三三五	四二、七六一
四十三年	釜山驛	二、四〇四	一、四七六	二、一〇五	四、三六七	二、九三三	二、三八〇	二、四一五	三、一一七	一、八三三	二、七七八	二、五一六	三、三八五	三〇、六〇九
	草梁驛	三、一二二	一、八二四	一、一六五	九八九	六五三	五三五	八八〇	八七四	八四一	一、三六九	一、〇八〇	一、一三四	一四、三五五
	計	五、五三五	三、三〇〇	三、一八〇	五、三五六	三、五八六	二、九〇五	三、二九五	二、九九一	二、六六四	四、〇四七	三、五九六	四、五一九	四四、九六四
四十二年	釜山驛	二、〇四七	一、八三三	二、六七三	一、六三五	一、六八五	一、五〇三	九三五	一、〇五八	一、六五〇	二、〇〇七	一、八七四	二、八四三	二一、七四三
	草梁驛	一、三〇三	一、三三五	九五一	一、三四八	九三三	一、五九三	一、六七四	九八八	一、〇六〇	一、三五〇	四七〇	一、三八五	一四、一七八
	計	三、三四九	三、〇五八	三、六二三	二、九八三	二、六一七	三、〇九六	二、六〇九	二、〇四六	二、七一〇	三、三五七	二、三四四	四、二二八	三五、九二〇

(ロ) 到着の部

年	驛	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
四十四年	釜山驛	五、九七〇	三、九七一	四、九八七	四、一一三	三、九二四	一、八三七	一、八七九	二、五一八	三、二三九	三、七二三	三、六七一	五、七五三	四五、五七三
	草梁驛	一五〇	一一七	六三	三〇	五三	三〇	八三	一四五	七五	二七	一九一	一六一	一、一二四
	計	六、一二〇	四、〇八八	五、〇四九	四、一四三	三、九七七	一、八六七	一、九〇二	二、六六三	三、三〇四	三、七四九	三、八六二	五、九一三	四六、六九七
四十三年	釜山驛	六、一九三	三、八八三	五、三三〇	五、四八二	六、四〇六	二、四三八	一、八七〇	四、四五八	五、五五七	九、七六八	六、五二三	九、五六二	六七、五八〇
	草梁驛	二二四	五八	二七七	一五〇	二三〇	一五一	二八〇	一〇五	四三	一一八	一五九	三四四	二、一一九
	計	六、四〇七	三、九四一	五、六〇七	五、六三二	六、七〇六	二、五八九	二、一五〇	四、五六三	五、六〇〇	九、八八六	六、六八二	九、九〇六	六九、六九九
四十二年	釜山驛	四、八一七	三、九八八	三、五一八	七、四三一	六、三三〇	三、三三〇	一、八六〇	三、三〇六	五、五六九	七、五七八	七、七四七	一〇、三三八	六五、五四三
	草梁驛	五六〇	四七三	一五	一、一五三	三三六	二八七	一六二	二一五	五三八	六三三	四三三	五二九	五、四三六
	計	五、三七七	四、四六一	三、七一八	八、五八三	六、五五六	三、五〇七	二、〇二二	三、五二一	六、〇九七	八、二〇〇	八、一八〇	一〇、七五七	七〇、九七九

釜山驛發着貨物重要品噸數表

(イ) 發送の部

品目	四十四年	四十三年	四十二年
食鹽	三、〇六三	一、八九九	二、一三六
繩叺及莚	一、〇八五	一、九七二	一、七八九

品目	醬油	砂糖	鮮魚	鹽干魚	海草	明太	酒類	食料品	石油	家具	金屬製品
四十四年	一一〇	五五〇	二、五九九	三、四六二	二、五一七	五一四	四七四	六〇五	二、一七〇	五八九	一、二八二
四十三年	一一八	二七二	一、四八七	三、三七四	一、七六一	三七四	四八六	三八七	一、九九三	一〇三	一、〇九九
四十二年	一三五	一六三	一、七四四	三、〇九五	九三三	五一八	五一八	二七一	一、八八一	二八五	六四一

品目	木材	綿反物	綿絲	陶磁器	滿寸	軍用品	貰	竹	其他	計
四十四年	二、六五三	七七四	二三二	一、〇一二	四七五	一、九三七	二九八	一二七	六、九〇五	三三、四三六
四十三年	三、六九〇	四八二	一四四	三八六	五〇七	二、九〇一	一四三	二五九	六、七七二	三〇、六〇九
四十二年	二、二五〇	四四二	二九一	一六二	四五六	八〇三	二三二	四五七	二、五四〇	二一、七四二

（ロ）到着の部

品目	米	麥	豆	雜穀	野菜	果實
四十四年	二二、九七五	一、二九七	九、〇七七	三、一二一	六〇三	三〇〇
四十三年	二八、七七一	三、九五〇	一四、二〇四	六、八七一	六九四	一五八
四十二年	二六、二四七	一、二三一	二五、〇三五	五、八三四	五〇二	一六三

品目	石	軍需品	綿反物	薪炭	金屬及製品	家具
四十四年	七	五〇五	四六〇	一一九	七九〇	一八〇
四十三年	七六九	二、七一〇	九九	三三五	四五一	一五九
四十二年	八〇六	一、三〇〇	六五	一五三	一八六	一二一

品目	牛皮	木材	其他	計
四十四年	一九一	三八九	四、四二〇	四五、五七三
四十三年	一五九	九八九	六、五三一	六七、五八〇
四十二年	一七八	一、三五九	一、六八〇	六五、五四三

草梁驛發着貨物重要品噸數表

（イ）發送の部

品目	明太	海草	鮮魚	鹽干魚	食鹽	綿反物	木材
四十四年	三、九七二	一、三九二	七七六	五〇四	二四九	一八	一四九
四十三年	六、四七三	一、〇四三	四三四	三五二	二一六	三五	一六二
四十二年	五、二五三	一、一一一	一五九	一、〇九九	三一八	四九	二九六

品目	竹	セメント	金屬及製品	石炭	其他	計
四十四年	四四三	一、一三五	一六四	二六	四九七	九、三二五
四十三年	二〇七	四、九二三	一四五	三	三六二	一四、三五五
四十二年	三七五	八四六	一〇二	四一六	四、一五四	一四、一七八

（ロ）到着の部

品目	明太	海草	鮮魚	鹽干魚	酒類	食料品	石油	家具	金屬製品
四十四年	三、九七二	一、三九二	七七六	五〇四	二四九	一八	一四九		
四十三年	六、四七三	一、〇四三	四三四	三五二	二一六	三五	一六二		
四十二年	五、二五三	一、一一一	一五九	一、〇九九	三一八	四九	二九六		

品目	竹	セメント	金屬及製品	石炭	其他	計
四十四年	四四三	一、一三五	一六四	二六	四九七	九、三二五
四十三年	二〇七	四、九二三	一四五	三	三六二	一四、三五五
四十二年	三七五	八四六	一〇二	四一六	四、一五四	一四、一七八

貿易商 五島合名會社

朝鮮釜山本町

電話長五三三番

電信略號（五）

（申付二三）

米	八三	二二三	四八〇	綿反物	二九	三九	六三
豆	一四六	六三九	八二八	藥材	四四	八〇	六四
麥	一六七	九二	一五三	麻布	七	一三	二七
雜穀	五六	二四五	二〇	其他	三八七	三九四	三、一四二
黑豆	一二一	一五八	一六〇	計	一、一二四	二、一一九	五四三六
粟	八四	二三六	四九九				
鉛							

本港に於ける交通運輸の年と共に發展の趨勢を示しつゝあるの狀況は前述の如くなるが之と同時に近年貨物と旅客とを問はず本港を發著地點とせず鮮內地と日本各地との間に直通する所謂直通聯帶貨客逐年增加の傾嚮を呈するに至れり是れ素より交通機關の發達に伴ふ自然の結果なりと雖も亦注目すべき一現象なりとす今之が趨勢を表示すれば左の如し

釜山港通過旅客出入數月別三ヶ年表

月別	出港			入港		
	四十四年	四十三年	四十二年	四十四年	四十三年	四十二年
一月	三、三一九	二、四七五	二、五一八	二、六二五	二、〇三三	一、九八六
二月	二、六〇七	二、二五八	一、八八六	二、七九三	二、四二〇	二、七〇七

釜山港移出入聯帶貨物月別三ヶ年表

(イ) 移出の部

月別	四十四年 個數	四十四年 噸數	四十三年 個數	四十三年 噸數	四十二年 個數	四十二年 噸數
一月	二九、四三〇	一、九七二	三六、七五六	二、四二三	一二、六二二	八五一
二月	一九、〇九三	一、二五一	二四、九二五	一、七〇九	一九、二〇七	一、二七〇
三月	三、八九五	二、九七五	二、三〇一	一、〇〇	六、一〇〇	四、二二五
四月	三、七五七	二、九九五	二、七二二	五、八八六	五、四二六	四、八三九
五月	三、六七二	二、六六〇	二、三八三	五、四二六	三、七四三	四、五三〇
六月	二、九一三	二、三七九	二、三〇四	三、七四三	三、二九八	二、九〇六
七月	三、三三四	三、〇七五	二、四八三	三、五三五	二、九〇六	二、八三二
八月	四、一八四	三、二一三	二、八九	四、四一〇	三、一八六	二、七三〇
九月	三、四〇三	三、〇四五	二、七七二	四、三九六	三、四三九	二、九〇九
十月	三、七八六	三、五九六	二、七一九	四、〇二八	三、二一七	三、〇三七
十一月	三、九三一	三、五一九	二、六三三	三、三一九	三、五三七	二、一九三
十二月	四、二八三	三、八六五	二、九五一	三、三三八	二、九七一	二、二八九
計	四三、〇八四	三六、〇五五	三〇、五六二	四九、五五九	四一、六〇一	三五、一二一

精米業

當精米所ハ當港精米界ノ率先者ニシテ創立最モ古ク確實叮嚀ヲ旨トシ顧客ノ眷愛信用ヲ得ツヽアルハ洽ク世人ノ認ムル處ナリ

尙將來一層信用ヲ重ンシ各位ノ御厚意ニ酬ンコトス御愛顧ノ上御用命ヲ賜ハラン事ヲ乞フ

營業科目

磨擦精米調製販賣並ニ委托取扱其他精米業一般ノ業務ヲ取扱申候

朝鮮釜山幸町

※釜山精米所

電略フ員電話二二一番
振替口座京城七六番

工場設備

米國紐育エンゲルバルク式第壹號形磨擦精米機　六臺
研磨機　貳臺

一日ノ搗精力優ニ百五十石

（中付二四）

（ロ）移入の部

月別	四十四年 個数	四十四年 噸数	四十三年 個数	四十三年 噸数	四十二年 個数	四十二年 噸数
一月	五七、六四〇	二、七〇四	三五、七九二	一、九七一	三〇、七二五	一、六一四
二月	五六、七九九	二、六八二	三七、一九〇	二、五〇八	三八、三三二	二、一五五
三月	六四、四六四	三、三八六	四六、二三七	二、九三四	四八、八一五	二、八三七
四月	六四、九六七	三、三三七	四四、二二三	二、六七九	四〇、八二一	二、三一五
計	二四五、〇四〇	一三、九三〇	三〇三、九二三	一八、九四七	一九八、七五一	一三、〇六二

月別	四十四年 個数	四十四年 噸数	四十三年 個数	四十三年 噸数	四十二年 個数	四十二年 噸数
三月	一九、八七一	一、二三八	一六、八六〇	一、一一二	一七、八二三	一、二四二
四月	一三、〇六〇	八三二	一八、一二八	一、一四〇	八、六七三	五五八
五月	一六、七二九	九一七	一三、九一二	八二九	九、一六七	五三六
六月	二〇、一六五	九五〇	八、一七八	三三九	五、七八七	三七一
七月	九、三六九	三七一	九、〇一九	四二五	三、二九九	二〇四
八月	一四、四四四	三五〇	一三、九三二	五九一	七、〇四四	四〇三
九月	一四、八〇八	六〇九	一〇、〇六六	五四三	八、二七三	五〇二
十月	二〇、三二三	一、一四七	五四、八〇七	三、六四一	二五、六八三	一、六八七
十一月	三九、七三二	二、五四〇	四八、六七〇	三、〇五一	二七、九九六	一、八四一
十二月	二八、〇一六	一、七五	四八、六七〇	三、一四四	五三、一七七	三、五九七
計	一三、九三〇	二四五、〇四〇	三〇三、九二三	一八、九四七	一九八、七五一	一三、〇六二

釜山港移出入聯帶貨物品別個數三ヶ年表

（イ）移出の部

品目	四十四年	四十三年	四十二年
米	一、九九九	六、三五〇	八、九八五
大豆	一四二、五四二	二〇二、四七五	一四三、四一五
麥	一一〇	一一、二九三	一三、三六四
鮮魚	三四二	四二六	九
肥料	一、四三九		
鉛	九、〇五三	五、五八六	一〇六
黒	五、七〇〇	五、二九一	五、八九九
牛皮	八一、九七六	七〇、八四六	一、九一八
雑品			二四、六三九

月別	四十四年	四十三年	四十二年
一月	六〇、九七四	三、四一一	四五、一二一
二月	六一、三三二	三、〇三二	三九、五六五
三月	四三、九三七	二、一六二	三四、六一二
四月	五一、五一〇	二、九一五	四〇、三九三
五月	四八、四九四	二、九〇九	四三、一六六
六月	六一、八七九	三、五七六	五七、三二〇
七月	八一、六九一	四、四四二	八一、五八五
八月	一一九、七一一	五、六〇〇	八一、五八五
九月	四〇、一五六	三、〇三二	四五、一二一
十月	五八六、七八九	三四、八三五	四四七、四九二
十一月	七七三、三九八	四〇、一五六	五八六、七八九
十二月	計	計	計

品目	四十四年	四十三年	四十二年
干魚	一、一九六	一、四三九	三九二
鹹魚	六八三	一八一	二四
木綿	一〇、二三八	八、二〇八	五、一一二
金巾	二〇、九三五	一三、六八五	四、三六〇
紡績糸	二三、四九三	一九、八二〇	一三、〇二五
野菜及生果	一一三、六五六	八四、四一〇	一八、五四〇
小麦粉	一二八、四五七	六〇、〇九五	四五、二五八
砂糖	三一、〇九五	一八、六六五	一一、九四二
呉	二一、一二二	一九、三五二	一五、一三三
繩	三、八〇五	五、一八九	四、七七七
セメント	一五三	二四、三五五	一五、六七五
ビール	一八、二一八	一三、九四八	一一、一〇四
清酒	二六、八六四	二八、四六〇	二七、三〇七
醤油	一三、〇四八	一〇、一六一	七、二八九
陶器	一五、六八五	一二、四二〇	一二、一八四
鍋釜	一三、一二五	一〇、八八四	七、〇〇五
鐵類	二〇、七〇一	二一、二一一	一一、八一〇
乾物	一六、四一七	一〇、九七二	七、四八五
曹達	一、四七五	一、三五八	六七一
煙草	三八、八五八	二一、二二六	一一、九二七
打綿	八、九三七	四、九九一	二、三八六
雑品	二四七、一一六	一九七、三七九	一五一、五〇二
計	七七三、三九八	五八六、七八九	四四七、四九二
計	二四五、〇四〇	三〇三、九二三	一九八、七五一

(ロ)　移入の部

釜山驛と各重要驛との距離

三浪津驛へ	三一哩	仁川驛へ	二八八哩
密陽驛へ	三九哩	開城驛へ	三一九哩
大邱驛へ	七八哩	平壤驛へ	四三五哩
倭館驛へ	九五哩	新義州驛へ	五八二哩
金泉驛へ	一一五哩	安東縣驛へ	五八三哩
大田驛へ	一七一哩	奉天驛へ	七七五哩
江景驛へ	二〇九哩	長春驛へ	九八一哩
南大門驛へ	二七五哩		

二　輕便鐵道

(イ)　東萊輕便鐵道

東萊輕便鐵道は釜山鎭東萊間六哩の間に敷設せられたるものにして始め本港有志者の發起に依り明治四十二年六月設立せられたる釜山軌道株式會社(資本金五萬圓の經營に係り東萊温泉場に於ける浴客を目的として企業せられたるものに

て當時同温泉場設備の整備に伴ひ浴客の數益增加し本港との交通漸く頻繁を加ふるに至りし爲め創業日尙淺きにも拘らず其營業成績頗る良好なりしが翌四十三年五月韓國瓦斯電氣株式會社(資本金三百萬圓、本社東京)の設立せらるゝに及び同年十二月軌道會社買收の協定成りて該輕便鐵道は遂に瓦電會社の經營に移り爾後線路及停車場の改善或は釜山鎭に於ける京釜鐵道との連絡等益諸般の施設に改善を加へ彼我交通の便を圖れり尙會社は該輕鐵線路を延長して東萊より蔚山、慶州を經て慶尙北道大邱に至るの幹線を敷設し更に慶州より浦項に又蔚山より長生浦に至る支線を設くるの計劃にして既に本年(四十五年)七月線路延長の許可を得たれば追て工事の施行認可を得たる上にて漸次工事に著手の豫定なれば近く一兩年を出でずして其竣工を見るに至るべく竣成の曉は本港の地方的交通機關として此方面に於ける交通運輸を便にし沿道各地の開發と共に本港商業の發展に資する所鮮少ならざるべし今瓦電會社に於て事業繼承以來の同輕鐵乘車人員を示せば左の如し

	乘車人員
自四十三年十二月 至四十四年十一月	二萬三千九百九十三人
自四十四年二月 至四十五年一月	十萬七千九百六十二人

(ロ) 市内電氣鐵道

韓國瓦斯電氣株式會社は其企業の目論見として電氣瓦斯の供給事業と共に市内電氣鐵道經營の目的を以て明治四十三年五月釜山理事官の認可を得たるものにして之に伴ふ命令條件に遵ひ市内電氣鐵道布設の計劃を以て目下既に工事の施工認可申請中に在り而して其認可を俟ち相當期間内に起工の豫定なれば早晩市街交通機關の實現を見市内交通上多大の利便を得るに至るべし今命令に依り敷設せらるべき市内の軌道線路を示せば左の如し

市内電車豫定線路

一、釜山停車場より起り停車場通、長手通幸町通を經て土城町に至り高等女學校前より轉じて大廳町通に至り更に大廳町通を經て埋立新町停車場通に達する道路

二、土城町高等女學校前角より南に新遊廓道路に至り更に轉じて新遊廓通より富平町に入り寶水町を經て富民町、監獄道路に至り南曲して裁判所前に

達する道路

三、釜山停車場より稅關山英國領事館山麓平跡新道路新市街榮町及草梁古館を經て釜山鎭停車場に達する道路

三　道路

本港に於ける陸上交通機關は前項に叙述せる鐵道線路の外在來の道路としては北方には草梁古館、釜山鎭を經由して東萊、機張、蔚山より慶州方面に至るものと一面東萊より分岐し梁山、密陽に至る所謂京城街道なるものと及釜山鎭より龜浦に出て金海、昌原方面に至るものとの三線あり又西方には大峙峠を通じ下(ヘ)滿に出て洛東江流を横斷し更に麻川、熊川を經て鎭海灣、馬山方面に至るものと一は金海、進永方面に出るものとの二線を有するのみにして其他は僅に附近に散在せる漁村或は小部落に通ずる細逕小路に過ぎず而して本市街より大峙峠を通じて洛東江物資の陸揚地たる下滿に至る道路は久く改修の計畫ありしが今や近く將に著手せられんとするの機運に到れるを以て爾今同方面の交通運輸は新に其の便利を見るに至るべし又市内交通機關としては嚮に韓國瓦斯電氣株式會社に於て市街

電氣鐵道敷設の計劃あり既に許可を得つゝあれば數年を出てずして其敷設を見るべく市内交通上一層の便を加ふるに至るべし

三　其他の陸上輸送機關

本港に於ける陸上輸送機關として使用せらるゝ人車、牛馬車、勞力及運送業者の員數等を掲ぐれば左の如し

一、諸車及勞力

牛車	八四臺	（一臺に付五斗叭十俵内外）
荷車	六一臺	（一臺に付五斗叭七俵内外）
人力車	九四臺	（一人乘）
擔(タン)軍	約六〇〇人	（一人に付五斗叭一俵）
仲仕	約八〇〇人	

二、運送業者

内國通運釜山出張所

㈱韓國興業運送部

㈱小野組合資會社

㋐運送店（今）釜山運輸會社
全運送店(鮮人)
㋕滿韓運輸會社
㋑運送店（赤）赤間組
㋖魚仲買問屋組合
㋒運送店（今）國內運輸會社
㋓運送店（日）日の出組
㋔國內通運社
（以上鐵道承認運送店）
釜山埋立大倉町　韓國興業運送部　小林靜
同　同　釜山運輸合資會社　吉井省次
草梁二區三四　㋓通運社　—
釜山岸本町　合資會社小野組運送店　小野和一
同　高島町　合資會社岩橋運輸部　猶崎巳之吉

第二節　水上交通

一　關釜連絡航路

福喜洋行染料　化粧品、石鹸
日月票洋蠟　和洋紙、帳簿、鏡
洋傘雨傘　沓下、手袋、シャツ
學校用品　麻裏、花札、帶皮
帽子各種　硫黄、明礬、素麺

内外雜貨
鍋釜金物卸問屋

双鹿票燐寸　▲製農具類
バラツ▲票洗曹達　▲製新製釜
弗入鞄各種　洋釘、鋼、バケツ
毛布、タヲル　金物類全部
首卷、足袋　鍋釜鑄物類
（時期物全部取揃居候間御一報次第相場表御送申上候也）

朝鮮釜山本町三丁目
商號
近藤商店
店主　富原研二
電話七六八番
振替京城三五八番
電略(コ)又ハ(コン)

建築用諸金物
各種ストーブ
卸小賣 ㊇ **福原金物店**
釜山大廳町二丁目大松ノ傍
電話四三番
眞鍮、ニッケル、鐵製細工品ハ弊店最モ特色トス

建築工事
製圖
設計幷ニ工事請負
監督
依賴ニ應ズ
釜山大廳町二丁目大松ノ傍
主務 **福原工務所**
福原定一
電話四三番

關釜連絡航路は鐵道院の所管に屬し日鮮間鐵道に於ける唯一の連絡機關にして下關釜山間の定期航海に從事し釜山稅關新棧橋に於て釜山驛發著の列車に接續す本航路は始め明治三十八年京釜鐵道の開通するや同年九月山陽鐵道株式會社が日韓間に於ける貨客輸送の便を圖らんが爲め關釜間に壹岐對馬の二汽船を以て航運を開始せしに起源せるものにして日鮮間の交通は是より一進展を見るに至れり次て日露戰役後鐵道國有の實施せらるゝに及び更に鐵道院の所管に移り爾來日韓交通の發達に伴ひ漸次有力なる增船を爲し近時義勇艦櫻丸、梅香丸の如き設備完美なる大船を加へ益其輸送力を增加し殊に本年(四十五年)六月十五日より滿鮮直通急行列車の本港まで延長せらるゝに及び益船車の連絡を敏速にし以て歐亞交通旅客の便を圖らんが爲め配船、速力其他の設備に一層の改善を施し交通上大に其面目を一新せり今本航路現在の配船、賃金及連絡船開始以來の本港發着貨客數等を示せば左の如し

關釜連絡船名

船名	總噸數 登簿噸數	載貨吃水	航海度數	起點終點	取扱店	船主或は借船者
梅ヶ香丸	三、二七三 一、七六七	二三、〇	六十回毎日午前及午後二回發着	下ノ關 釜山	西管船舶課 派出所	帝國海事協會
櫻丸	三、二〇五 一、七三一	—	同上	同上	同上	同上
弘濟丸	二、六三五 一、四二三	二一、六	同上	同上	同上	日本郵船會社
壹岐丸	一、六九二 九一四	六十回毎日午前及午後二回發着	同上	同上	同上	鐵道院
對馬丸	一、六九二 九一四	一二、六	同上	同上	同上	同上
薩摩丸	一、九四六 一、二〇七	一八、三	同上	同上	同上	原田十次郎

備考

一、普通船車連絡(毎日晝夜二回)

一、滿鮮直通船車連絡(毎週三回火、木、土の三曜日)

但關釜間百二十一浬の連絡船航海時間は普通十一時間なるも毎週三回(火、木、土)滿鮮直通急行列車に連絡するものは特に一時間半を短縮す

一、連絡船貨金

一等　金拾圓　二等　金六圓　三等　金三圓

關釜連絡船開始以來貨客數

旅客

年次	乘船人員	降船人員
三十八年	九、五三八人	一七、四七一人
三十九年	四四、一六二人	四八、五一一人
四十年	五〇、〇七九人	五二、九六〇人
四十一年	五六、九四五人	六三、〇六九人
四十二年	五五、七三五人	六三、三六五人
四十三年	六三、八八四人	七三、九三七人
四十四年	八〇、九二六人	九一、三四九人

貨物

年次	釜山港發着貨物 發送 個數	發送 噸數	到着 個數	到着 噸數	直通中繼貨物 發送 個數	發送 噸數	到着 個數	到着 噸數
三十八年	二七、九四三	一、六八八	三八、七三	二、五五二	一、五五二	九七	二、六六五	六九九
三十九年	一一四、二七〇	七、一五三	二七、八九七	一、七〇二七	一、七〇二七	六三七	一、三六、一二三	七、五三七
四十年	一五一、四六九	一〇、〇二八	一四、四五九	八六、二七八	五六、二七八	二、三三五	一四七、四六一	七、三三八
四十一年	一三三、五八五	八、〇二四	一二、〇四五七	七一、三五四	五四、六六四	三、四五二	三六、六四一六	一九、四一三
四十二年	二一一、三〇〇	一四、〇三二	一八、八四四	一〇七、八四八	一九六、九二二	一三、〇五二	四七、三四、四〇八	二七、七九一
四十三年	三七、四六八	一五、一四六			二八、一〇二〇	一八、九四二	五六、七七八	三四、三四三

四十四年

二　外國及內地航路

本港內地間に於ける汽船航路の開始を見るに至れるは今より既に三十餘年前に在り明治九年日韓修好條規の締結と共に本港の彼我通商地として開港せらるゝや三菱會社は當時早くも航路を本港に開き汽船浪花號を以て毎月一回日韓間の郵便船として本港と內地間との航運に從事し爾後帆船の來往も亦漸く增加するに至りしが其後日韓通商關係の年を逐ひ進歩するに及び同十八年に至り日本郵船會社は本港に出張店を設けて航路を開き次で二十三年大阪商船會社も亦出張所を設置して大阪釜山線を開始するに至り爾來彼我交通貿易の發達に伴ひ兩社は著々其航路を擴張し其輸送力を增加せしのみならず尙社外船或は九州一二縣の補助航路船の發著若くは寄港する者も亦漸次增加するに至り今や內地との船舶交通は航路縱橫定期船あり不定期あり將た臨時船ありて其海運の頻繁殷盛なる之を明治二十年前後彼の郵船商船二會社の僅に小噸數汽船を以て而も貨客乘降積卸の爲め自ら艀船を搭載（本港に艀船なき爲め）して來往したるものありたりと云ふが

如き當時の海運狀況に較すれば航路の繁閑、船舶の大小設備の整否等其差霄壤月鼈も啻ならず人をして殆ど隔世の感なき能はざらしむるものあり而して現今本港內地間の航路は彼我直接の航路なく何れも他航路船の寄港に屬すと雖も各線路の定期寄港數を合すれば其數既に一ヶ月約三十回に及び加ふるに不定期船と晝夜二回發著の連絡船とを以てするあり而も尙貨物移動の旺盛期に際しては臨時船に俟つにあらざれば貨物の積取を完ふし其疏通を圓滑ならしむる能はざるの場合あるを免れず亦以て本港內地間に於ける運輸交通發展の狀を推知するに足れり次に本港に於ける對外航路に關しては近年本港より露領浦鹽港へ穀の輸出盛に行はれ其額も亦尠なからず是等は主として內地浦鹽航路の寄港船に依り輸送せられ其外內地大連線に依り大連に對する多少の輸出入ありと雖も其他の對外關係に就ては由來本港の外國貿易たる其輸出入の徑路何れも長崎下關神戶等內地經由に依り行はれつゝあり未だ直接航路の存するものなく又外國船舶の定期に出入するものなし唯英米石油の如き生產者より直接輸入し來る石油積載船の時々入港するものあると獨逸船の

稀に機械類輸入品を搭載して直接輸送し來るものあるに過ぎざるを以て外國船舶の出入は一年を通じ僅に三四隻に過ぎず今左に本港に關係ある航路配船表を始め船舶及旅客の出入に關する各種の統計等を掲げ其交通の概況を示さんとす

內地航路名

神戸浦鹽線　大阪仁川線
大阪清津線　釜山博多線
長崎大連線　門司雄基線

同上配船表（大正元年九月現在）

航路	船名	總噸數 登簿噸數	航海度數	自由命令	主要寄港地	取扱店	船主或は借船者
神戸浦鹽汐線	立神丸	二、七〇三 一、六七六	三週一回	命令	門司、長崎、釜山、元山、清津、	大池回漕部	日本郵船株式會社
大阪清津線	第三琴平丸	一、九七九 一、四九四	同	同	神戸、宇品、門司、釜山、元山、西湖津、新浦、城津、	同	川崎芳太郎
	臺北丸	二、七九六 一、七三三	一ヶ月三回	命令		大阪商船支店	大阪商船會社
	神宮丸	三、〇〇二 一、八六一				同	岸本雉太郎

長崎大連線	安東丸	八〇三 四九八	一ヶ月二回	命令	伊萬里、郷ノ浦、嚴原、釜山、木浦、群山、仁川、鎭南浦、	同	大阪商船會社
大阪仁川線	油頭丸	一、〇四五 六四八	一ヶ月八回	自由	神戸、關門、釜山、馬山、木浦、群山、	同	尼崎伊三郎
	温州丸	一、二〇二 七四五		命令		同	同
	隅田川丸	七四六 四六二		自由		同	同
	須磨丸	一、五六〇 一三二		命令		同	同
	神代丸	九七八 六〇七	三週一回	自由	神戸、下關、釜山、木浦、群山、	同	同
	秀吉丸	六九六 四三一	一ヶ月二回	同		同	同
	大有丸	六六一 四一〇		同		同	同
	君ケ代丸	六六〇 四〇九		同		同	同
釜山博多線	天祐丸	四三八 二七二	一ヶ月二回	自由	嚴原、佐須奈、	澤山兄弟商會	對馬運輸汽船會社
門司雄基線	江原丸	七六二	一ヶ月三回	自由	釜山、元山、西湖津、前津、新浦、新昌、鏡湖、端川、城津、明川、淹大津、獨津、淸津、	朝鮮郵船株式會社	朝鮮郵船株式會社
	忠淸丸	七六二				同	同

釜山港貿易船入隻數及噸數十ヶ年表

年次＼船種	汽船 隻数	汽船 噸数	帆船 隻数	帆船 噸数	ジャンク船 隻数	ジャンク船 噸数	合計 隻数	合計 噸数
三十五年	七八六	三七九、六二二			六二三	八、六二九	一、七四三	四一〇、一六一
三十六年	八四五	四九九、五五八			七七七	九、八三九	二、〇一八	五三四、一六一
三十七年	一、〇三八	四三三、七一九			六九九	八、八〇〇	二、〇九九	四六二、六三〇
三十八年	一、三五〇三	七一八、八六二			一、〇〇一	一六、三六六	二、九四一	七四四、〇三〇
三十九年	一、七二二	九九九、九五四			一、二九五	一八、七四九	三、三八七	一、〇三八、〇六四
四十年	一、八五九	九五四、四〇四			一、六四二	二六、〇一六	三、六二〇	一、〇〇一、四九一
四十一年	二、〇三一	一、〇四五、三八六			一、一〇三	二六、三八一	四、五四九	一、二〇〇、八六三
四十二年	二、四七六	一、二二三、六九五			二、三六六	四〇、八四四	五、五〇〇	一、三七六、八四六
四十三年	三、〇三一	一、二六五、八六二			二、九三九	三六、八〇七	六、七一七	一、三三三、九五〇
四十四年	三、五五八	一、三〇三、五〇二			二、九三九	三〇、五八四	八、一八六	一、三八八、六八六

船種＼年次	帆船 隻数	帆船 噸数	ジャンク船 隻数	ジャンク船 噸数	合計 隻数	合計 噸数
三十五年	三四三	二一、八八〇	六二三	八、六二九	一、七四三	四一〇、一六一
三十六年	三九六	二四、四六四	七七七	九、八三九	二、〇一八	五三四、一六一
三十七年	三三三	二〇、一四三	六九九	八、八〇〇	二、〇九九	四六二、六三〇
三十八年	三三八	一八、八四三	一、〇〇一	一六、三六六	二、九四一	七四四、〇三〇
三十九年	三七〇	一九、三五一	一、二九五	一八、七四九	三、三八七	一、〇三八、〇六四
四十年	三六九	二一、〇二一	一、六四二	二六、〇一六	三、六二〇	一、〇〇一、四九一
四十一年	四一五	一九、〇九六	一、一〇三	二六、三八一	四、五四九	一、二〇〇、八六三
四十二年	四五八	二二、七九七	二、三六六	四〇、八四四	五、五〇〇	一、三七六、八四六
四十三年	七四三	三一、二八一	二、九三九	三六、八〇七	六、七一七	一、三三三、九五〇
四十四年	一、八八九	四五、三〇〇	二、九三九	三〇、五八四	八、一八六	一、三八八、六八六

備考　本表中四十年以前は沿岸貿易船の入港數を合算しある由に付四十一年以降の分にも沿岸貿易船の入港數を合算し置けり

釜山港外國貿易船國籍別出入數三ヶ年表

(一) 出港の部

SHIPPING & LANDING AGENT

TEL. No. 858.

KAISHŌGUMI

T. HARADA.

艀運搬、賃貸借。海陸運送。
船舶炭水供給。水先案内。
海陸人夫供給。
船舶賣買、貸借仲立業。

釜山
山海商組

原田常太郎

釜山埋立　大倉町
電話番號　八百五十八番
發信略號　ハ又ハラ

（申付二七）

(ロ) 入港の部

種別	國籍別	四十四年 隻數	四十四年 噸數	四十三年 隻數	四十三年 噸數	四十二年 隻數	四十二年 噸數
汽船	日本内地	一、四七六	一、三三六、九四三	一、四〇二	一、一六、一〇五	一、三七八	一、一一、三八四
	朝鮮	三	九、三七二	八	三、九八一	一八	一〇、一二二
	英國	一	二、五四九	二	五、一九七	一	三、九二三
	獨逸	—	—	一	二、五六二	二	三、一八五
	和蘭	一	五五七	二	二、〇九二	—	—
	露國	—	—	—	—	—	—
	計	一、四八一	一、三四九、四二一	一、四一四	一、一二九、九三七	一、三九九	一、一二八、六一四
帆船	日本内地	八一九	三六、八七一	五六六	二七、〇三〇	四一一	二一、七二五
	朝鮮	—	—	—	—	五	二二六
	計	八一九	三六、八七一	五六六	二七、〇三〇	四一六	二一、九五一
ジャンク	日本内地	八一四	九、六五六	七九一	一〇、六七三	八六四	一五、四一八
	朝鮮	—	—	一	二七	一	二八
	計	八一四	九、六五六	七九二	一〇、七〇〇	八六五	一五、四四六
通計		三、一一四	一、三九五、九四八	二、七七二	一、一六七、六六七	二、六八〇	一、一六六、〇一一

海陸貨物運送取扱
税關貨物取扱
危險擔保附運送

品代金付貨物運送
資本金百貳拾五萬圓
積立金六拾萬圓

E通E

内國通運株式會社

創立　明治五年
本社　東京市
支店　全國七十一ヶ所
出張所
荷扱所
取引店　全國千三百八十四ヶ所

朝鮮釜山
釜山出張所

電話　釜山驛前九〇四番
同　長五三七番
草梁驛前六一六番
振替貯金京城八九二番

(中付二八)

釜山港海外旅客出入十ヶ年表

種別	國籍別	四十四年 隻數	四十四年 噸數	四十三年 隻數	四十三年 噸數	四十二年 隻數	四十二年 噸數
汽船	日本内地	一、四九二	一、三三六、一六一	一、四一三	一、一二一、七九一	一、三九二	一、一〇九、六三八
	朝鮮	三	九、三七二	一三	六、四九六	二七	一二、〇三五
	英國	一	二、五四九	二	五、一九七	一	三、九二三
	獨逸			一	二、五六二	二	三、一八五
	和蘭				二、〇九二		
	露國	一	五五七				
	計	一、四九七	一、三四八、六三九	一、四三〇	一、一三八、一三八	一、四二二	一、一二八、七八一
ジャンク	日本内地	八九九		五六六		四一二	
	朝鮮	八九九	一〇、二四七	二七、六八〇	一〇、七〇九	三	一三六
	計	八九九	一〇、二四七	二七、六八〇	一〇、七〇九	四一五	二〇、九三五
帆船	日本内地	八四八		七八七		八九三	
	朝鮮	八四八	三七、七六五	二	五六	三	六三
	計	八四八	三七、七六五	七八九	一〇、七六五	八九六	一五、七四二
通計		三、二四四	一、三四六、五五一	二、七八五	一、一七六、五八三	二、七三三	一、一六五、四五八

海外旅客國籍別出入表

年次	出港	入港
三十五年	一四、〇八〇	一七、二九六
三十六年	一九、三九八	二二、六一四
三十七年	二五、九六四	三〇、六二四
三十八年	四二、七九四	五〇、〇六六
三十九年	五八、四五六	七三、五七一
四十年	四一、〇一一	五三、一七六
四十一年	二、三二二	二、一一二
四十二年	一三九	一三一
四十三年	二二七	二二五
四十四年	三八九	四二四
其他の外國人	一三四	一二六
計	九一、二二二	七四、七六四
四十二年	七一、九六四	五三、一七六
四十三年	一、九〇〇	二、一一二
四十四年	一九一	一三一
四十五年	一七一	一二五
四十六年	四一二	四二四
四十七年	一二六	七九
計	七四、七六四	五六、〇四七
四十二年	一〇九、六七五	九二、九二九
四十三年	二、四九八	二、四五六
四十四年	二二一	三〇一
四十五年	二〇八	二三三
四十六年	五四六	四九九
四十七年	一六九	二三三
計	一一三、三一七	九六、六五一
四十二年	九一、二二二	七七、〇三三
四十三年	七四、七六四	五六、〇四七
四十四年	一一三、三一七	九六、六五一
四十五年	一二、〇四二	一〇、一二二
四十六年	一、一〇九	一、一二二
四十七年	一、一〇九	一、一二二
計	二二九、二九六	二二四、六七〇

海外旅客國籍別出入表

年次	出港	入港
三十五年	一四、〇八〇	一七、二九六
三十六年	一九、三九八	二二、六一四
三十七年	二五、九六四	三〇、六二四
三十八年	四二、七九四	五〇、〇六六
三十九年	五八、四五六	七三、五七一
四十年	四一、〇一一	五三、一七六
四十一年	二、三二二	二、一一二
四十二年	一三九	一三一
四十三年	二二七	二二五
四十四年	三八九	四二四
其他の外國人	一三四	一二六
計	九一、二二二	七四、七六四
四十二年	七一、九六四	五三、一七六
四十三年	一、九〇〇	二、一一二
四十四年	一九一	一三一
四十五年	一七一	一二五
四十六年	四一二	四二四
四十七年	一二六	七九
計	七四、七六四	五六、〇四七
四十二年	一〇九、六七五	九二、九二九
四十三年	二、四九八	二、四五六
四十四年	二二一	三〇一
四十五年	二〇八	二三三
四十六年	五四六	四九九
四十七年	一六九	二三三
計	一一三、三一七	九六、六五一
四十二年	九一、二二二	七七、〇三三
四十三年	七四、七六四	五六、〇四七
四十四年	一一三、三一七	九六、六五一
四十五年	一二、〇四二	一〇、一二二
四十六年	一、一〇九	一、一二二
四十七年	一、一〇九	一、一二二
計	二二九、二九六	二二四、六七〇

海外旅客出入數月別表

釜山港と各重要港との距離

年次 / 月次	出港			入港		
	四十四年	四十三年	四十二年	四十四年	四十三年	四十二年
一月	七、一八七	四、一〇三	四、六五五	六、五五六	四、四一八	四、二四〇
二月	六、一六六	四、四五一	三、六九六	八、四一九	四、八四七	五、七八四
三月	八、五四六	五、〇九三	四、六〇八	一三、四二三	八、三四六	七、四九六
四月	八、〇四〇	五、四〇七	五、四二八	一三、二二四	九、一三八	九、一三八
五月	七、六五三	四、七四四	四、二八四	一一、六一八	九、二六七	八、三二七
六月	四、四三〇	四、七六七	四、三九〇	八、三六八	五、八九〇	五、九一五
七月	七、〇〇九	八、九〇二	四、三二九	八、〇二一	九、九二七	六、九九三
八月	八、七〇〇	七、〇五六	五、九九三	九、五八五	八、一二九	六、七〇六
九月	七、四九七	六、五一五	四、六一六	九、七六九	八、九一五	五、九六一
十月	七、九一九	八、〇七七	四、九六〇	九、〇七九	一〇、一三二	六、一九五
十一月	七、四七一	七、四一二	四、二五四	七、二四〇	八、七四二	四、九〇九
十二月	八、六〇四	八、二三七	四、八三四	八、〇一五	八、〇二九	五、三六九
計	九一、二二二	七四、七六四	五六、〇四七	一一三、三一七	九六、六五一	七七、〇三三
一ヶ月平均	七、六〇二	六、二三〇	四、六七二	九、四四三	八、〇五四	六、四一九

元山へ　二九七浬　神戸へ　三六一浬
清津へ　四一二浬　横濱へ　七一三浬
馬山へ　三八浬　敦賀へ　三五七浬
木浦へ　二〇〇浬　安東縣へ　五八三浬
群山へ　三三九浬　大連へ　五八三浬
仁川へ　四一四浬　芝罘へ　四八三浬
鎭南浦へ　四九五浬　天津へ　七一九浬
下關へ　一二一浬　青島へ　四七九浬
長崎へ　一六三浬　浦鹽へ　五一三浬

三　沿岸航路

從來本港と沿岸他開港場間の海運は日本郵船會社若くは大阪商船會社の航路に依り其便を得つゝありしと雖も沿岸不開港地間の交通に至りては唯僅に在來の朝鮮筌船（センペイ）に依るの外他に輸送機關なかりしが夥に目賀田韓國財政顧問は韓國產業開發上沿岸航路の急務なるを認め明治三十九年六月技師をして先づ所謂三南

多島海の狀況を視察し沿岸航路の計劃に付調査せしむる所ありしが當時恰も釜山有志者間にも沿岸航路の計劃あるを機とし有志者に勸誘するに會社發起の事を以てしたる結果議遂に熟し本港有志者十三名及朝鮮人五名發起となり明治四十年七月資本金百萬圓を以て愈會社設立の計劃を立て韓國政府へ補助下附の請願書を提出し越て四十一年二月更に其計劃を變更し資本金を六拾萬圓に減資して補助下附の追願を爲せしに韓國政府は之を許可し三箇年間毎年三萬圓宛を補助する事に決し同年五月補助命令書を下附(後命令條件の變更あり)せられたるを以て同年十二月此命令の下に釜山汽船株式會社なるもの成立し同月より營業を開始するに至れり是れ即ち本港に於ける沿岸航路の一新紀元にして爾來本港を中心とせる南北兩沿岸に於ける命令航路及自由航路の運輸に從事し本港沿岸貿易の發達を幇助すること尠なからざりしが其後松江合同汽船會社の本港に出張所を設け數隻の汽船を以て沿岸航路の輸送を開始するや自然相互競爭の態度を取るに至りしも後協議の上釜山汽船會社に於て合同汽船を買收するに至りしが幾くもなくして釜山商船組回漕部は更に數隻の汽船を備船して新に本港の北部

及南部兩沿岸に航路を開始せし爲め一層の輸送力を增加し沿岸交通貿易上益利便を加ふるに至りしも沿岸貿易の趨勢は年一年益膨脹し到底現在の輸送力を以てしては今後の發展に伴ふ能はざるを以て四十四年末補助期間の滿了と共に更に沿岸航路の擴張統一を圖り一大海運機關設立の議起り現今朝鮮沿岸に於ける三補助航路(釜山汽船株式會社の韓南航路、元山吉田秀次郎の北韓航路及木浦福田有造の全羅南北道航路)の經營者相議し日本郵船會社及大阪商船會社とも相謀り從來の三航路を撤廢し合同の下に更に資本金三百萬圓を以て朝鮮郵船株式會社設立の事を決し四十五年二月會社設立並補助金下附の件を總督府へ出願せしが總督府に於ても夙に沿岸航路統一の必要を認め居れるを以て直に之を許可し三ヶ年間毎年貳拾四萬圓宛を補助する事となり命令書を下附せられたり是に於て會社は前三航路の事業を繼承して同年四月一日より營業を開始するに至り爾來著々航路の改善を爲し沿岸交通運輸の便を計りつゝあるが今同社經營の航路中本港を中心とせる航路名及配船表並本港出入の一般沿岸貿易船表等を揭げ以て本港沿岸航路の概況を示さんとす

沿岸航路名

釜山元山線
釜山雄基線
釜山方魚津線
釜山木浦外廻線
釜山木浦內廻線
釜山統營線
釜山巨濟府線

同上配船表

（大正元年十月現在）

航路	船名	總噸數 登簿噸數	航海度數	自由命令	主要寄港地	取扱店	船主或ハ借船者
釜山雄基線	咸鏡丸	八〇二 四九七	一ケ月三回以上	命令	蔚山、迎日灣、丑山浦、竹邊、三陟、江陵、襄陽、杆城、長箭、元山、西湖津、前津、新浦、新昌、遮湖、端川、城津、明川、漁大津、獨津、淸津、	朝鮮郵船株式會社	朝鮮郵船株式會社
釜山雄基線	黃海丸	八〇三 四九八	同	同	同	同	同
釜山盈德線	新庄丸	一一七 一〇六	一ケ月十回以上	自由	大邊、長生浦、方魚津、甘浦、九龍浦、浦項、寧海	同	同
釜山元山線	三浦丸	三八六 二三九	一ケ月三回	同	長生浦、迎日灣、丑山浦、竹邊、三陟、江陵、襄陽、杆城、長箭、平川（庵底）	同	同

釜山方魚津線	麗水丸	一五八 九三	每日	命令	長生浦	同	同
釜山鬱陵島線	迎日丸	八一 四五	一ケ月二回以上	同	迎日灣	同	同
釜山筏橋線	長承丸	六〇 二八	一ケ月六回以上	自由	麗水、順天	同	同
釜山木浦麗水間線	順天丸	一一三 一一八	一ケ月十回	同	右水營、莞島、長興、興陽、羅老島	同	同
釜山木浦內廻線	統營丸	一九四 一二〇	以上	命令	行巖、薦馬山、新馬山、統營、三千浦、船津、長橋、露梁津	同	同
釜山木浦麗水間線	晋州丸	一七二 一〇〇	二十回	命令	行巖、薦馬山、新馬山、統營、三千浦、船津、長橋、露梁津	同	同
釜山木浦麗水間線	慶寶丸	一八二 一〇五	一ケ月	命令	行巖、薦馬山、新馬山、統營、三千浦、船津、長橋、露梁津	同	同
釜山統營線	長興丸	七六 四六	一ケ月十五回	自由	加德、熊川、縣洞、薦馬山、新馬山、松眞浦、河淸面、蜂屋村、城浦	同	同
釜山巨濟府線	岩崎丸	一三三 一七二	日發	同	熊川、縣洞、薦馬山、新馬山、塘洞（固城）、統營、	同	同
釜山巨濟府線	三五丸	一二〇 六四	同	同	長承浦（巨濟島）、麗水、巨文島、牛島、朝天（濟州島）、山地（濟州島）、楸子島	同	同
釜山木浦外廻線	大和川丸	二七〇 一六七	一ケ月八回以上	命令	同	同	同
釜山木浦外廻線	江陵丸	二〇二 一二五	同	同	同	同	同

釜山清津線	釜山	顯益丸	七、九四四	一ケ月三回	自由	元山、西湖津、前津、新浦、厚湖、新昌、遮湖、端川、城津、獨津	岩橋回漕店	大韓協同郵船會社
		蒼龍丸	六〇四〇三				同	同
釜山馬山線	鳥羽丸		四八二五	毎日一回	同	縣洞、舊馬山、新馬山	澤山兄弟商會	島根縣廳

釜山港沿岸貿易船國籍別出入數三ヶ年表

(イ) 出港の部

種別	國籍別	四十四年 隻數	四十四年 噸數	四十三年 隻數	四十三年 噸數	四十二年 隻數	四十二年 噸數
汽船	日本内地	二、〇六九	一五五、一八〇	一、四〇三	一〇一、三六六	八五五	五〇、一七一
	朝鮮	二、〇六九	一五五、一八〇	二〇五	三二、八七三	一七六	三三、二一〇
	計	二、〇六九	一五五、一八〇	一、六〇八	一三四、二三九	一、〇六一	八三、三八一
帆船	日本内地	八五七	一七、〇七五	一六八	三、七〇三	四六	一、四九九
	朝鮮			六	一二一	四	一六二
	計	八五七	一七、〇七五	一七四	三、八二四	五〇	一、六六一
ジャンク	日本内地	二、〇六〇	二〇、五七六	一、四一四	一六、〇二九	一、〇二二	一四、六九三
	朝鮮			七八五	一〇、二五五	六五八	一〇、五二一
	計	二、〇六〇	二〇、五七六	二、一九九	二六、二八四	一、六八〇	二五、二一四

(ロ) 入港の部

種別	國籍別	四十四年 隻數	四十四年 噸數	四十三年 隻數	四十三年 噸數	四十二年 隻數	四十二年 噸數
汽船	日本内地	二、〇六一	一五四、八六三	一、三九二	九六、一九一	八八〇	五〇、八八〇
	朝鮮	一九九	一六、七三五	一九九	三一、五三三	一七四	三四、〇三四
	計	二、〇六一	一五四、八六三	一、五九一	一二七、七二四	一、〇五四	八四、九一四
帆船	日本内地	八四一	一六、七三五	一七〇	三、四八〇	三九	一、二〇一
	朝鮮			六	一二一	四	一六一
	計	八四一	一六、七三五	一七六	三、六〇一	四三	一、三六二
ジャンク	日本内地	二、〇四〇	二〇、三三七	一、三六二	一五、四四八	一、〇一四	一四、五三〇
	朝鮮			八〇三	一〇、五九四	六五六	一〇、五八二
	計	二、〇四〇	二〇、三三七	二、一六五	二六、〇四二	一、六七〇	二五、一一二
通計		四、九四二	一九一、九三五	三、九三二	一五七、三六七	二、七六七	一一一、三八八

通計		四、九八六	一九二、八三一	三、九八一	一六四、三四七	二、七九二	一一〇、二五六

四　洛東江水運

洛東江は流長約百里朝鮮三大河の一と稱せられ釜山を西に距る約二里釜山府沙

下面下湍の前面に於て海に朝する大河にして其泝上航程約七十里其間毎年一、二月の交結氷時期を除くの外一年を通じ通航することを得殊に河口より上流約十二里密陽郡三浪津に至る迄は水深多くして洋航帆船も自由に航行することを得舟楫頗る便にして本港に對する重要水運の一となす本航路は京釜鐵道開通前に在りては本港と朝鮮内地間との唯一の運輸水路たりしものにして本港に集散する穀物、雜貨、食鹽等物資は總て此水運に依れるものなり然れども京釜鐵道開通以來は貨物の大部分は漸次鐵道便に吸收せられたるのみならず奥地より本水路を利用して下航する穀物と雖も其多くは本江と鐵道との接觸地點たる倭館、三浪津若くは龜浦等に於て鐵道輸送に接續せらるゝの現狀なりと雖も本江流域に於ける沿岸各地間に上下する物資は今尚本水運に依るもの亦尠なからず單に穀物のみを以てするも一ヶ年五十萬石を下らずと云ふ今最近三ヶ年間に本水路に依り江口下湍に集り更に外海より本港に廻漕せられたる穀物を示せば左の如し

品目	四十四年	四十三年	四十二年
米穀	二六、五五四俵	三〇、九九三俵	三一、九八八俵
豆類麥及雜穀合計	四八、三七七 二、三〇三 七七、二三四	五四、八三九 一一、七二六 九七、五五八	六三、五六八 七、〇五〇 一〇二、六〇六

備考　以上は釜山穀物組合の調査に依るものにして一俵の容量を五斗とす

今本江々口より上流に至る沿岸各地に於ける舟舶碇繫の要津及其相互間の距離を示せば左の如し

釜山府下湍…三里—同府龜浦…七里—密陽郡三浪津…六里—靈山郡松津里…一里—同郡上浦…三里—昌寧郡馬首院…三里—草溪郡赤布…四里半—高靈郡開浦…二里—玄風郡水門津…四里—大邱府沙門津…三里—星州郡武陵…三里—漆太郡倭館…三里—仁同郡揚村…二里—善山郡海平…三里—同郡石峴…三里—尙州郡洛東…一里—同郡兎津…一里—同郡新村…四里—咸昌郡光大亭…二里半—龍宮郡三江…二里—同郡麻田津—十五里—安東郡安東

本江流域に於ける水運營業者は内地人としては本港埋立新町中村俊松氏及倭館

驛盛運社等にして中村商店は約百石積の日本形河船四隻を以て下湍洛東江(京釜線驛名)及宜寧間に一ヶ月三回往復せしめ各寄泊地には出張所を設け荷客の取扱を爲す倭館盛運社は同地を起點として上流には尙州郡新村及安東郡安東間に左記の如く定期航運を爲し下流には貨物の都合に依り玄風郡玄風、高靈郡高靈地方へ臨時差立船を爲す而して寄泊地には各荷扱所を設置せり

一、倭館新村間

航行日數　倭館發より三日間の豫定

寄港地　善山、海平、洛東、兎津

一、倭館、三江、安東間

航行日數　倭館より三江迄四日、安東迄七日間の豫定

寄港地　洛東、新村、光大亭、三江、醴泉、聞慶、豐基

其他は龜浦、下湍、三浪津等に於ける數多の朝鮮人客主が之を經營するものにして其使用船舶の如き其數大小百數十隻に上るも概ね不完全なる篷船にして航行日數を要すること頗る多く江口下湍より尙州郡兎津に到るに往々一ヶ月餘の日子

を要することありと云ふ又江口下湍と本港との間は本港澤山兄弟商會回漕部に於て毎日一回小蒸汽曳船を以て物資の運輸に從事し以て相互の連絡をなせり

五　其他の水上輸送機關

本港に於ける水上輸送機關として使用せらるゝ艀船、勞力、荷役力及運漕業者等を擧ぐれば左の如し

一、運漕業者

釜山埋立佐藤町	朝鮮郵船釜山支店	石垣孝治
同　高島町	大阪商船釜山支店	長谷場源四郎
同　埋立新町	日本郵船(株)代理店 大池回漕部	山本寛二郎
同　大倉町	澤山兄弟商會	一法師竹隈
同　高島町	釜山商船組	山田清太郎
同　本町一丁目	山川回漕店	山川賢一
同　高島町	宮本組運送部	宮本高次
同　中野町	岩橋運漕店	岩橋與三郎

釜山　高島町　　內國通運釜山出張所　　高羽秀吉

尙前記以外港內艀運送業、船內人夫供給、陸揚船積仲仕供給、陸上運搬等を營業とせるもの左の如し

釜山海商組　長門組　共同組　日ノ出組
富島組　八頭司組　姫野運送部　赤間組
改良組　釜山組　共勇組　商船組
橋本組　日韓組　西村組　澤山兄弟商會

二、船舶隻數及荷役力

前項運漕業者並港內艀船業者の所有する小蒸汽及艀船數と之に依り取扱はるべき一日平均荷役力とを示せば左の如し

船數		積載量	
團平艀	一二八隻	約	三、五〇〇噸
艙艀	一八隻	同	約　一、〇〇〇噸
水船	七隻	同	約　二〇〇噸
小蒸汽船	一二隻		
發動機船	三隻		
通船	一九隻		

荷役力

雜貨及穀物類	一日	一千噸
石炭及鹽類	同	七百噸
重量品類	同	四百噸
枕木類	同	九千噸
軌條類	同	八百噸

三、艀賃　其他の料金

本港に於ける主要貨物に對する積卸艀賃其他船舶に關する諸費左の如し

一艀賃

品名	單位	艀賃	品名	單位	艀賃
穀物	一噸	參拾參錢	和洋金巾	一梱	八錢
			清酒	一挺	五錢四厘

叭	一個	八錢	セメント	大	一樽	六錢六厘	石灰	百斤	貳錢貳厘	綱	一個	八錢	セメント	大	一樽	六錢六厘	石灰	百斤	貳錢貳厘
木炭	同	八厘參毛	同	小	同	參錢參厘	燐寸	一梱	五錢	木炭	同	八厘參毛	同	小	同	參錢參厘	燐寸	一梱	五錢
煉瓦	四枚拼	八厘	亞鉛板	百斤		貳錢貳厘	建具類	一才	八厘參毛	煉瓦	四枚拼	八厘	亞鉛板	百斤		貳錢貳厘	建具類	一才	八厘參毛
石炭	一噸	參拾參錢	苛性曹達	同		貳錢貳厘	洋紙	百斤	貳錢貳厘	石炭	一噸	參拾參錢	苛性曹達	同		貳錢貳厘	洋紙	百斤	貳錢貳厘
砂糖	百斤	貳錢貳厘	絹毛及反物	一		八厘參毛	木材	一才	八厘參毛	砂糖	百斤	貳錢貳厘	絹毛及反物	一		八厘參毛	木材	一才	八厘參毛
紡績絲	一梱	六錢四厘	金物	百斤		貳錢貳厘	雜貨	一噸	參拾參錢	紡績絲	一梱	六錢四厘	金物	百斤		貳錢貳厘	雜貨	一噸	參拾參錢
小麥粉	一才	八厘參毛	器械類	一才		八厘參毛	漬物	一樽	五錢四厘	小麥粉	一才	八厘參毛	器械類	一才		八厘參毛	漬物	一樽	五錢四厘
陶器	一梱	貳錢五厘	洋嶼	百斤		貳錢貳厘	ベンキンタコールボイル油	百斤	貳錢貳厘	陶器	一梱	貳錢五厘	洋嶼	百斤		貳錢貳厘	ベンキンタコールボイル油	百斤	貳錢貳厘
麥酒	一函	參錢	石粉	百斤		貳錢貳厘	同		貳錢貳厘	麥酒	一函	參錢	石粉	百斤		貳錢貳厘	同		貳錢貳厘

二　其他船舶に關する諸費

一、噸稅　一噸に付　貳拾五錢

一、水先料　一噸に付　二十四時間毎に　金　貳錢
（外國船に限りこれを要す）　二十四時間未滿　金壹錢五厘

一、棧橋料　釜山稅關棧橋　登簿一噸に付　二十四時間毎に　金　貳錢
　　釜山棧橋株式會社棧橋　登簿一噸に付　二十四時間未滿　金壹錢五厘
　　（送迎入場料一人　五　錢）　（普通貳拾圓より參拾圓位）

一、給水料
　　（棧橋繫留船一噸　拾五錢以上貳拾五錢迄
　　（沖碇繫船一噸　拾八錢以上四拾錢迄

一、貸艀料　一隻　金參圓五拾錢

一、小蒸汽船使用料　一時間　參圓　一日　貳拾五圓以上參拾圓

一、船內仲仕賃
　　（普通貨物　一噸　拾四錢
　　（一日　內地人　壹圓　鮮人　八拾錢

一、代理店手數料
　　（輸出貨物　運賃の一割
　　（輸入貨物　同　五分
　　但し臨時船にして材料又は一品積の場合は輸出七分輸入三分とす

第九章　通信事業

本港は韓國に於ける我帝國政府の通信機關創設の地にして普通郵便事務は素より電信と云ひ爲替及貯金の事務と云ひ其施設何れも本港を以て權輿と爲す爾來幾多の年所を經て郵便に電信に將た又電話に韓國に於ける我通信事業經營の着着進行すると共に本港の通信設備も益整備の域に進み殊に本港は日韓交通の要衝に位し當時彼我郵便幹線の關門を扼せるのみならず日韓間海底電線唯一の陸揚地點として通信機關の樞軸を握り我帝國の對韓通信上最も重大の關係を有せるを以て本港の通信施設に就ては當局者の最も致意せる所なりしが日露戰役後居留人口の膨脹商工業の伸張等本港著大の發展は益通信事業の增進を促し今や郵便と電信と電話とを問はず其通信數の多大なる京城を除きては本港の右に出るものなし今左に各種通信事業に就き發達の概況を示さんとす

第一節　郵便

帝國海軍御用達
海運業
船舶代理業
稅關貨物取扱人
石炭清水販賣業

Ⓢ

朝鮮釜山大倉町（電話七五〇八一六番）

澤山兄弟商會

（中付二九）

本社　東京市日本橋區蠣殻町一丁目三番地

釜山府中ノ町拾番地

韓國興業株式會社

釜山支店

電話　事務所　九二四番
　　倉庫部　三四一番
　　運送部　五一三番
　　支配人宅　六五一番

振替貯金口座京城二〇八番

営業科目

一、農業　殖林　牧畜
二、倉庫業　運送業
三、火災生命保險代辨

（中付三〇）

本港に於て始て郵便事務の施設を見たるは實に遠く明治九年に在り同年三月日韓修好條規の兩國政府の間に締結せられ釜山港の劈頭通商貿易地として開港せらるゝに際し我三菱會社の郵船始て本港に航路を開始せるを機とし時の驛遞頭前島密氏の申請に依り大久保內務卿より正院に稟議し其允許を得て九年十一月一日本港に帝國郵便局を創設し時の釜山駐在外務七等出仕近藤眞鋤氏に其事務兼掌を命ぜられたるを以て韓國通信機關の嚆矢と爲す同十三年五月に至り居留民金員送受の便を計り郵便爲替事務を開始し尙同年八月更に貯金事務を開きて居留民の貯蓄機關に供し爾來日淸戰役を經て居留民の益增加するに及び其必要に應ぜんが爲め三十三年五月新に小包郵便の事務を開始せらる是に於て各種の郵務事務悉く設備せられ本港居留民をして本國と同一なる通信上の利便に浴せしむるを得るに至れり爾後相次て海岸郵便局出張所（後釜山本町郵便局と稱し四十五年六月廢止す）草梁郵便受取所釜山鎭郵便受取所等設置せられ益本港通信の利便を增加せるのみならず當時沿岸各地本邦出漁民の漸く增加するに及び三十七年六月朝鮮海水產組合釜山港所屬の巡邏船內に釜山局所轄の郵便受取所を設置し貯金並郵便物集配

の事務を取扱ひ是等漁民の利便に資せり次て三十八年五月日韓兩國協定の上韓國通信機關を擧て我政府の管理に委托する事に決し所謂日韓通信機關合同協約の成るに及び在本港韓國所屬の通信機關たる釜山郵遞司の事務を釜山郵便局に又草梁領受所（郵便受取所の如きもの）の事務を釜山局草梁出張所に繼承し日露戰役後居留民の劇增に伴ひ益市內各所に通信機關を增設して郵便事務の擴張を爲し爾來各種事業何れも著しき發達を爲せり今本港に於ける最近五ヶ年の各種通信統計を示せば左の如し

郵便事業統計五ヶ年表

種別		四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
通常郵便	引受	三七一五六	三四〇〇三	二九二一九	二六六五一六二	二五五四六三
	配達	三四三九三	三〇五三五七八	二六二三五四	二四九六八三	二三八九二〇
小包郵便	引受	四九六八四	四七〇九四	三五七七五	三七八九九	三一四五七
	配達	四九六〇五	四七七五五	三五八五五	三七八九五	三一八六〇
爲替	振出	七三四五五	七二八九一	六八三〇三	六五四九八	六〇三六三
	金額	一、二〇三、七二四	一、一〇五、一三八	一、一八三、六三七	一、〇五二、九一三	九三八、一四一
	拂渡	七一三一九	五九〇一六	五三九、九三六	四七、五〇三	四四、七〇一
	口數	一、二七〇、七五六	一、二七〇、七五六	一、一六五、〇〇九	一、一二九、六五五	八九二、六三一
貯金	預入	三、四二〇、〇三	三、〇五三、五七八	二、九七二、一九一	二、六六五、一六二	二、五五四、六三五
	拂渡	三、四二〇、〇三	三、〇五三、五七八	二、九七二、一九一	二、六六五、一六二	二、五五四、六三五
振替貯金	受入	四九六、五二	四七〇、九四四	四二五、七七五	三八〇、八九九	三四一、八三二
	拂渡	四九六、五二	四七〇、九四四	四二五、七七五	三八〇、八九九	三四一、八三二

備考　一、本表は釜山本局及民團區域內に於ける各郵便所の統計を合計したるものとす

二、本表の年度は四月一日より翌年三月末日迄を期間とす

三、本表中金額の單位は圓とす

第二節　電信

我帝國電信事務の韓國に創始せられたるは郵便と同じく亦我釜山の地に在り明治十六年丁抹大北部電信會社が我政府の許可を得長崎釜山間に沈設せる海底電線の同十七年に竣工するや同年二月十五日新に西町に帝國電信局を設け電報通

信の取扱を開始せらる是れ本港電信置局の創始にして又韓國に於ける電信事務の嚆矢なりとす然れども當時の通信たる唯本港と日本内地との間に止り朝鮮内地に對しては未だ電報通信の途なかりしが二十一年に至り韓國政府は嚮に日韓兩國の間に締結せられたる海底電線設置條款續約の趣旨に基き釜山京城仁川間の電信線を架設し茲に始て本港と京仁間に通信の途開くるに至れりと雖も其電線工事拙劣幼稚にして常に不通斷線等通信の障碍多く殆ど通信機關の効用を爲さず彼の防穀事件の如き將た日清事件の如き通信上最も緊切なる時機に際し實に不利不便を極め韓國線の到底恃むに足らざるを認め政府は更に臨機軍用電線を本港と京仁間に架設し軍用通信の傍便宜公衆電報の取扱を開始せり後三十年に至り當時京城元山間電信は既に開通しつゝありしと雖も該線路の所管韓國に屬せるを以て未だ我電線と通信連絡の途なく本港より直接該線を利用するの便なかりしを以て釜山商業會議所は臨機の方法として釜山郵便電信局と協議の上京城商業會議所の取扱を以て元山宛電報は釜山會議所の取扱を以て釜山局より京城へ送信し京城會議所は之を受繼ぎ更に元山發送の手續を爲し

以て釜元間に於ける通信の便を圖りしが翌三十一年京城木浦間電信の開通を見るに及び亦同一手段を以て本港木浦間の電報通信に便せり其後京釜鐵道の漸く竣工を告ぐるに及び草梁驛に公衆電報の取扱を開始せしが三十八年五月日韓通信機關合同協約の成立に及び韓國政府の經營に係る釜山電報司の事務を釜山局に繼承し後日露戰役後通信力の膨脹に伴ひ從來杜撰拙劣を極めし韓國の電信回線も漸次整理改善せらるゝに至りたるのみならず爾來益線路の擴張を圖り四十五年三月更に本港下關間に海底線一線を增設せらるゝに至り益本港通信力の發揮を見るに至れり要するに京釜間電線の開設以來韓國政府の經營に係る電信幹枝線の漸次各地に架設せられ本港電報通信の途も漸く鮮内地に擴及せらるゝに至れりと雖も本港電信の便充分に内鮮各地に開かるゝに至れるは實に三十八年日韓通信機關合同協約成立以後の事に屬せり爾來線路の改廢變更等回線組織異動の結果通信上時に多少の增減ありしと雖も本港貿易の發展と共に年々歲々電報通信の增進を見るに至れるは自然の數なりとす今本港に於ける最近五ヶ年間の電報通信數を示せば左の如し

電報通信數五ヶ年表

種別	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
發信	二五五、六一〇	二三八、八四六	二一三、五三三	一六七、三〇五	一六一、〇二六
着信	二三八、五二九	二三七、二七〇	一九八、七七三	一六三、二二三	一四六、一七三
金額	三三、六〇〇円	五一、八九一円	四四、九〇六円	四一、九四二円	四一、四四七円

第三節　電話

韓國に於ける電話の創設は郵便電信の事業に比し甚に後年の事に屬し實に明治三十五年六月京城及仁川の各郵便局に電話交換事務を開始せらたる時を以て濫觴となす而して本港は之に遲るゝこと約一年翌三十六年三月十一日釜山局に電話交換事務を開始し又同局に西町電話所を設置せるを以て始となす後三十七年四月釜山局草梁出張所に電話通話事務を開始せしが當時の電話加入區域は釜山(館内)草梁古館に止りしが日露戰役後本港人口の膨脹と共に其區域を擴張し四十一年九月草場町中島町以東を加へ四十四年十月更に市外大新里方面を加入せしも對岸牧ノ島は今尚ほ市外電話として通話區域外に在り而して本港の長距離電話は各地に於ける電話施設の進行と共に漸次各地に連絡せらるゝに至りしが四十四年十月京城釜山間長距離電話の開通と共に益長距離通話區域擴張せられ本港電話通信上一層の利便を加ふるに至れり之と同時に從來の電話機を複式に變更し是迄電話地格乙地(電話料年額六拾圓)たりし本港は京城と等しく更に甲地(電話料年額七拾貳圓)に編入せらるゝに至れり四十五年五月更に電話交換機の裝置を改良し從來の複線用單式交換機を改め監視終號附並列複式交換機と爲せり斯の如く本港の電話施設は開始以來著々擴張改善せられ加入者亦益其數を增加し開始當時僅々百三十餘名に過ざりし加入者は現今九百五十四名の多きに達せり今本港に於ける最近五ヶ年間の加入者數及通話數を示せば左の如し

釜山局電話交換度數累年表

年次	電話加入者數	市内交換度數一日平均數	市外電話交換度數 大邱へ	馬山へ	東萊へ	自働	牧ノ島へ	長生浦へ	京城へ
明治四十年	五三五	四七九八	四七四〇	二七五〇	三七二〇	五八六	一	一三五	一
同四十一年	六〇五	五三三五	四五三〇	二七六〇	三四五〇	六五五	一	七五	一

明治四十二年	七〇九	六、五六三	八、〇七〇	一三、〇三〇	三、五八〇	五〇五	二、五八五	一、六三〇	—
同　四十三年	七一六	八、〇〇五	六、一九一	三、六六九	二、六七一	九九二	六六二	—	—
同　四十四年	九五〇	九、三三五	七、三六六	三、五一五	二、三五四	一、三一七	三、三五八	—	八〇

備考　一、自働電話四十年三月設置
二、長生浦線は四十一年十一月開通四十三年に至り東萊と同一線使用の事となり該線の中繼を經る事と爲れり
三、京城長距離電話は四十四年十月より開通す

釜山方魚津線（命令航）日　發
釜山木浦內廻線（命令航）日　發
釜山木浦外廻線（命令航）月八回以上
釜山雄基線（命令航）月三回以上
迎日灣鬱陵島線（命令航）月三回以上
（江原道經由）
門司雄基線（自由航）月三回以上
釜山統營線（自由航）日　發
釜山巨濟府線（自由航）隔日出帆
釜山筏橋線（自由航）月約六回
釜山寧海線（自由航）月約十回
釜山元山線（自由航）月　三　回

釜山佐藤町十三番地
朝鮮郵船株式會社
釜山支店
電話　長一八四番
　　　六一四四番

（中付三一）

海運業

內外船客貨物人
稅關貨船
荷客貨物
船回物積
取卸足
扱
日本郵船株式會社
朝鮮郵船株式會社
神戸川崎船舶部
大阪尼崎船舶部
對馬運輸株式會社
日本商船株式會社
代理店
扱
大池忠助
釜山港
元山
井ニ
大池回漕部
埋立新町
電話(局)十三番
出張所
佐藤町
電話六七七番
大池回漕部縣洞出張所、新馬山出張所

第十章 商業

第一節 貿易

一 外國貿易

本港の對外貿易は時に一消一長を免れずと雖も其大勢に於ては朝鮮貿易の發展に伴ひ逐年堅實の發達を爲しつゝあり而して之を在鮮各開港の貿易狀態と對比するに其移輸出額に於ては最近數年間に於て朝鮮總移輸出貿易額の三割以上を占め常に各開港の首班に居れりと雖も其移輸入額に至りては較や仁川の下位に在りて其總貿易額に於ては未だ仁川に一籌を輸せざるを得ざるも其他の開港に對しては遙に優越の地位に在り尙具體的に之を表示すれば昨四十四年に於ける朝鮮總貿易額七千貳百九拾四萬圓(總額の二割八分)を第一とし釜山の千八百參拾貳萬圓(總額の二割五分)之に亞ぎ以下京城の八百六拾九萬圓(總額の一割一分)鎭南浦の五百〇八萬圓(總額の七分)元山の四百五拾萬圓(總額の六分三厘)群山の參百參拾六萬圓(總額の四分六厘)木浦の貳百六拾壹萬圓(總

額の三分六厘(以下之を略す)の順位とす更に飜て本港貿易の內容を觀察すれば今より十年以前迄は常に輸出超過の情況なりしが明治三十五年以來は狀勢頓に一變して反對の現象を呈し來り年々輸入超過を以て常態と爲すに至れり是れ朝鮮內地の開發に伴ふ自然の現象たらずんばあらず尙本港貿易の對手的關係を觀るに對內地貿易は貿易總額の約八割以上を占め實に本港貿易の生命たり是れ一は本港の最も母國に近邇せること、海陸交通の連鎖地點たること及關釜連絡其他內地との船舶交通の便多きこと等幾多特殊の地理的關係にも因るべしと雖も要するに日鮮關係の大勢に伴ふ必然の結果に外ならざるなり然り而して更に之を開港以來の趨勢に通觀すれば本港貿易の發達たる日淸戰役、日露戰役及日韓併合の三期を劃して毎に其面目を新にせることを知るべしと雖も就中日露戰役以後に於て最も長足の進歩を爲し爾來益進展の歩趨を止めず以て今日の膨脹を致せり今昨四十四年の貿易額を以て之を十年前に較れば實に三倍餘の增加を示し又更に之を二十年前に比すれば八倍餘の著大なる增進を示すに至れり而して今後新領土の經營一層の進捗を爲し移住民の增加、產業の發達等朝鮮內地開發の駸々として其歩武を進むると共に本港の貿易も亦之に伴ふて益膨脹すべきは炳然として明かなる所なり今左に本港對外貿易に關する各種の統計を揭げ以て其趨勢の一斑を示さんとす

移輸出入種別十ヶ年表（單位圓）

年次＼種別	移輸出			移輸入			移輸出入總計	移輸出超過額
	朝鮮產品	日本內地及外國產品	計	朝鮮產品	日本內地及外國產品	計		
四十四年	五、四一八、三一二	四、四六、四三四	五、八六四、七四五	一、〇九二	二、四五六、七一〇	二、四五七、八〇二	八、三二二、五四六	六、六二三、〇五四
四十三年	五、七一三、二〇〇	三、六二、二四	六、〇四九、八三四	二、九二七	九、八三四、〇四八	九、八三六、九七五	一五、八八六、八〇九	三、七七、一四一
四十二年	四、九五九、八七〇	一、九七、一一三	五、一五五、九八三	二五五	八、三〇七、九四四	八、三〇七、九四四	一三、四六三、九二七	三、一五二、九六一
四十一年	四、四七一、二三九	一、六九、〇九	四、四七一、二三九	二	九、二五八、〇八四	九、二五八、〇八六	一三、七三〇、二九五	四、七八六、七三七
四十年	四、四〇八、四九二	一〇六、〇七	四、四〇八、四九二	一	八、七三二、八〇五	八、七三二、八〇五	一三、一三二、七九七	四、三一四、三二三
三十九年	二、八五七、〇五五	一〇八、三三三	二、九六五、三八八	一	七、九三八、〇三四	七、九三八、〇三四	一〇、八九四、〇八九	四、九七〇、九七九
三十八年	二、〇三四、九五一	七〇、九三	二、一〇五、八四	一	八、二一九、三三八	八、二一九、三三八	一〇、三二四、八六一	六、二三五、八五五
三十七年	一、六一九、三五二	五八、八四〇	一、六七八、一九二	一	六、四六九、一五八	六、四六九、一五八	八、一四七、三五〇	四、七九〇、九五六
三十六年	一、九四四、七八三	一九、五三五	一、九六四、三一八	一	四、三四〇、一六七	四、三四〇、一六七	六、三〇四、四八五	二、三七六、八四九
三十五年	二、六〇七、八五七	五二、二一二	二、六六〇、〇六七	一	二、七六三、四一五	二、七六三、四一五	五、四二三、四八二	一〇三、三八

移輸出入品別數量及價額三ヶ年表

(イ) 移輸出の部

類別	品目	建	四十四年 數量	四十四年 價額	四十三年 數量	四十三年 價額	四十二年 數量	四十二年 價額
穀物及種子	玄米	擔	一三〇、七〇四	五七七、六〇三円	二四二、四八三	九〇二、九三四円	二七五、四六一	一、〇一〇、六一三円
	精米	同	四六、一〇四	二五八、九六五	七三、一四八	三〇七、一〇四	一七三、九三三	七四九、一五三
	其他の米	同	一九六、一六三	六四六、八九五	二四七、七四四	五二一、一六一	五六、七〇一	一四一、一九九
	大麥	同	七〇七	二、一七〇	一九、六七七	三九、三八九	二七、八〇三	六〇、三五八
	小麥	同	七三	二三九	三三、七二九	一〇三、七四九	三一、三九七	一〇〇、三三三
	大豆	同	五〇五、七〇五	一、六八八、五四三	六九一、七七六	二、三六一、一五二	七一七、九九五	一、八四八、〇六六
	小豆	同	四、〇三〇	一三、九五四	二一、七三九	六五、四一五	一一、八五四	三四、八四一
	其他の豆	同	一、三三一	四、八一九	二、六七一	八、一三三	一、六五六	四、七九五
	荏胡麻	同	九、四〇〇	五五、三八四	一四、〇三五	六八、三二三	五、五三一	三一、六四三
	其他の種子	同	—	七五七	—	三三、三三三	—	一三、六〇〇
	計		—	三、二四八、三三八	—	四、三九八、六八二	—	三、九九三、四八九
水	鮮魚	擔	八、八〇一	九八、二三五	一三、四五三	一三九、七三一	一三、三九二	一五五、三〇四
	乾魚	同	一六、六六九	八七、〇六九	一四、二八二	七一、三三一	九、六三〇	五一、七八〇
	鹹魚	同	九、〇三一	三六、七〇四	一一、八二〇	三八、三二四	四、六一五	一八、〇八九
	乾貝	同	三〇一	一〇、八〇七	三七二	一三、〇七四	四八六	一六、三九三

類別	品目	建	四十四年 數量	四十四年 價額	四十三年 數量	四十三年 價額	四十二年 數量	四十二年 價額
産物	海參	同	一、八三四	四三、八一五円	一、五〇七	三一、九三三円	一、〇九八	二六、九七七円
	鱶鰭	同	二八四	九、三三六	三〇一	一〇、一七六	一八四	六、三六二
	乾鰕	同	一、六五五	三一、七八三	一、七五四	三三、八三五	一、九七三	三五、八八四
	石花菜	同	一六、九三四	九四、〇三三	三、三一六	七三、三六四		
	銀杏草	同	九、九〇二	一三、九六七	七、八四〇	一一、〇四三		六九、七五四
	其他の水産物	同	—	二九七、〇三四	—	一八、九三九		
	計		—	七三〇、六八二	—	四三九、四五〇	—	三八〇、四四二
飲食物	飲食物	—	—	七〇、三三〇	—	四七、四三三	—	三三、〇〇五
	計		—	七〇、三三〇	—	四七、四三三	—	三三、〇〇五
藥材及油蠟	五倍子	斤	九八、一六五	九、七〇三	一九、四三六	一、九六七	二六、〇七三	二、九五四
	牛脂	同	六四、〇五〇	七、六九五	四八、八五〇	五、六八五	二二〇、九九四	二五、三〇六
	藥材其他の油蠟類	—	—	三〇、六六〇	—	七、八九七	—	五、五一七
	計		—	四八、〇五七	—	一五、五四九	—	三三、七七七
絲縷及布帛	絲縷及布帛	擔	—	一三、八四三	—	一七、六七三	—	四、五八七
	計		—	一三、八四三	—	一七、六七三	—	四、五八七
礦物及金屬	黒鉛	擔	三一、五〇〇	三三、三八九	一四、一二四	一四、一三八	二〇、〇五六	二〇、〇五五
	其他の礦物	—	—	三、四一七	—	四、五六五	—	一、九五九
	其他の金屬及製品	—	—	二八四、二五六	—	八九、七二六	—	五、四八六
	計		—	三二〇、〇六二	—	一〇八、四二九	—	二七、五〇〇
	毛皮	—	—	六、九〇三	—	六、四二七	—	四、九六三

品目	建	四十四年 数量	四十四年 價額	四十三年 数量	四十三年 價額	四十二年 数量	四十二年 價額
毛皮角牙類							
牛皮擔	同	一三、五四四	三四四、九四	一〇〇	三、〇〇五	一〇〇	三、〇〇五
牛骨同	同	四四三九	六、〇〇五	一七八二	二九、七四一	一七八二	二四、一七九
其他の角牙同	同	九	三六、二五六	一二	一、一〇七	一二	九〇七
計			三六、二五六		一、一〇七		九〇七
煙草類							
煙草類	同						
計							
雜品							
生紙牛	斤	三二、一〇〇	一八、三六三	三五、六八三	二、五八五	一〇〇	二、〇九三
布海苔擔	同	六、一八三	一八、三六	三、五五二	二、五八五	一、七八二	二、四一
肥料乾魚	同	五五、六一四	一二、九〇七	七、一〇九	九、一八九	二、八八五	三、六四三
肥料糠	同	五三、五一六	一一、六二三	二、九〇九	三、〇五五	一、〇八二	一、一四五
其他の肥料	同	一	一、一五一	一	一、三五	一	一、一五一
品	同	四三、八三六	六、〇五四	三六五、九〇五	四八、三九四	三、八七七	五、〇四二
雜計			四四、九四		六四、三五六		二四、三四二
小包郵便物	同	一	一、〇〇五	一	一、〇〇五	一	一、〇〇五
通計	同	五四、八七五	六、〇〇五	一七、三五	二、九二一	一七、八二	二、四一
再移輸出額	同	四	五、八四七	一	一、三五	一	九〇七
總計	同	五、八四七	六、八四七	三五、九〇五	四、九八三	一、三二	一、七八二

備考　本表中各種單位の換算に付ては本書卷尾に揭げたる附錄中の度量衡比較表に就て參照を要す

（ロ）移輸入の部

品目	建	四十四年 数量	四十四年 價額	四十三年 数量	四十三年 價額	四十二年 数量	四十二年 價額
穀物及種子							
米百斤	斤	七、四二一	二、〇七三	一、八三二	四四、七〇三	一、三二八	三四、九四
豆類	同	二、四二〇、三九	六、〇〇五	一、三三一	一、四三、三三	一、三二	一、四三、三三
其他の穀物種子	同	五五、七二六	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
計			七、〇七八		一、四五、七八		一、四五、七八
飲食物							
茶斤	斤	七、四二一	二、〇七三	一、八三二	四四、七〇三	一、三二八	三四、九四
小麥粉同	同	二、四二〇、三九	六、〇〇五	一、三三一	一、四三、三三	一、三二	一、四三、三三
食鹽百斤	同	五五、七二六	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
醬油斤	同	七、一五六	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
蔬菜類	同						
食物							
果實及種子							
蜜柑斤	斤	一二、八四二	二、〇七三	一、八三二	四四、七〇三	一、三二八	三四、九四
其他の果實同	同	一、五一六	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
コンデンスドミルク打	打	五五、〇五二	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
鹽乾魚百斤	斤	一八、九二四	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
魚節同	同						
其他の鳥獸魚介類同	同						
鑛水及諸飲料同	同						
鑵詰及罐詰類同	同						
其他の食物同	同						
計			一、三五		一、三五		一、三五

砂糖及糖菓類	砂糖	百斤	六、九一九	四四、四九九	三、五八三	三三、一九四	五、三一七	三三、六一五
	精糖	同	五〇、〇八四	三八二、九九〇	三八、三〇六	二八六、五二四	三八、七五一	二九三、八一九
	糖菓類	同	—	二一、〇三三	—	一六、三九八	—	一五、〇六五
	計		—	四四八、五二三	—	三三五、一〇六	—	三四〇、四九九
酒類	清酒	石	五、六四八	一四二、四〇二	五、七九九	一五二、〇七五	五、七九九	一五〇、一六四
	麥酒及黒麥酒	利	二九三、二三七	六二、六二九	三一三、二九九	七〇、一〇三	四五、三八五打	七九、七八八
	其他の酒類	同	—	二三、四五九	—	一六、七九一	—	一一、五五四
	計		—	三二八、四九〇	—	二三七、九六九	—	二四一、五〇六
藥材及製藥	酒精	斤	一八六、九九一	二四、九八六	九〇、六九四	一一、五八六	九五、二二七	一三、七〇三
	賣藥	同	—	三八、八七六	—	三三、一八〇	—	一五、八九〇
	化學藥	同	—	一六、〇四六	—	八、五五三	—	四、四〇九
	其他の藥材及製藥	同	—	一一〇、六七八	—	九九、四三六	—	七〇、二七三
	計		—	一九〇、五八六	—	一四二、七四五	—	一〇三、二七五
染料及塗料	アニリン染料	斤	三九、九八九	一八、二六二	三〇、一〇七	一七、八三二	一五、八三〇	九、三〇二
	ペーント及ヴァニッシュ	同	一〇三、九九一	二〇、六三九	四九、九六六	一〇、七九四	四二、一六六	七、三〇二
	其他の染塗料	同	—	二四、七三〇	—	一六、一八九	—	一五、二五八
	計	同	—	六三、六三一	—	四四、八一四	—	三一、八六二
油及蠟	石油	瓦	二、五三八、三九九	四五四、六六七	二、五九七、四五六	四六四、六〇五	一、八二三、七七〇	三五二、二六六
	蠟燭	斤	八九、七六四	一五、七八四	一三五、六四四	二四、六九五	九四、五六九	二〇、九〇三
	其他の油及蠟	同	—	八一、四〇六	—	三六、一六七	—	三三、三五〇
	計		—	五五一、八五七	—	五三五、四六七	—	四〇五、五一八
	綛、打綿	百斤	三、九七九	一〇三、六四二	三、一二四	七八、〇六二	二、六八三	六四、一一三

絲縷繩索及同材料（綿織糸）	片撚糸	同	二、三三九、六二五	七八六、八四〇	二、二〇九、〇八七	七四五、六〇六	一、六〇二、三八一	五〇七、七七四
	双撚のもの	同	三三、二六〇	一五、五〇二	五四、二八四	二五、四五四	四四、六三四	一九、九六六
	其他のもの	同	一三七、三三六	六二、九三三	一三八、六六一	五九、一七九	六八、四四〇	三〇、三三四
	繩索	同	一三一、四八九	三四、六六七	五九、五三四	一四、八四一	四〇、〇〇三	八、〇四五
	其他の絲縷繩索及同材料	同	—	三三、七七二	—	三一、七八二	—	三四、三四九
	計		—	一、〇三五、三五五	—	九五四、九二四	—	六六四、五七一
綿布類	生金巾及生シーチング	方碼	一四、二〇四、二九六	一、六五四、二〇四	八、七二四、九四三	一、〇一七、一一〇	四、六八三、五〇五	五五一、二二三
	晒金巾及生シーチング	同	三、〇一七、七七八	三六九、四〇一	二、六一六、三五四	三一八、三五六	一、六六三、二〇三	二〇七、一四四
	天竺布	同	八七七、九七〇	一〇七、一六五	三八七、一八五	四七、二七〇	二五三、一三一	三〇、五三六
	綿繻子及綿イタリアンス	同	三五五、一二五	七二、四八〇	二七四、〇二九	六二、二〇四	一七八、五一九	四一、一七六
	綿フランネル	同	一九九、〇四四	三六、五五六	二〇九、五三八	三六、九五九	一四六、〇九五	二七、六〇一
	綿縮	反	二九、一五四	一二、九七六	三〇、八二三	一四、三六三	七九、五九八	八、一八五
	白木綿	同	七〇〇、六九八	三八八、二一五	六五七、一六〇	三四四、三三三	三四一、二四七	一九五、〇九七
	其他の日本木綿	同	三三八、五七〇	二八一、五七五	三一七、一一〇	二五九、九六四	二六二、〇四〇	一九七、九三三
	其他の純綿布	同	—	九四、二六二	—	七六、〇二四	—	七九、八四〇
	計		—	三、〇一六、八三四	—	二、一七六、四七三	—	一、三六一、五五四
麻布	葛布	方碼	三六〇、四一九	七四、〇五六	三七五、六六九	六九、二三三	四三四、七二〇	一〇三、二六七
	其他の麻布	同	四三、七九八	九、五六五	二一、六八八	四、〇一七	三五、八一三	九、一七三
	計		—	八三、六二一	—	七三、二三九	—	一一二、四四〇
毛布	モスリン	方碼	一三九、八一九	五三、九五四	一三二、二〇九	四七、一五六	八三、七三〇	二六、七四八
	其他の純毛布	同	二八、〇二四	二二、四三四	五五、三九六	二九、一九七	二〇、九一一	一三、六五〇

品目		單位						
布	計		—	七五、三八八	—	七六、三五三	—	三九、三九八
絹布	絹紗	方碼	二〇、六九九	一七、三三三	四三、六八三	三四、二七〇	七五、九四三	五七、六三三
	其他の純絹布	同	一〇八、二五九	九四、九六三	六九、九七七	六八、一九一	七三、四四五	七八、〇三三
	計	同	—	一一二、二九六	—	一〇三、四六一	—	一三五、六六五
諸布帛及製品	交織布	方碼反	七〇、九三四	四一、九二九	五八、四五〇	三七、〇四九	七六、九五四	三七、六八八
	綿浴布	打	一九、三八八	一六、一〇六	三三、三八四	一六、一七三	一五、三三四	一三、五八七
	ブランケット	斤	四四、〇五一	二八、四三七	四四、九七三	二五、二八四	二三、一六八	一五、五六九
	打紐及眞田紐	同	一五、九八一	一三、四七九	一七、七〇一	一四、三〇六	八、二九九	六、六八〇
	コンニー嚢	枚	二五九、七二一	三三、一三九	四〇九、八二七	四八、三八一	二七五、六一八	三一、五七八
	其他の布帛及製品	同	—	四九、三九三	—	三三、六三六	—	三七、六〇三
	計		—	一八一、四六三	—	一七四、七二〇	—	一四一、七〇三
衣服及附屬品	肌衣	打	一四、一六〇	六一、七一八	一三、五四三	五〇、五二六	八、五九八	三八、八六三
	日本足袋	足	二五一、八三八	三七、二九四	二五九、五九八	三八、四三三	一八六、三八六	二八、〇三三
	帽子	打	七、一七三	三二、八五三	五、七〇〇	二六、七三三	四、二九七	一九、八六一
	靴及履物	同	—	八〇、二〇二	—	七五、〇三九	—	四三、一八六
	其他の衣服及附屬品	同	—	一三一、八三一	—	一〇七、六八九	—	一〇六、八六八
	計		—	三四三、八九七	—	二九八、四三〇	—	二三六、八〇〇
紙	洋紙	斤	四〇三、八八九	三八、一五五	三二六、一四九	三一、五三四	二四四、七七六	二三、八四七
	半紙及美濃紙	同	九三、八七一	三七、〇三四	一〇三、三五五	三七、〇七四	九三、〇三二	三三、七九二
	塵紙	同	一三二、八三五	二六、二一六	一一三、三九八	二五、四一六	一二五、二六七	二五、二三〇

品目		單位						
紙類	其他の紙	同	—	三二、七九八	—	三四、一五五	—	一九、七八九
	計		—	一三四、二〇三	—	一三八、二六九	—	一〇三、六四八
文房具及紙製品	諸文具		—	四五、七一四	—	六八、八〇六	—	六一、七五八
	書籍及雜誌		—	三〇、三三一	—	三二、五四三	—	二七、八六四
	印刷物		—	二四、七八五	—	一一、三八七	—	五、六四〇
	其他の紙製品		—	五三、二二〇	—	二一、六三六	—	一四、〇四三
	計		—	一五三、一一〇	—	一三三、三六一	—	一〇九、三〇四
鐵類	熱鐵	斤	三、六〇〇、〇三八	一九五、五二七	一、八四三、一一三	一三三、四九一	一、九三七、八四三	一三三、九八二
	電鍍線	同	二五五、九三四	一六、三〇六	二六一、〇〇〇	一八、七二四	三七六、二三三	二六、九二六
	軌條及同附屬品	同	三一、七〇五	一〇、五七八	九四、八六九	三一、一四五	一七二、五九六	七、〇九五
	筒及管	同	七五、二八二	六、〇〇四	三三〇、七九三	一五、二六四	一、〇六六、五三二	四一、三〇八
	其他の鐵	同	—	三一、四二五	—	三四、九〇八	—	三七、七五三
	計		—	二五九、八四〇	—	一九四、五三三	—	二三七、〇五四
鋼鐵類	鋼鐵	斤	四六五、五五〇	三一、七六六	三二〇、六二五	二一、九〇一	四一七、六九三	三四、一五四
	計		—	三一、七六六	—	二一、九〇三	—	三四、一五四
銅類	塊及錠	斤	一七六、〇六七	五三、〇六三	六三、三一九	二二、三五五	五九、八九五	二三、七四五
	其他	同	九六、四一七	四八、九八八	二三、五九五	八、八六九	一五、五三八	七、三六五
	計		—	一〇三、〇五〇	—	三〇、二二四	—	三一、一一〇
其他の	錫	斤	九九、三二五	六八、三〇五	五六、九二一	四三、三三七	六一、九三四	四六、八二二
	其他の金屬	同	—	五五、四七九	—	三六、六〇三	—	二七、八二三

金屬類 計		—	一三三、七八四	—	八〇、九三九	—	七四、六三三
金屬製品							
鐵釘	斤	五六三、二一四	三四、三九八	四一七、四一八	二三、九九八	二七八、八九七	一七、五五〇
鐵鍋及釜	個	一二九、三九一	八七、七一九	一二五、六三九	六八、九八七	一三四、一〇九	五三、五八三
其他の鐵及鋼製品	同	—	一一九、七九二	—	八七、五七二	—	一四三、四〇三
銅及眞鍮製品	同	—	七、四〇九	—	四、四三九	—	四、三三一
其他の金屬製品	同	—	八三、九九五	—	六五、一九一	—	四一、七七四
計		—	三三三、三一三	—	二五〇、一八七	—	二五九、六四一
車輛及船舶							
鐵道機關車及部分品	個	—	二九八、三九五	—	一三、八四七	—	三五、三〇一
鐵道客車貨車及部分品	同	—	八九、〇九〇	—	七六四	—	二、一三九
其他の車輛及船舶	同	—	三七、〇七〇	—	二八、〇一四	—	一一三、八九八
計		—	四二四、五五五	—	四一、六二五	—	一四〇、三三八
學術器及機械							
學術器	個	—	四八、二九六	—	三八、三六二	—	四七、三九三
電信、電話機及部分品	同	—	三三、三七六	—	四、一〇八	—	一五、三六一
其他機械及部分品	同	—	一一六、七一七	—	一一九、六五六	—	一三五、六六三
兵器	同	—	七一九	—	一、四七三	—	六五
獵銃及附屬品	同	—	三、〇三三	—	四、四四三	—	五、五八五
懷中時計及部分品	同	—	一二五	—	四五八	—	一〇
計		—	二〇二、二六五	—	一六八、五〇〇	—	二〇三、九七七
煙草類							
紙卷煙草	千本	一三八、七七三	一四九、八四九	一一五、三九八	一三七、五三八	一三七、八七六	一六四、五六八
刻煙草	斤	四六、〇一八	二九、四八五	五〇、五八五	三六、〇三五	四九、二五五	三六、二四三
其他の煙草	同	—	四、三六六	—	二、四一九	—	三、五七九
計		—	一八三、七〇〇	—	一六五、九九三	—	二〇四、三八九
毛皮角牙類							
熟皮	斤	五、九一七	五、二九五	五、二八三	五、二五七	二、七〇三	二、七六三
馬の毛	同	四、一九一	七、四六一	七、三七六	一三、三七六	七、四〇八	一三、〇〇一
其他の毛皮及角牙類	同	—	二、三一〇	—	二、二九一	—	一、七八三
計		—	一五、〇六六	—	一九、九二四	—	一七、五四六
雜							
石炭	噸	六五、七七五	五六三、二〇三	三八、三六一	二〇七、三七三	四三、九三三	二〇七、一五七
木材及び板	同	—	三〇〇、〇八五	—	二七四、五七六	—	二三九、四七九
薪材	百斤	一八三、〇九三	四一、三一八	一四三、六七八	三三、〇七八	一四四、一六一	三一、八一〇
木炭	同	五五、六三〇	五五、五八九	五四、九六〇	五五、四三八	四九、九一三	五六、九三〇
竹材	同	—	一八、九八九	—	一五、一一三	—	一四、八一四
藁叺	枚	一、六四四、四八六	一六四、二七〇	二、三九〇、六九四	二四〇、五〇三	二、〇七八、五六三	三三三、四三三
繩及莚	斤	二、七一九、九一三	七九、三〇八	二、七六四、八六〇	八四、〇七一	二、七九五、〇三一	七七、五二七
襖及障子	同	—	一五、九五三	—	一五、四七二	—	一六、九五〇
地蓆	同	—	二七、八四八	—	二五、六〇四	—	二七、〇六四
家具	同	—	三四、五〇六	—	二八、九三七	—	二九、七一〇
漁網	斤	二〇四、一八四	一一六、六五七	一七四、七〇四	七七、五五七	九七、二七八	四六、九六三
セメント	百斤	七四、二三四	一〇九、七三九	一三八、六二八	一八三、一七三	九六、〇八〇	一三三、八一七
石灰	同	二九、八九三	一五、二八七	一五、六〇五	七、三九四	一七、二五一	八、〇七四
ランプ及部分品	同	—	一九、七九八	—	一七、八二〇	—	一四、四八九
草木及苗根	同	—	三八、八一〇	—	二三、〇九四	—	一六、五二一

品							
煉瓦及瓦	千枚	一、五二八	三五、四五五	一、九五七	三七、八九一	一、六五六	三八、一九四
工匠具及部分品	同	—	一九、五四四	—	一四、九三五	—	一三、三三三
農具及部分品	同	—	二〇、四二七	—	一三、七二六	—	一八、〇四四
陶磁器	同	—	一三三、三九〇	—	七九、八二六	—	六七、九六一
漆器	同	—	一〇、二六三	—	一一、七九四	—	八、二三五
聰破璃片	百方呎	六、六九七	三五、四三一	四、三二九	三三、三三一	三、〇一九	一六、九〇五
破璃及同製品	同	—	一〇、三七二	—	二六、七九三	—	一九、七五三
鐵道枕木	本	二〇七、五六六	一六六、七四一	二三三、九六六	一六八、四五八	八七、九一〇	七四、七一九
燐寸	グロス	四八六、〇六一	一六六、四九六	四四三、三三一	一四八、一一三	四二九、五一〇	一四〇、九三八
化粧石鹼	打	一九、四三九	一一、〇九一	二三、五四六	一一、五八八	一九、四六三	一〇、一六三
化粧用品	同	—	三三、六三三	—	二一、四三一	—	一九、七二九
竹製品	同	—	七、七二五	—	七、九六三	—	六、六二五
木製品	同	—	五四、三五七	—	四七、一八〇	—	五〇、九五三
旅櫃提嚢及佩袋類	同	—	一一、八五一	—	一三、八一三	—	一一、九二七
洋傘	本	六九、四一八	四五、〇七三	四一、五五六	二六、九一三	四八、四八四	三〇、三三八
和傘	同	五〇、五〇九	一一、九八五	四二、一八八	一〇、六七七	—	六、三八〇
肥料	同	—	一四、〇二〇	—	五三、三一六	—	四、一一三
爆發物	同	—	三四、〇七九	—	四一、六〇七	—	一三、九八八
新聞紙	同	—	六、六〇八	—	五、三九七	—	三七、〇六
其他の雜品	同	—	二五三、二九八	—	三二六、三六〇	—	一七五、九〇五
計		—	二、四八一、一一三	—	二、三三八、二九一	—	一、九三六、四八一
小包郵便物	同	—	五一一、〇三三	—	三七五、四四九	—	二七八、五〇五
旅客携帯品	同	—	五四、四七八	—	五五、八六五	—	五七、六九九
引越道具	同	—	一五、一四五	—	六、〇三三	—	一三、三〇一
總計		—	三、四五六、七一〇	—	九、八三三、二五一	—	八、三〇七、六八九
朝鮮産品再移輸入額	同	—	一、〇九一	—	二、九二七	—	二三五
通計		—	三、四五七、八〇一	—	九、八三六、九七五	—	八、三〇七、九四四

備考 本表中單位換算ば附錄度量衡比較表參照

移輸出入國別十ヶ年表

(イ) 移輸出の部 (單位圓)

年次／國別	日本	露領亞細亞	支那	其他	合計
四十四年	五、〇五九、六〇八	七一三、一五七	七七、〇七一	一四、九〇九	五、八六四、七四五
四十三年	五、四〇二、九三一	五六〇、九六二	八五、七二七	二二四	六、〇四九、八三四
四十二年	四、六三七、七六〇	四三二、二三八	八五、七七〇	二一五	五、一五五、九八三
四十一年	三、九三八、五三八	四四四、九六八	八七、八四四	九	四、四七一、三四九
四十年	三、九九九、八〇六	三五二、六八九	五五、八八二	一一七	四、四〇八、四九二
三十九年	二、八〇二、九四三	六〇、三六五	九三、四六八	一、二八〇	二、九五七、〇五五
三十八年	二、〇四八、〇三四	二、八一五	四四、四六四	三三〇	二、〇九五、五三三
三十七年	一、六五五、四九五	—	三二、七〇七	—	一、六七八、三〇二

（ロ）移輸入の部（單位圓）

年次	移輸入
三十五年	一九、七五二、九〇八
三十六年	二、六四七、七二三
三十六年	三、三九二
三十六年	四、六五五
三十六年	一、九八四、三一八
三十六年	二、六五〇、〇八七

移輸出入重要品國別五ヶ年表

（イ）移輸出の部

年次	國別	日本	英國	來國	支那	獨逸	關領印度	露領亞細亞	其他	合計
四十四年		九〇五、一五六	一、三七五、六一八	一、〇五五、八二〇	五三二、三三七	一一〇、二〇〇	一四八、五一三	一〇七、三四	一二、四五五、八〇一	一九、七五二、九〇八
四十三年		七三五、三三三	一、一六一、四〇七	三六七、〇四〇	四四四、三〇五	七四、二〇七	七六、九一四	三五、三五五	九八、三六六、九二五	二、六四七、七二三
四十二年		五七五、一四一	一、一七八、九四四	四四四、三〇五	六〇、〇五四	八三、〇三三	三五、三五五	二二、三四七	八二、〇四四、九四三	二、六五〇、〇八七
四十一年		六四九、二六七	一、一三二、七三三	一、〇二三、三三三	四四、七一八	二八、七二三	二九、三二七	二七、八八六	一、〇二三、三三三	三、三九二
四十年		六八四〇、三九六	一、一三八、三五五	二二六、三五〇	一六、一二一	一八、二七	二九、三二七	二七、八八六	一、〇二三、三三三	四、六五五
三十九年		七一〇、九四七	八、三七三	四二六、〇六五	九八、二四六	二〇七三	一八、二七	二七、八八六	一、〇二三、三三三	一九、八四、三一八
三十八年		七二〇、八六四	五九、八四一	八〇、二五七	二〇七三	—	—	—	一、〇二三、三三三	二、六五〇、〇八七
三十七年		四九六、三四五	一六六、八三八	一〇〇、〇五七	一七五、八八九	—	—	七七、五六九	一、〇二三、三三三	
三十六年		二、九七九、一八三	五四七、二四三	三五八、三七九	二八五、三〇八	—	—	二一、八九五	四、六五六、九一五	
三十五年		二、一六八、九七五	—	一六六、六〇九	四二九、六七七	—	—	八、四五四	二、七六五、四一五	

大阪商船株式會社釜山支店

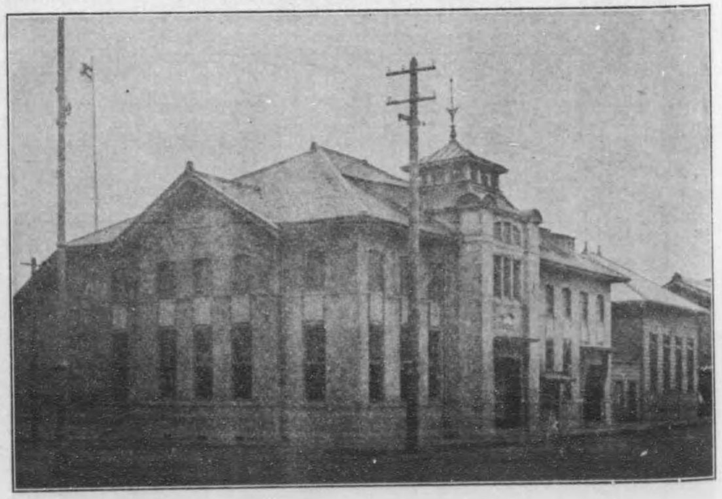
釜山港高島町一番地電話（一四一番／一五四番／八四七番）

●大阪清津線毎月三回
神宮丸（三〇〇噸）臺北丸（二七九噸）
釜山ヲ經テ大阪、神戸、
關門、元山、西湖津、新浦、城津
清津行

●大阪仁川線毎月八回
須磨丸（一五六噸）温州丸（一二〇噸）
漢城丸（一三五噸）第三仁義丸（九九噸）
釜山ヲ經テ大阪、神戸、關門、
馬山、木浦、群山、仁川行

●長崎大連線毎月四回
城津丸（一二四噸）安東丸（八三〇噸）
大阪清津線ハ臺北、神宮ノ三
千噸型ノ巨船ヲ用ヒ客室ノ完
備廣濶船體ノ動搖セザル本航
路他ニ其比ヲ見ザル所ナリ
大阪仁川線、長崎大連線ノ各
船モ多大ノ改善ヲ加ヘ旅客ノ
御滿足ヲ期セリ

●米國行　二週一回
●マニラ上海行　四週一回
●上海香港行　四週一回
●臺灣行　月一回
●天津行　一週一回
●浦鹽行　一週一回
●樺太行　月三回



（釜山ヨリ内地臺灣各港行、朝鮮不開港行ハ朝鮮郵船ト相互連絡切符發賣）

品目	國別	四十四年		四十三年		四十二年		四十一年		四十年	
	建	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
玄米	日本擔	一三〇、四三一	五七、六〇二円	一二四、二四〇	九〇、七二一円	一三〇、四三一	五七、六〇二円	一二四、二四〇	九〇、七二一円	一、九〇〇、三	一、七九〇、三
	支那同	三七	一、七六	六三	二、三三	三七	一、七六	六三	二、三三	二、四三	二、一八
	亞露同	—	—	—	—	—	—	—	—	六、六四一	三四八、八六五
	計	一三〇、四七四	五七、六〇三	一二四、二四八	九〇、七二四	一三〇、四七四	五七、六〇三	一二四、二四八	九〇、七二四	一、九〇九、〇〇三	一、七九二、〇九四
精米	日本擔	三一、四〇八	一七三、三一一	三七、九六七	一五五、八四二	三一、四〇八	一七三、三一一	三七、九六七	一五五、八四二	一一、四三四	五、九五八
	支那同	四八九	三〇八四	一、八八五	七、九九九	四八九	三〇八四	一、八八五	七、九九九	—	—
	亞露同	一四、二〇七	八二、五二〇	三五、二九六	一四三、一六三	一四、二〇七	八二、五二〇	三五、二九六	一四三、一六三	—	—
	其他同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	四六、一〇四	二五八、九五五	七二、一四八	三〇七、一〇四	四六、一〇四	二五八、九五五	七二、一四八	三〇七、一〇四	一一、四三四	五、九五八
其他の米	日本擔	七、五九八	三〇、一九九	三二、九三九	一五九、八四二	七、五九八	三〇、一九九	三二、九三九	一五九、八四二	二、一〇四	一、一五九
	支那同	—	—	一五、三三	七、九九九	—	—	一五、三三	七、九九九	二、一三	一、一五九
	亞露同	一八、八〇四	六三、七二六	二〇、九〇三	一四五、〇〇九	一八、八〇四	六三、七二六	二〇、九〇三	一四五、〇〇九	四、二一七	二、三一八
	計	一八、一六二	六四、八九五	二四、七四四	一五五、〇二一	一八、一六二	六四、八九五	二四、七四四	一五五、〇二一	六、三二一	三、四七七
大、小麥	日本擔	八二	二七〇	四二、八三二	一二〇、二四四	五六、三六六	一五四、九八一	六、八二六	一、八三三	七七、八五	二一、一九〇
	支那同	六九九	二、一五九	二一、八四四	五五、五九九	五五、五九九	一六〇、五八〇	二九	六四	—	—
	計	七八〇	二、四〇九	一四、三一八	五二、六一〇	一六〇、五八〇	一六〇、五八〇	六、八五五	一、八五六	七七、八五	二一、一九〇
日本擔		五〇五、七〇五	一、六八八、四三	六九、一七五、六二六、一〇九三		七七、七九九、二八四、八〇六六		二七一、六二一、〇三二、九四一		—	—

大阪商船株式會社釜山支店

海陸貨物取扱業
曳船　艀船賃貸　鐵道輸送
船舶用水供給　通關手數
勞働者供給　水先案内　船舶
賃貸借仲立　海上保險仲立
石炭販賣總督府鐵道局御用
陸軍運輸部釜山支部御用達

朝鮮釜山高島町

釜山商船組

電話　百　三十四番
電話　三　百　六十八番
振替貯金千六百六十六番

大豆	支那	擔	—	—	二〇	五九	—	—	—	—	（日本）五七〇、七五三	一、七七〇、〇三四
	計		五〇五、七〇五	一、六八八、五四三	六九一、七七六	二、三六二、一五三	七一七、九九五	二、八四八、〇六六	三七二、六三三	一、〇三三、三九四	（亞露）三	七
荏胡麻	日本	擔	九、四〇〇	五五、三八四	一四、〇三五	六八、三二三	五、五三二	三二、六四三	三、三九七	一三、一八六	六、〇四八	二八、三五一
	亞露	同	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇	三〇
	計		九、四〇〇	五五、三八四	一四、〇三五	六八、三二三	五、五三二	三二、六四三	三、三九七	一三、一八六	六、〇五八	二八、四〇一
鮮魚	日本	擔	八、五六八	九五、六〇六	一三、三七一	一三七、五〇一	一三、九九六	一五二、七九三	一一、八八六	一五五、四四七	三九、五三六	三〇五、七三一
	支那	同	一八三	二、一一三	一三四	一、五五七	二六〇	三、〇五三	二一〇	二、六九八	七三三	四、四三九
	亞露	同	五〇	五三六	五八	六七三	三七	四六〇	四七	六三三	六〇	七一三
	計		八、八〇一	九八、二五五	一三、四五三	一三九、七三一	一四、二九三	一五五、三〇四	一二、一四三	一五八、七六八	四〇、三二八	三一〇、八七四
乾鹹魚	日本	擔	二五、三〇八	一三一、八六五	二五、七五六	一〇七、八一八	一三、七一三	六七、四九九	八、二五三	五六、四〇九	—	—
	支那	同	三八四	一、八五三	三三六	一、五五三	五〇五	二、三七〇	六〇	四三三	—	—
	其他	同	八	五六	二〇	九五	—	—	—	—	—	—
	計		二五、七〇〇	一三三、七七三	二六、一〇三	一〇九、四六五	一四、二一八	六九、八六九	八、三一三	五六、八四二	—	—
海參	日本	擔	一、五二〇	三四、七〇三	一、〇六八	二一、六〇六	—	—	八八	二、三六〇	五九三	一五、九〇〇
	支那	同	三二四	八、一一三	四三九	一〇、三一七	一、〇九八	二六、九七七	九一三	二四、三八七	一、〇八五	二七、一四三
	計		一、八四四	四二、八一五	一、五〇七	三一、九二三	一、〇九八	二六、九七七	一、〇〇〇	二六、七四七	一、六七八	四三、〇四三
乾鰕	日本	擔	一、六五五	三一、七八三	一、七五四	三三、八三五	一、九七三	三五、八八四	九八二	一四、二一八	—	—
生牛	日本	頭	二、一八三	三三、三〇三	一、三一九	三〇、四八四	二、〇七五	三七、八五二	一四、三三六	三〇七、八三七	一三、八二〇	二八五、七六四
黑鉛	日本	擔	三一、五〇〇	三三、三八九	四、二二四	一四、一三八	三〇、〇五六	三〇、〇五五	八三、六五八	八三、七二八	一一、九六三	一三、三五六

牛皮	日本	擔	一三、五四四	三四四、九八四	一三、〇〇〇	三〇七、六八三	一〇、〇九三	二四三、四六三	四、六四一	一二八、三七一	一三、四一八	一三七、三五七
紙	日本	斤	二、〇五四	五、三二七	三三一	七八	一、一〇〇	二四四	一五五	三三	一五、〇五〇	二、三四六
	支那	同	二四、三一〇	六、〇六八	二一、七五五	七、九〇九	二七、三五七	六、一一〇	八、二五九	一、八五八	六、二〇九	一、五四七
	亞露	同	五、八三六	一、四五九	四、七九四	一、一〇〇	四〇〇	八〇	一、八一〇	四三八	二、六七〇	六八〇
	計		三二、二〇〇	八、〇五四	三六、八八〇	九、一八七	二八、八五七	六、四三四	一〇、二二四	二、三三九	二三、九二九	四、五七三
布海苔	日本	擔	六、一三六	四三、五七七	七、〇一〇	五一、九九八	五、七五六	三三、六九二	三、六五一	一八、七三六	一五、八〇四	五四、三八一
	支那	同	—	—	—	—	—	—	—	—	二	三〇
	計		六、一三六	四三、五七七	七、〇一〇	五一、九九八	五、七五六	三三、六九二	三、六五一	一八、七三六	一五、八〇六	五四、四一一
肥料干魚	日本	擔	五七、六二四	一七二、九二三	五七、八八五	一七五、五三五	二九、〇四三	八一、一五四	三三、九一八	六五、一三六	一八、三三三	五〇、三四九
	支那	同	—	—	—	—	一七	五六	—	—	—	—
	計		五七、六二四	一七二、九二三	五七、八八五	一七五、五三五	二九、〇六〇	八一、二一〇	三三、九一八	六五、一三六	一八、三三三	五〇、三四九

備考 本表中の單位換算は附錄度量衡比較表參照

(ロ) 移輸入の部

品目	國別	建	四十四年 數量	四十四年 價額	四十三年 數量	四十三年 價額	四十二年 數量	四十二年 價額	四十一年 數量	四十一年 價額	四十年 數量	四十年 價額
小麥粉	日本	擔	三五	一九六円	四三	三七八円	—	—円	九七七	五、〇八四円	八、五二五	四四、七八二円
	米國	同	二七、七九三	一五〇、四五九	一七、一二八	八九、三六三	一三、六〇九	六八、四三五	一四、六五四	七六、〇〇四	九〇〇	四、二七一
	其他	同	七六	四二三	—	—	—	—	—	—	一五〇	八九九

計			二七,九〇三	一五一,〇六七	一七,一七〇	八九,七四一	三三,六〇九	六八,四三五	一五,六三二	八一,〇八八	九,三六五	四九,九五二
食鹽	日本（內・臺）	擔	一三五,一四五	八四,五三一								
	日本 內	擔			七,六九四	一一,二八三	四,八九九	七,二九〇	一三,六七五	一五,九七三	一四三,八六一	一一一,五九六
	日本 臺	擔			四六,八〇〇	二四,七三〇	八四,九五〇	五一,六七九	一五三,三三五	八二,三七四	九七,二〇一	四三,五〇一
	支那	同	二四四,四九六	八七,四八四	七九,五九九	三二,〇五六	二	二	一〇	五	—	—
	浦鹽	同	八五	一一九	四	六	—	—	—	—	—	—
	計		三六六,五〇一	一六三,七八五	一三四,〇九七	六八,〇六五	八九,八五一	五八,九七一	一六六,〇一〇	九八,三五二	二四一,〇六二	一五四,〇九七
鹹魚鰊	日本	擔	八	四九	二	一八	九,三一九	三八,六三一	五,三九六	二一,七七五	三,八一六	二〇,七〇四
	米國	同	三,七三五	一五,〇〇八	一七,三九三	六九,八四一	一〇,一八一	四一,〇五七	四,七二一	一八,七三四	—	—
	露亞	同	一,二九一	四,六一七	四三五	一,二七四	七二八	二,七一五	二,三四六	八,六四〇	五七五	三,〇五九
	其他	同	四二〇	一,六二四	—	—	—	—	三四〇	一,〇五三	一五三	三〇三
	計		五,四五四	二一,二九八	一七,八三〇	七一,一三三	二〇,三三八	八二,三九三	一二,七九三	五〇,二〇二	四,五四三	二四,〇六六
砂糖及精糖	日本	擔	五〇,六三〇	三八四,三〇三	三八,四三四	二八六,一八四	三四,六七七	二六一,〇一九	二六,七七六	二〇三,三三四	二八,二六八	二〇六,五五四
	蘭印	同	五,一六六	三四,二九二	二,二七五	一五,三七四	六,二六五	四三,八四五	六,四六二	四四,三九三	三,〇三七	一八,二七七
	香港	同	一,一一九	八,三一四	四七七	三,〇〇三	二,三五八	一六,一一七	六,八二七	四八,九八一	四〇一	三,〇〇八
	比利賓	同	八〇	四四〇	五〇四	二,七三三	五八六	三,三三四	二〇〇	一,〇三〇	—	—
	其他	同	一八	二四〇	一九九	一,四三六	二八二	一,六二九	三,〇三五	二〇,四一三	八一三	四,八〇二
	計		五七,〇〇三	四二七,四八九	四一,八八九	三〇八,七〇八	四四,〇六八	三二四,八三四	四三,三九〇	三一八,〇五一	三二,五一九	二三二,六四一
清酒	日本	石	五,六四八	一四三,四〇三	五,七九九	一五二,〇七五	五,七九九	一三〇,一六四	六,三三四	一七五,一九五	—	三三,三三六
麥酒	日本	打	二九三,二〇七	六三,六〇〇	三一三,二九九	七〇,一〇三	四五,三八五	七九,七八八	五一,六五九	八八,七二七	三三,四七八	五九,三二一
	佛國	同	四〇	二九	—	—	—	—	—	—	—	—

計			二九三,二四七	六三,六二九	三一三,二九九	七〇,一〇三	四五,三八五	七九,七八八	五一,六五九	八八,七二七	三三,四七八	五九,三二一
石油	日本	瓦	七〇	二八	一〇〇	三〇	八三〇	二四八	二〇〇	四九	二〇	五
	米國	同	一,九八六,八〇九	三五八,八六九	二,三三六,三三五	四〇三,〇三五	二,三八七,五三〇	二七九,七〇三	二,二九七,四五〇	五〇三,二六〇	一,六三三,八八〇	三四三,四八〇
	蘭印	同	五四一,五二〇	九五,七七〇	一七一,〇二一	六一,五四〇	二三六,四〇〇	四〇,一八八	—	—	—	—
	露亞	同	—	—	—	—	一八八,九八〇	三二,一二七	一一五,〇〇〇	三〇,三〇〇	一〇〇,一九〇	二〇,六四七
	計		二,五二八,三九九	四五四,六六七	二,五〇七,四五六	四六四,六〇五	二,八一三,七四〇	三五二,二六六	二,四一二,六五〇	五三三,六〇九	一,七三四,〇九〇	三六四,一三二
綿織糸	日本	斤	二,四四九,三三一	八六四,二七四	二,三九二,〇三三	八三〇,三三九	一,七一五,四四五	五五八,〇六四	二,八八六,一三六	九二〇,九三九	三,九七七,八六四	一,〇一七,三五一
	支那	同	—	—	—	—	—	—	—	—	五八〇	一九五
	計		二,四四九,三三一	八六四,二七四	二,三九二,〇三三	八三〇,三三九	一,七一五,四四五	五五八,〇六四	二,八八六,一三六	九二〇,九三九	三,九七八,四四四	一,〇一七,五四六
生金巾	日本	方碼	九,三四一,〇〇三	一,〇七九,八四一	一四,一一三,六六〇	四八一,〇九七	—	—	—	—	—	—
	英國	同	四,八六一,二九四	五七四,一二八	四,六一一,三八三	五三六,〇三三	四,六八三,五〇五	五五一,三三三	五,六三六,〇四八	六四三,四六一	一八三,四八八	八五三,一五六
	其他	同	二,〇〇〇	三三五	—	—	—	—	—	—	三九八	一,九九四
	計		一四,二〇四,二九六	一,六五四,三〇四	一八,七二四,九一三	一,〇一七,一三〇	四,六八三,五〇五	五五一,三三三	五,六三六,〇四八	六四三,四六一	一八三,八八六	八五五,一五〇
晒金巾	日本	方碼	一,一五八,六七九	一三六,〇三三	九七五,九八五	一〇九,三一五	—	—	一三四,四六三	一五,五〇五	—	—
	英國	同	一,八五九,〇一九	二三三,三七〇	一,六四〇,二六九	二〇九,〇五一	一,六六三,二〇三	二〇七,一四四	一,五五〇,四四一	一九七,六一一	三三,四七四	一三九,六三〇
	其他	同	八〇	八	—	—	—	—	—	—	七〇〇	三,五〇〇
	計		三,〇一七,七七八	三六九,四〇一	二,六一六,二五四	三一八,三六六	一,六六三,二〇三	二〇七,一四四	一,六八四,九〇四	二一三,一一六	三四,一七四	一四三,一三〇
日本木綿	日本	反	一,〇三九,二六八	六六九,七九〇	九七四,二七〇	六〇四,一八六	六三三,二八七	三九三,〇二九	七三三,三五六	五〇三,〇一三	六六〇,五七四	四四三,九一一
	日本	方碼	三,七八一	一,六〇八	二,五六八	一,〇四三	二,八五三	九一六	二六,七五八	六,八八〇	—	—

綿繻子及綿イタリアンス	支那	反	—	—	—	—	—	四五、八三四	一三、四五九	—	—
	其他	同	三四七、三四四	七〇、八四三	二七二、四六一	六一、一六二	一七五、六六六	六四、二三三	一八、〇〇五	—	—
	計		三五五、一三五	七三、四八〇	二七四、〇二九	六二、一〇四	一七八、五一九	一三六、八一四	三七、三四四	—	—
紙巻煙草	日本	千本	一七、三三〇	三七、四四三	五三、三六三	六六、三六五	七一、一九三	一〇三、五九三	六九、九五三	一〇九、〇五八	九〇、一一九
	支那	同	一〇七、八二〇	九七、三二八	六二、〇四八	五五、四一〇	六四、七五六	五六、六四六	四四、一九七	四三、八九九	六〇、八七〇
	土耳其	同	三、二四二	一三、三五三	九八八	一五、七六三	八一六	四、一〇八	三八〇	二、三三〇	二四三
	其他	同	三八一	二、〇三六	—	—	一、一一三	一、二三三	三、三九三	三、四一四	一、五三五
	計		一二八、七七三	一四九、八四九	一一五、三九八	一三七、五三八	一三七、八七六	一六四、五六八	一一七、八二三	一五七、六〇一	一五三、四四七
石炭	日本	噸	六三、七〇五	三三〇、三六五	二五、一六六	一二五、七九五	二七、九三二	一七二、〇三三	四五、九二四	二七〇、八一五	四一、一五三	二七三、六六四
	支那	同	二、〇七〇	一三、九三八	一三、二一五	八一、五七七	一五、〇〇一	九八、一二三	—	—	—	—
	計		六五、七七五	三六三、二〇三	三八、三八一	二〇七、三七二	四二、九三三	二七〇、一五七	四五、九二四	二七〇、八一五	四一、一五三	二七三、六六四
木材及板	日本	枚	—	二九七、一三一	—	二七四、二四〇	—	二三八、二八三	—	二四四、九五三	—	二六六、八九〇
	米國	同	—	二、九三〇	—	三三六	—	一、一〇五	—	二六、二七二	—	—
	其他	同	—	四四	—	—	—	二五一	—	—	—	—
	計		—	三〇〇、一〇五	—	二七四、五七六	—	二三九、六三九	—	二七一、二二五	—	二六六、八九〇
鐵道枕木	日本	本	二〇七、五六六	一六六、七四八	二三三、九六六	一六八、四五八	八七、九一〇	七四、七一九	一三五、八〇三	一六五、二八三	—	—
藁叺	同	枚	一、六四四、四八六	一六四、三七〇	二、三九〇、六九四	二四〇、五〇二	三、〇七八、五六三	三、三三三、四三三	三、〇五〇、五八七	三、三〇四、三三七	一、六五一、九〇五	一七三、四五六
縄及莚	同	斤	二、七一九、九四三	七九、三〇八	二、七六四、八六〇	八四、〇七一	二、七九五、〇三一	七七、五二七	二、三八八、七七一	六五、七八六	七三六、三〇〇	二四〇、二八八
セメント	同	擔	七一、八四〇	一〇六、三七九	一三八、六一八	一八三、一七三	九六、〇六三	一、三一二、七八五	五〇、四一九	七七、三三四	一一四、五六三	一八三、四六〇
セメント	其他		二、三九四	三、三六〇	—	—	一七	三三	—	—	—	—

燐寸 日本 グロス	計
四八六、〇六二	七四、二三四
一六六、四九六	一〇九、七三九
四四二、三三二	一二八、六一八
一四八、一一三	一八三、一七三
四二九、五一〇	九六、〇八〇
一四〇、九三八	一三三、八一七
三四九、八四六	五〇、四一九
一一八、九〇八	七七、三二四
三三一、八九九	一一四、五六三
九三、五〇〇	一八三、四六〇

備考　本表中單位換算ハ附錄度量衡比較表參照

釜山港地金銀及貨幣流出入額十ヶ年表

(イ) 流入の部 (單位圓)

年次／種別	金地金	金貨	銀地金	銀貨	白銅貨	銅貨	葉錢	紙幣	計
明治三十五年	—	—	一三、八七二	六六八	—	—	—	一、〇四八、六〇〇	一、〇六三、一四〇
同　三十六年	—	—	一、四四三	四、〇〇五	—	—	六九	四四、三〇〇	四九、八一七
同　三十七年	二九五	—	五、六六一	一〇、五六五	—	五〇	—	一、一六二、五〇〇	一、一七九、〇七一
同　三十八年	—	—	一三、〇七九	一〇二、〇〇〇	九〇、〇〇〇	—	—	二、七六五、五一八	二、九七〇、五九七
同　三十九年	五〇〇	—	六六、八八六	一八一、九五一	七八	八五、五〇〇	二、〇四四	一、八五四、一三四	二、一九一、〇九三
同　四十年	一〇〇	—	三、九九七	一、一九九、四七六	四三〇、四一二	八四、九六六	七、五二五	三、五八三、九〇五	五、三〇〇、四〇〇
同　四十一年	—	一〇	三、一九八	四、四二三、五七[illegible]	三九五	一三三、八二四	—	八、五六二、九四五	九、一〇四、六一九
同　四十二年	三五〇	—	二、四一六	五五、七五八	六一〇	七八、一一二	—	一四、七七三、四一六	一四、八六〇、六五九
同　四十三年	—	—	三、五九〇	一〇三、七九四	一四一	三二、〇八一	—	九、二五一、六五〇	九、三八一、二六三
同　四十四年	—	—	三、五九五	二、〇三七、八八六	—	—	—	六、〇八八、八七〇	八、一三〇、三五一

（ロ）流出の部　（單位圓）

年次＼種別	金地金	金貨	銀地金	銀貨	白銅貨	銅貨	葉錢	紙幣	計
明治三十五年	一〇四、九一五	—	—	六、六七三	—	—	六〇、八三〇	九三〇、五四七	二六五、四七四
同　三十六年	一一七、六八六	—	—	六一九	—	—	七五、六三八	九五、九〇六	二八九、八四九
同　三十七年	四三四、一八五	—	—	二、〇〇〇	—	—	—	一一六、三四九	五五三、五四九
同　三十八年	一四九、四一三	—	—	—	—	—	九〇九	五三四、六一七	六九三、一二七
同　三十九年	八九、五三四	一四、八三六	—	三五、三〇〇	二八〇	—	五〇、七三九	四六三、四五六	六五〇、一四四
同　四十年	五六、一九四	—	—	八四、〇〇三	四、三〇〇	一、一一六	七〇、三七〇	二九〇、一〇〇	一、一三八、四五三
同　四十一年	二、六三一、八三五	—	—	一三、九〇〇	三、六八〇	一、三九〇	五五、四三六	五六四、三四六	三、三四一、七六一
同　四十二年	五、四五二、三二九	—	—	一二九、六三	二、三〇〇	六七、五〇五	四八一、三〇〇	六、一三四、二七	六九、三四四、一七
同　四十三年	六、九一七、三三	—	一、二〇〇	九、七三	—	三、八〇〇	一〇	—	六、六〇三、三九
同　四十四年	四七六、一〇九七	—	四〇三	八九七、一二五	—	—	—	五〇	三六五、六六〇、三三

釜山稅關收稅額十ヶ年表　（單位圓）

年次	移輸出稅	移輸入稅	噸稅	計
明治三十五年	一三二、二八四	一八六、二六八	一六、八〇六	三三五、三五八
同　三十六年	九八、四四五	二〇一、九九六	一九、三六三	三一九、八〇四

年次	移輸出稅	移輸入稅	噸稅	計
同　三十七年	八二、〇一一	二八八、二六七	二二、八九九	三九三、一七七
同　三十八年	九七、七八五	三九五、五一五	二九、一七一	五二二、四七一
同　三十九年	一三七、九二一	四三八、一九九	二五、三三六	六〇一、四五六
同　四十年	二一八、二五一	四八五、一九〇	二四、〇一三	七二七、四五四
同　四十一年	二一五、〇八〇	五二九、六五二	二三、七六〇	七六八、四九二
同　四十二年	二四七、五七六	四九五、五六〇	二三、〇〇三	七六六、一三九
同　四十三年	二六八、九四四	五六一、二八二	二五、二〇九	八五五、四三五
同　四十四年	二二七、四六六	六八九、七七九	三一、一四四	九四八、三八九

備考　本表中には雜收入額を含まず

二　沿岸貿易

對外貿易に亞ぎ本港貿易の消長に關するものは沿岸貿易なり日露戰役前に在りては我對韓經營も尙未だ著しき活動を見るに至らず內地人の移住者も亦未だ多からざりしと共に本港の沿岸貿易も其範圍馬山統營蔚山等僅に附近沿岸の數地方に局限せられ尙微々として振はざるの狀態なりしと雖も戰後韓國宗主權の我に歸し對韓經營頓に其面目を革むるに及び爾來內地移住者の年一年續々として增加し來れるのみならず近年內地各府縣競ふて朝鮮海出漁の奬勵に努め沿岸島

嶼到る處各府縣の漁業的經營を見るに至れる等大に沿岸各地の開發を促し一面沿岸航業の發達と相俟て逐年本港沿岸貿易の發展を促進し今や其貿易額昨四十四年)一ヶ年移出八百九十七萬圓移入五百五萬餘圓總額一千四百餘萬圓の鉅額に及び而も其移出額の如きは反て對外貿易の移輸出額を凌駕するに至り其貿易範圍の如き北は北鮮各港より遙に雄基灣に至り南は慶尙南道及全羅南道に於ける南鮮沿岸の一帶並其間に包容せる無數群島より遠く木浦群山、仁川等各港に及び實に著大の發展を示せり今左に本港沿岸貿易に關する數表を揭げ其情況を示さんとす

沿岸貿易額移出入別十ヶ年表（單位圓）

年次＼種別	移出			移入			移出入總計	移出超過額
	朝鮮產品	日本內地及外國產品	計	朝鮮產品	日本內地及外國產品	計		
四十四年	三、三三三、三五八	五、七四六、九〇六	八、九九〇、四八九	四、八二三、三六三	二、三四八、八六	五、〇五七、〇一九	一四、〇二七、五三八	出 三、九二三、四四〇
四十三年	二、六五〇、四八七	三、七一四、八七八	六、三六五、三五五	三、九四三、六五二	一、四九八、五三一	四、一四九、二三三	一〇、五一四、六一七	出 二、二一六、一三八
四十二年	二、〇四〇、三三九	二、六八七、七三五	四、七二八、〇七四	三、八九五、六二九	一、四八六、四三〇	三、三八二、一五九	八、一一〇、二三〇	出 一、三四五、八四五
四十一年	一、二六五、三五六	二、〇七、八四二	三、三七三、一九八	二、八九五、六二九	一、五〇、一二七	三、〇四五、七五六	六、六一八、九三三	出 五二七、四二一

年次＼種別	移出			移入			移出入總計	移出超過額
	朝鮮產品	日本內地及外國產品	計	朝鮮產品	日本內地及外國產品	計		
四十年	一、六九一、一五〇	二、四〇二、〇〇一	四、〇九三、一五一	二、三〇九、一九七	八七九、一五一	三、一八九、三四八	七、二八二、四九九	出 九〇三、八〇三
三十九年	一、三一七、三四	一、〇三二、一六四	二、三四九、八九八	一、三五七、三五七	八七、三五七	一、四四五、一四	三、七九五、〇一二	出 九〇四、八五四
三十八年	一、三七八、〇一五	一、一四、五五七	二、四九二、五七二	一、一四〇、六三五	三八、七七八	一、一七九、四一三	三、六七一、九八五	出 一、三一二、一五九
三十七年	一、四四一、一三六	一、四〇三、六三九	二、八四四、八六五	一、四九九、五一一	九六、一二三	一、五九五、六三四	四、四四〇、四九九	出 一、二四九、二三一
三十六年	七三三、二八三	六一四、八一三	一、三四八、〇九六	一、三五一、八八七	八三、三八四	一、四三五、二七一	二、七八三、三六七	出 八八、八二五
三十五年	九五二、四二九	八七九、一五一	一、八三二、五八〇	一、一〇五、八〇三	八三、三八四	一、一八九、一八七	三、〇二一、七六七	出 六四二、三九三

年次＼種別	移出			移入			移出入總計	移出超過額
	朝鮮產品	日本內地及外國產品	計	朝鮮產品	日本內地及外國產品	計		
四十年	一、六九一、一五〇	二、四〇二、〇〇一	四、〇九三、一五一	二、三〇九、一九七	八七九、一五一	三、一八九、三四八	七、二八二、四九九	出 九〇三、八〇三
三十九年	一、三一七、三四	一、〇三二、一六四	二、三四九、八九八	一、三五七、三五七	八七、三五七	一、四四五、一四	三、七九五、〇一二	出 九〇四、八五四
三十八年	一、三七八、〇一五	一、一四、五五七	二、四九二、五七二	一、一四〇、六三五	三八、七七八	一、一七九、四一三	三、六七一、九八五	出 一、三一二、一五九
三十七年	一、四四一、一三六	一、四〇三、六三九	二、八四四、八六五	一、四九九、五一一	九六、一二三	一、五九五、六三四	四、四四〇、四九九	出 一、二四九、二三一
三十六年	七三三、二八三	六一四、八一三	一、三四八、〇九六	一、三五一、八八七	八三、三八四	一、四三五、二七一	二、七八三、三六七	出 八八、八二五
三十五年	九五二、四二九	八七九、一五一	一、八三二、五八〇	一、一〇五、八〇三	八三、三八四	一、一八九、一八七	三、〇二一、七六七	出 六四二、三九三

備考　三十九年分中には未開港地移出入額を含まず依て參考の爲め四十年及三十八年兩年中の未開港地移出入額を平均したるものを上ぐれば左の如し

移出　二六、一、二九六
移入　五七八、〇四三

朝鮮產品　九六七、七一七
外國產品　三、四四一

沿岸貿易移出入品別三ヶ年表

(イ)　移出の部（釜山より）

品名	朝鮮產			日本內地及外國產品		
	四十四年	四十三年	四十二年	四十四年	四十三年	四十二年
穀物及種子	一、〇四〇、二〇五 斤	一、四二〇、〇〇一 斤	一、二四〇、五九九 斤	二、〇一四、三二七 斤	一、六二〇、四八一 斤	一、二四四、五九九 斤
飮食物	五八四、三二一	四四三、三七	三五二、一二一	四五七、二三五	三五六、一八七	三一〇、九三五

砂糖及糖菓類	四四、六七〇	二七、一六四	—	二四七、二七三	一四三、二九一	一四三、四二七
酒類	六〇、九七九	四三、二二四	二七、六六〇	一四九、七八三	一一三、二五七	一三四、〇〇一
藥材及染塗料	五一、五二一	二七、七五〇	三七、七三五	七二、八一三	三四、一一九	三〇、二九七
油及蠟	三、二四五	二六三	—	五五七、六六五	四四二、七八一	三六五、六一五
絲縷繩索及同材料	九、〇二四	三、九四九	二、四〇二	三六六、九〇五	二四七、一三三	一五五、三三七
綿布	二一九、九〇四	一三三、五三四	一三七、〇二五	一、七二五、三三六	一、〇三二、六二六	六七七、七二八
麻布	六〇、五六二	三七、四二一	四六、〇八二	一三三、四二一	七七、一九四	五二、一六七
毛布	—	九一〇	—	二九、一八七	一三、三三五	三、一三一
絹布	—	一、二六〇	一、三〇〇	六一、二三〇	六四、〇八七	二〇、一七三
諸布帛及製品	一、五三三	八、四〇〇	五、〇五〇	五九、一四八	九六、二八一	八一、〇九六
衣服及付屬品	一五、二九五	一一、〇九四	七一〇	一〇五、八三七	八四、五四九	五三、三三三
紙及製品	六三、二三五	四一、三三六	四五、一三一	六八、〇四八	五六、六八八	二七、八二〇
鐵及鋼	—	二四	—	九五、六七八	六三、二三〇	三一、五七一
其他の金屬	—	二四〇	—	四七、三八五	四三、九九六	二〇、八九一
金屬製品	五、八六四	四、五三七	二〇〇	一一一、七五〇	七二、一四一	四八、六三三
車輛及船舶	一、一五九	四四〇	—	三九、二八二	九、八七三	二、一〇八
學術器及機械	四一七	三一三	—	七二、一八六	四四、六二九	一三、七五八
煙草	六三、三四一	二三、〇六一	二三、五三二	三八五、八七八	三一七、七二六	二〇四、八二三
雜品	二一四、八四九	八二、三五〇	一四五、六五三	九三八、七二三	五二八、四七四	四一一、一五五
計	三、三三三、五八三	二、六五〇、四八七	二、〇四〇、三三三	五、七四六、九〇六	三、七一四、八七八	二、六八七、七二五

(ロ) 移入の部 (釜山へ)

品名	朝鮮產品			日本產品及外國產品		
	四十四年	四十三年	四十二年	四十四年	四十三年	四十二年
穀物及種子	二、三三八、七〇二円	一、九七四、二六二円	一、六三八、八八九円	一三三円	七四円	四九円
飲食物	一、七〇五、五四七	一、五三六、九七〇	一、五五五、七五〇	二一、一〇五	三九、八五一	二七、四八三
砂糖及糖菓類	三六六	四〇〇	—	一、三一七	一、一六〇	一、七九五
酒類	五、三五一	四、六五〇	三、九一三	三、四三三	四、七四九	五、八五〇
藥材及染塗料	二七、一〇九	一三、三三四	七、九二六	二、五四一	九〇三	一、六八六
油及蠟	三、三七五	一、六三一	七三三	一七、〇三一	一九、〇七六	六、八三八
絲縷繩索及同材料	七、四七八	五、四五五	四六六	四、八五九	二、二〇五	二、七六四
綿布	四七、四〇六	二九、一〇五	三五、〇四七	五〇、八九〇	三七、九八八	二八、一四三
麻布	三七四、三三六	三三二、五〇一	三三九、二五八	八、〇一七	二、一六〇	一〇〇
毛布	—	—	—	一、〇五七	一、〇八四	一三〇
絹布	九〇〇	五七九	三七	二、四五三	四、六〇四	一、八七四
諸布帛及製品	一、五六七	三五四	—	四、二七九	三、三三八	二六六
衣服及付屬品	三、五六八	三、三四八	一、四四六	一九、一三四	七、一八七	四、六八九
紙及同製品	五、三六二	八、四〇七	二、六三三	二、二三八	一、六八〇	六四六
鐵及鋼	—	二五	—	二、〇一九	三、七八二	七四三
其他の金屬	四、四九三	二、五四一	一七、三三五	三、一〇八	三、八二六	七
金屬製品	一、三九八	一、四三五	—	一〇、〇五〇	六、九〇三	五、七六六

品目	年次	四十四年	四十三年	四十二年
車輛及船舶		—	—	—
學術器及機械		—	—	—
煙草		九、一三一	五、七四四	一、四三六、六九〇
雜品		二九七、四七四	四四、四二九	一四、八五四〇
計		四八三、五六三	三、九四二、七二七	三、六九五、六五三

沿岸貿易移出入道別價額三ヶ年表

(イ)　移出の部（釜山より）

道別	年次	四十四年	四十三年	四十二年
慶尚道へ	朝鮮産品	六、〇〇〇、五〇〇円	二、六五、八八八円	一、五八、六九六円
江原道へ		一、八三、三〇〇	六三、二九	一、八九四
咸鏡道へ		一、九八〇、八三四	一、九四七、六三四	一、三五四、〇六六
全羅道へ		五三、三五〇〇	三一、三一三	八、三四三
京畿道へ		八四、七六七	四〇、九三一	六、一八四
平安道へ		三九、五八〇	一九、六五八	一、〇五二
忠清道へ		三、三七九	八五	—
計		三、三三、三五三	三、九四二、七二七	三、六九五、六五三
慶尚道へ	日本内地及外國産品	一、三四、九六八円	一、九〇、三四円	一、八七、八九六円
江原道へ		六五、七六七	二、六三三	一、八九四
咸鏡道へ		八、三〇、三六一	八、五八、一五八	二、九七、八三〇
全羅道へ		四三、八四九	六、四三、六四四	一、三三、八六四
京畿道へ		二、四〇、三四三	三、四三、三	一、〇五二
平安道へ		六、一八六	一、三〇三	一、〇五二
忠清道へ		四七九	三七三	—
計		二、六八、七三五	三、七四、八九八	三、三三、四八六

(ロ)　移入の部（釜山へ）

道別	年次	四十四年	四十三年	四十二年
慶尚道より	朝鮮産品	一、八四、一六三円	一、九四七、一一六円	一、六二、八四九円
江原道より		一、九四、七一三	一〇九、四八五	六四、四四八
咸鏡道より		一、七〇、一三三	一、四四九、五七四	一、六八、五八三
全羅道より		九九、八一二	三六、五五二	三三、九〇二
京畿道より		一四、三四四	三、〇二六	一〇、八五四
平安道より		七五、九〇三	四九、九八四	九、一一五
忠清道より		二、三五	—	—
計		四八三、五六三	三、九四二、七二七	三、六九五、六五三
慶尚道より	日本内地及外國産品	一、六二、八四九円	九八、一六二円	五四、七二九円
江原道より		六四、四四八	二、七八	一、七二一
咸鏡道より		一、六八、五三〇	四五、九〇三	一、四〇、四四
全羅道より		三三、八〇二	三六、五五二	二三、五七六
京畿道より		一〇、八五四	三、〇二六	一、三五二
平安道より		九、一一五	一、六二	六三九
忠清道より		—	—	—
計		三、六九五、六五三	三〇六、五三五	一四八、五四〇

沿岸貿易地別移出入價額三ヶ年表

(イ)　移出の部（釜山より）

地名	年次	四十四年	四十三年	四十二年
新馬山	朝鮮産品	三七、九三三円	三九、四三〇円	八、九五六円
三千浦		二五、三五四	九、一〇九	六、五〇六
新馬山	日本内地及外國産品	三四、三五円	一六六、四七円	一四四、一九一円
三千浦		三〇、三五五	三四、四二四	一五四、一六七

慶尙道	方魚津	三五、八九八	二三、八八六	五、一九三	六一、二三三	八八、五七二	一六三、二〇七
	縣洞	七七、三八六	二、八九五	—	一六八、〇五三	六六、六四四	—
	舊馬山	九三、五一七	三九、〇三三	四五、六三一	七三四、三三四	六三三、五三三	五〇三、六八一
	統營	一〇四、一七九	二八、七三三	一七、一九四	三一三、二一〇	二三六、一九四	一四六、〇八三
	固城	四、七五七	三、六一六	一、八四三	七、三三〇	八、一五三	四、一三四
	鷺梁津	八、一〇一	二八四	—	九一、八三八	三六、七九四	—
	河東	八、五四四	九、五七九	三、六七六	四三、七九八	三三、五一七	一、〇五六
	巨濟島	八〇、三九〇	二〇、五八五	一四、八二〇	八三、一四一	三八、四三五	三四、八〇八
	浦項	三一、九五九	一八、九四一	一三、三七九	三七一、六三一	二八、五一三	一四三、七一〇
	長生浦	二〇、四四六	九、九三三	一、四四一	一八三、五四〇	二九、八八七	—
	金海	四、八二四	二、九三七	一、四四八	三三、四〇九	一七、四七八	三三、三四三
	辰橋	四、七〇〇	二、七八二	五四	四五、一九四	二〇、九四八	一、一三九
	蔚山	五、四七六	七、四三八	一五、六七七	四四、六三三	三三、〇八七	九三、九八七
	晋州	五、六五〇	一、三六一	一、四〇〇	二六、二〇九	一三、三三六	五、四八九
	下端	八、五一三	五、九七七	二、一九七	一六、五四一	九、五六一	一五、八八八
	新場基	二八九	二、五七六	一、六五四	一、五〇六	一五、五二九	七、四三四
	其他	五三、〇九〇	三七、七九五	一七、七九九	一六〇、七〇六	七〇、二五四	四三、五九九
	計	六一〇、〇〇五	二六五、八八八	一五八、八五六	二、九一七、八七五	一、九八〇、三三四	一、三四四、九六八
江原道	竹邊	一四、五一〇	八、三三六	二、七二九	三五、四三六	二八、四五四	一六、八二四
	三渉	二六、七〇一	九、九三七	一、九〇四	二五、〇六一	一九、六九二	九、四三〇
	江陵	六一、二〇六	三三、四八七	九、〇四七	六八、四六七	三九、六四六	二五、三〇三
	杆城	一九、五五三	七、〇七三	一、九七九	一〇、三九五	八、八〇四	二、三八三

江原道	襄陽	二四、七三三	六、二三五	一五五	一五、〇一〇	七、四九四	二、七三六
	注文津	一四、八三七	二、三五三	—	九、五八一	一、六七〇	三〇六
	鬱陵島	二、七四一	一、九二五	一、九八八	三、八九一	二、六三六	五、〇七三
	長箭	一一、二七九	四、五四三	五三六	六、六八七	三、一〇八	七六六
	其他	六、九四一	三九〇	六一六	一一、五九三	五、〇三九	三、〇六七
	計	一八二、五〇〇	六三、一六九	一八、九四四	一八六、〇一〇	一二六、六三三	六五、七六七
咸鏡道	元山	七一六、〇三三	七四七、七三八	六六七、二四〇	六九四、四五三	三九一、一三三	三六七、七九一
	淸津	二七七、六三八	三一九、二三三	三三三、五〇三	二二六、八三五	一六八、九三四	一五九、七三三
	城津	一六七、七九三	一六三、三三七	一三三、六八一	一〇九、〇四六	八七、〇八四	七七、五三六
	新昌	九五、七一七	九二、五一七	一一八、〇八九	七三、五三七	三五、〇六九	四八、九九六
	雄基	三八、七三三	八七、三一五	九、二四六	三〇、一九九	三三、七七〇	一四、三一五
	西湖	七八、七〇九	九八、九五二	四九、五七七	七一、九〇八	七一、九〇八	四八、〇四一
	新浦	三四、三九九	四四、七七九	二一、三七九	八、三三〇	八、三三〇	八、四八三
	獨津	二〇九、二六八	二〇〇、八六五	一三〇、七三六	六〇、五六一	六〇、五六一	五五、八五三
	遮湖	三六、〇三五	四〇、三一〇	三八、〇六五	七、五〇六	七、五〇六	九、六九三
	端川	一九、六〇九	一五、四五〇	九、四〇八	四、〇一六	四、〇一六	三三、六八二
	前津	五八、四六四	八三、三一六	七八、三三四	二、七七四	二、七七四	八、五九三
	陸臺	三、六七五	一三、〇一一	二一、三四〇	一、一二九	七三一	一、五七三
	厚湖	四、七二一	一三、〇五五	二五、四〇〇	六、四三三	一、四三九	八、二八三
	其他	四〇、〇六三	二九、八七七	二五、二六六	二三、七二四	一三、九四三	八、二〇三
	計	一、七八〇、八二四	一、九七四、六三四	一、三五九、八六四	一、三五四、〇六六	八八五、一五八	八二〇、三六二

全羅道	木浦	二七一、〇四八	一六〇、六〇八	一六二、六二一	四四六、六〇〇	三三二、八四四	三三六、一九八
	群山	一六六、六二五	一一九、五三八	九五、三四三	二五〇、四三一	一六〇、〇三九	九三、三四八
	麗水	四一、九〇四	九、五二一	七六四	一三七、六七七	五二、八五六	一八、五〇六
	筏橋	一〇、三二三	四、八四〇	一九	一三二、四四三	一四、六五六	三三、一六〇
	順天	八、六三〇	四、一三七	三、一九〇	一〇九、六六三	三五、八五八	二六、一三三
	濟州島	一一、二六七	七、〇五七	五、七〇三	八二、七六五	三三、〇五〇	一六、七七三
	其他	三二、七〇三	七、四三一	一〇、二〇一	五三、二一七	六一、三七三	四五、三七三
	計	五四二、五〇〇	三一三、一三三	二七七、八三〇	一、二三二、八五六	六九〇、六七六	四三八、四七九
忠淸道	江景	二、三七七	八五	—	三七三	四七九	—
	其他	一、〇二〇	—	—	—	—	—
	計	三、三九七	八五	—	三七三	四七九	—
京畿道	仁川	八四、七六七	四〇、九三二	二三、三九七	四八、六五四	三五、四三三	三三、四〇〇
	其他	—	—	—	—	—	—
	計	八四、七六七	四〇、九三二	二三、三九七	四八、六五四	三五、四三三	三三、四〇〇
平安道	鎭南浦	二九、五九〇	一九、六五八	二一、四四三	一七、〇七三	六、一八六	四、七四九
	其他	—	—	—	—	—	—
	計	二九、五九〇	一九、六五八	二一、四四三	一七、〇七三	六、一八六	四、七四九
總計		三、三三三、五八三	二、六五〇、四八七	二、〇四〇、三三三	五、七四六、九〇六	三、七一四、八七八	二、六八七、七三五

(ロ) 移入の部 (釜山へ)

地名＼年次		朝鮮産品 四十四年	朝鮮産品 四十三年	朝鮮産品 四十二年	日本內地及外國産品 四十四年	日本內地及外國産品 四十三年	日本內地及外國産品 四十二年
慶尙	新馬山	二九、〇二六円	四六、一六〇円	二八、九九九円	一三、〇二九円	五、二〇七円	七、九〇九円
	三千浦	四六、四八七	七六、一四三	四〇、二八三	九、八五〇	六、七二七	六、四三〇
	方魚津	二六、五五五	二七、五九〇	一、六〇九	八、七六三	四、四四六	四〇七
	縣洞	三、八五三	—	—	四、六三五	—	—
	舊馬山	三二六、四〇五	四四三、四六一	四五三、五二一	一五、八六七	一八、九九〇	一四、三六三
	統營	一二七、〇五三	一三九、〇四七	七三、五八五	一一、二七六	四、三〇一	四、八三〇
	固城	一〇、九一一	九、四七九	六、四四六	七九	三七八	—
	鷺梁津	一三、七三九	八、八二四	—	四、二四六	三六三	—
	河東	六四、五三一	一三、九四四	二四、一七五	三八	九三	二六八
	巨濟島	三七、四八四	一七、九一〇	八、五三五	四、八一〇	二、六一八	四六九
	浦項	二八九、五〇四	二一一、九九五	一七五、五八五	二、九四三	二、三三七	二、一三〇
	長生浦	三九、八四六	二七、六五六	一〇、五五七	五、四一〇	五、〇六六	六七九
	金海	一七、六四四	一四、六八四	一三、四五六	二六九	六三	八〇
	辰橋	一五〇、三〇五	一三三、九四四	八、四五八	三、〇三九	四一六	—
	蔚山	一二四、八一〇	一〇八、三三九	一六三、二五七	一、四二九	一、一一一	一、五五〇
	晋州	八二、六五六	五一、〇五六	三六、〇四三	一〇三	三五	—
	下端	三五五、七二八	三三〇、六九一	四二六、三五四	六四九	一五一	一七六

道	新基	一六、四九二	八四、一四五	一三、五二四	—	二〇	—
	其他	九九、二三六	一二四、一五九	四七、一三三	一一、七二八	三、四一九	一、五八五
	計	一、八四一、二六三	一、九四七、一一六	一、六二八、四九八	九八、一六三	五四、七二九	四〇、八六五
江原道	竹邊	二三、九八三	二四、三三八	七、〇五〇	七七六	二五五	二八〇
	三陟	三八、五七〇	一四、五六七	一三、三三〇	二六〇	九七二	一四〇
	江陵	一四、三〇四	一七、九一六	三、七二〇	二七五	一七〇	二二七
	杆城	三一、五七四	四、七一九	九、四八一	五	—	—
	襄陽	三四、四三八	六、七三三	五、七五〇	六〇	三五	—
	注文津	一〇、三三三	一三、六〇〇	九、六三四	八〇一	一〇七	三五
	鬱陵島	九、七一四	一二、八一〇	八、八六九	—	—	四〇
	長箭	七、〇四〇	五、〇三一	三、一六三	九九	二〇	一〇
	其他	二四、八六八	一〇、四八二	三、四六三	五一〇	一七三	—
	計	一九四、七一三	一〇九、四八五	六四、四四八	二、七八六	一、七三二	七三二
咸鏡	元山	三六五、一七四	二三二、〇二九	三三一、五五一	二七、八九九	三七、三七八	二七、三六七
	清津	九八、四八四	五四、一〇九	三九、九七一	一〇、一三六	八、四〇七	一一、六〇七
	城津	八二、一八四	二七、一九一	二八、一六八	一、九一七	一、五八三	一、〇七三
	新昌	一九一、五〇八	一三〇、八三七	一六三、一八一	一六八	四一五	一四三
	雄基	一、一〇六	五、八七五	二、〇四七	一四五	一、〇九三	六三
	西湖	二四、七一〇	三七、八七五	一七、七一六	三六、六六一	二、二五八	九一七
	新浦	三七二、六〇一	五一七、七四二	二七二、八五九	六一三	三三四	七五三
	獨津	六、八二八	二、一〇五	八〇一	九六八	三九七	三三三

道	遮湖	一三三、二三九	六二、二四三	一八三、四〇六	—	八	二〇
	端川	八、六二三	一六、八七五	七、九三六	二〇	二	—
	前津	一五八、九七二	一三四、七三五	三八七、一四四	九六	五	三三三
	陸臺	五四、九六四	五八、九八八	九九、四六六	—	—	一五
	厚湖	三九、三七四	七二、三九五	八四、八一四	—	—	—
	其他	一七四、三七五	九六、五七五	六六、八七〇	二八〇	一、一九一	二一
	計	一、六〇二、一三三	一、四四九、五七四	一、六八五、九三〇	四五、九〇三	五三、〇七一	四三、四四四
全羅道	木浦	二五四、三五四	一七二、八六〇	九九、三五五	二六、三〇八	一一、九二六	二、四五五
	群山	四五九、〇八七	六七、一〇〇	二三、六五五	一三、〇一〇	四、三三三	四、三八八
	麗水	四七、八七三	三八、二七五	一五、四三四	七、九五四	五、六七三	四一五
	筏橋	三三、七五〇	三一、〇三六	—	一、二三八	一一	—
	順天	二三、二九六	二四、五四九	五一、九〇八	二、二七八	二、二七八	九九四
	濟州島	一三六、〇七五	二四、四四七	一五、八〇九	四四二	四、一八四	四七六
	其他	三八、三七七	八、二八五	一七、六五六	三二、三四七	一、二〇七	一、八八四
	計	九九二、八一二	三六六、五五二	二三三、八〇七	五六、一六九	二五、五七六	一三、五三五
忠清道	江景	二、三九五	—	—	—	—	—
	其他	—	—	—	—	—	—
	計	二、三九五	—	—	—	—	—
京畿	仁川	一四、三四四	三三〇、〇三六	一〇、八五四	三〇、三〇一	七一、三四八	五一、三三五
	其他	—	—	—	—	—	—

道	計					
平安道	鎭南浦	其他	計			
總計	四八三五三	七五九〇三	—	七五九〇三	四八九四	三一〇六
	三九四三七一七	四八九四	—	四八九四	三一〇六	一〇八五四
	三六五六三	九二一五	—	九二一五	六二九	一四八四〇
	三三三四八六	一六七	—	一六七	一八〇	三〇五二
	三〇六五五	一八〇	—	一八〇	六二九	七一三四八
	一四八四〇	三〇五二	—	三〇五二	七一三四八	五一三五

第二節　內地商業

本港は古來日韓交通の要津として夙に邦人の移住するもの多く本邦とは最も古き歷史的關係を有するのみならず開港場としても朝鮮開港中最古のものなるを以て商業の發達も亦最も著しく現今本港に於ける商業は其種類一にして足らずと雖も先づ之を內地人、朝鮮人及支那人商業に大別して其概要を記すれば左の如し

一　內地人商業

本港の內地人商業は輸出入貿易商及各種商品の卸並小賣商にして輸出商は主として穀物、海產物、牛皮等の輸出業を營み其取引は以前は鮮商の來港を竢ちて直接

賣買を爲し何れも座商的取引なりしが爾來交通設備及金融其他商業機關の發達に伴ひ到る處各主要產地には是等商品を取扱ふ內地商人の開店するもの多きのみならず近年輸出商及仲買商の各自其店員を產地に派して買付を爲さしむるもの一般に多く昔日の座商的直接取引は今や大に其商狀を一變せり而して其の內地取引關係は多くは大阪神戶地方にして尙近年朝鮮籾米の露領浦鹽港へ輸出開始せらるゝや其取引高も亦尠なからず輸入商は主として日本內地より輸入せる各種の雜貨類を始め酒、醬油、砂糖、麥粉、石油、燐寸其他の商品を取扱ひ其取引關係は是亦大坂地方を主とし更に之を釜山を中心とせる商圈內各地方へ供給するものにして其取引範圍は北は元山、城津、淸津等に至る各港より南は南鮮沿岸一帶及各島嶼に至り內陸は京釜沿線各地は素より慶尙南北道各主要地を其勢力範圍とすると而して市內小賣商は其種類頗る多きも就中同業者の多きは雜貨商、米穀商、呉服商、煙草商、酒醬油商、菓子商、下駄商、文具商、荒物商及青物商等にして其大多數は釜山市街に店舖を有し其他は牧の島、草梁、及釜山鎭等に散在す現今の取引慣習は輸出入貿易商の內地に於ける取引は信用の厚薄取引の新舊等各種の事情に依り荷爲替

付其他の現金取引或は延取引等一定ならずと雖も多くは現金取引にして又本港卸商の鮮內地取引も亦之と齊しく其慣習一定せすと雖も多くは現金取引とす

二　朝鮮人商業

鮮人商業の主なる種類は穀物、明太魚、食鹽、製紙、芦蓆、食器、布帛、鞋其他の雜貨等の賣買にして由來朝鮮人の商取引慣習は常設店舗を設けず凡て一定の開市場に來集して各商品の賣買取引を爲すものなるも釜山本町通及草梁には鮮商の一定の店舗を設けて販賣をなすもの數戶あり其主なるは叙上商品の營業者にして其他は一切常設店舗を有せず釜山鎭の定期市場（毎月陰曆四及九日の六回を開市日とす）及寶水町に於ける常設市場或は路傍に出店して商品を販賣するものなるが普通小賣商人の外穀物、魚類、明太魚、製紙等の客主（問屋業者）及居間（賣買仲介業者）なるものあり是等は何れも草梁に於て取引を爲しつゝあり而して明治四十四年末の釜山管內に於ける鮮商の總數は一千百六十六人なり

三　支那人商業

釜山區內に於ける淸商は何れも草梁なる支那居留地內に店舗を構ひ商業に從事

本店　京城
釜山大廳町一丁目四番地
朝鮮銀行釜山出張所
電話　九七七番　八八番
支店出張所
大阪、仁川、平壤、元山、大邱、鎭南浦、木浦
群山、馬山、城津、羅南、新義州、安東縣
（申付三五）

銀行一般業務精々御便利取扱可申候

株式會社 **慶尚農工銀行草梁支店**

電話番號 二五九番
支配人宅 六二八番
振替貯金京城 一〇一四番

△本店 大邱

△支店 晋州、馬山、尙州、金泉、浦項、統營

爲替取組先

京城 平壤、元山、仁川、光州、全州、太田、公州、開城、江原、淸州、春川、論山
忠州、淸津、咸興、會寧、鏡城、海州、鎭南浦、寧邊、沙利院、筏橋浦、栗山浦、濟
州島、麗水、古阜、南原、新義州、羅南、木浦、群山、城津、博川、大阪、下ノ關、
長崎、尾ノ道、廣島

（中付三六）

本港に於ける金融機關は株式會社第一銀行(東京同十八銀行(長崎)同百三十銀行、大

第三節 金融

一 銀行

するものにして其內主なる商店は約三十戶あり其商業の種類は金巾、木綿、麻布、支那絹紬等の布帛類和洋雜貨の販賣並米穀、海產物、高麗紙等の輸出業を營み其他は草梁及釜山市街に飮食店を營むもの及行商人等となす淸商中には鮮內各地に支店或は出張所を設け相應に取引を爲すものありと雖も亦昔日の殷盛を見ず今其重なる商人を示せば左の如し

盛泰（義芝眾人）　義生 盛廣東人）
公來號（同）　德聚和（同）
永發東（同）　瑞泰號（同）
恒順和（同）　怡泰昌（同）
瑞泰號（同）

阪同周防銀行(山口縣柳井町)同慶尙農工銀行(大邱)の各支店及株式會社朝鮮銀行(京城)出張所と外に株式會社長崎貯蓄銀行代理店(十八銀行支店内)あり其中第一銀行、十八銀行及百三十銀行支店は何れも其設立既に久しく金融機關として本港の商工業に資せるもの尠なからずと雖も就中第一銀行支店の如きは夙に明治十一年に創立せられ本港最古の金融機關にして當初より一般銀行業務の取扱を爲し最も本港の商工業に密接の關係を有せり降て二十五年に至り對州百二銀行は本港に其支店を設置したるも業務の都合に依り其後之を長崎十八銀行に讓れり翌二十六年大阪五十八銀行も亦其支店を設けたるも四十二年同行本店の大阪百三十銀行と合併するに及び本港支店も同時に百三十銀行支店と改稱せらる四十二年四月に至り周防銀行支店及慶尙農工銀行出張所(四十五年四月より支店と改稱す)設置せられ最後に四十三年四月朝鮮銀行出張所の開設を見るに至る而して農工銀行支店は本店の特質上農工資金を主とすべき特種金融機關なるも同支店は特に不動產の貸付を爲さず普通商業銀行として營業を爲し又朝鮮銀行出張所は中央銀行たるの關係上普通營業の外本港國庫金の取扱を爲せり此の如く本港の金融機關は漸次增加し來りて

其數既に六指を屈するに至れるに近く又本港輸入商を中心とせる有志者の發起に依り專ら沿岸貿易上金融の便を計るの目的を以て資本金五拾萬圓の商業銀行設立の計劃あり既に其筋へ認可申請中なれば早晩又其數に一を加へんとす金融機關の設備既に此の如くなるを以て今や朝鮮半島中金融機關の整備と其金融額の多大なるとは京城を除きては本港を以て冠冕となす

二　金融概況

本港の金融狀態は商工業の發展と金融機關の整備とに伴ひ逐年資金移動の膨脹を來しつゝあり現今を以て之を十年前に比すれば貸出と云ひ預金と云ひ將た又諸手形取扱高と云ひ何れも數倍の增加を示し現今各銀行貸出總額一ヶ月平均參百六拾萬圓內外同預金高約貳百五拾萬圓內外にして送金爲替を始め荷爲替、取立等諸手形受拂高合計四百萬圓內外に至れり而して更に本港金融繁閑の狀況を通觀するに農作の豐歉貿易の增減等各種の事情に依り素より時々の繁閑あるを免れずと雖も之を一般的に概觀すれば每年秋季新穀出廻季節より翌春三四月頃迄を以て金融繁忙の季節とし爾後穀物端境期に至る迄を金融閑散の時期と爲すは

例年の常套なりとす是れ同期間は本港貿易の大宗たる穀物の輸移出季節に屬するのみならず輸入品も亦此期間に於て最も多額を占むればなり而して金利の如き甞ては貸出日歩五錢以上を唱ひたる時代ありしと雖も爾來年を逐ひ低落の趨勢を取り現今に至りては貸出日歩最高參錢貳厘、最低貳錢貳厘、普通貳錢六七厘又預金利子は當座日歩八厘定期五分五厘乃至四分五厘を示すに至れり而も尙ほ之れを內地の利率に比較すれば未だ甚だ高率を免れざるは是れ新領土商工界の基礎信用の程度上勢の已むを得ざる所なり然れども商工界の進歩、內地金融共通の趨勢に伴ひ漸次內地利率に接近の傾向を呈しつゝあるは疑ひなき事實なりとす今左に本港各銀行合算の金融諸表を掲げ以て本港金融の概況を示さんとす

各銀行諸手形取扱高五ヶ年表

送金爲替の部　仕向高　（單位圓）

月次	四十四年			四十三年	四十二年	四十一年	四十年
	朝鮮內	日本內地其他	計				
一月	三三五、〇〇四	四一八、三六三	七五三、三七〇	六、二六〇、七五四	四九三、六四二	五二六、四三一	五二三、五八五
二月	四三四、四一〇	二五一、七二九	六八六、一三九	四二一、六〇六	四一四、七一九	四四五、二九八	五五〇、九〇四
三月	三〇四、〇三二	二五九、八六二	五六四、八九四	四〇四、三五三	三一〇、二三三	四一三、〇二〇	三九八、八〇三
四月	二六七、九〇一	三一七、六二七	五八五、五二八	四七八、二五四	四〇二、六四七	五〇〇、〇四五	六六九、一四八
五月	三三〇、八六	三五〇、五九四	六八一、四一〇	四三五、九五三	三〇八、〇〇七	四八七、二一九	五二六、五六
六月	二五四、三〇八	五一四、二四一	七六八、一四九	四〇九、九五三	三二二、七五六	四三〇、一九八	四八五、八三五
七月	四三八、三一七	一、二五七、三〇一	一、九七五、八四七	四六三、八三八	二六一、二六六	四三〇、五二九	三五四、五二〇
八月	三五六、四二六	三五三、九〇八	八七九、九〇四	四二五、二一五	二九五、九二九	四一〇、五五二	三七八、二四三
九月	四四三、九六四	五一七、八三二	九六一、七四六	三五八、〇九四	三九五、八二〇	五四八、九四〇	五二七、八三一）
十月	三七四、六八七	五五三、六七九	九二七、三六六	六五二、九九〇	四五二、四二六	四六四、五五九	六六五、二六八
十一月	三四〇、一三三	五一四、一八八	八五四、三四〇	七二九、五四九	三八九、五七六	三七八、八二一	六五一、三五七
十二月	五〇四、五五六	五五四、三四三	一、〇八〇、九九	一、三〇九、七八〇	六五四、四〇四	五三九、五三一	六一三、八五五
計	四、三八四、六〇六	六、三一四、三〇六	一〇、九〇八、九一三	六、六九〇、三九八	四、七〇六、一七四	五、五四四、九一三	六、二八二、三八四
一ヶ月平均	三六五、三八四	五四三、六九二	九〇九、〇七六	五五七、五三三	三九二、一八一	四六二、〇七六	五三三、三三三

備考　本表は本港に於ける第一、十八、百三十、周防、農工銀行及朝鮮銀行の六銀行支店の取扱高を合算したるものなり以下亦之に倣ふ

同上　被仕向高（單位圓）

月次	四十四年			四十三年	四十二年	四十一年	四十年
	朝鮮内	日本内地其他	計				
一月	五一四、八六六	一五四、四八八	六六八、三五四	三七七、一〇九	三五二、八〇三	五六二、八三	七九九、六二三
二月	三五三、三四四	一九七、三四五	五五〇、六八九	三四二、一六九	三四一、三四六	三四四、五九五	四六二、三三六
三月	四三四、三四五	三二二、四三九	七五六、七八四	三五六、五六三	四三五、三四七	四六六、〇三三	六三五、二六六
四月	三九八、九四四	三五六、一五三	七五五、〇九七	六五五、二三九	四九七、一二八	四六六、〇四四	五四六、〇一四
五月	五三、四五八	二七四、五三三	七九八、一九一	四七〇、八五八	四八八、〇三三	三四〇、三八三	三五、五九三
六月	四一〇、三三八	二六五、〇四八	六七六、二五二	四八九、一六三	四八六、〇三八	五四〇、八四一	五六、八三一
七月	一、八七六、九七一	二六五、〇四八	九〇四、〇二九	四四四、〇八〇	五三七、五三三	五四一、八二一	四六一、一三六
八月	三六二、〇五九	二三一、九五〇	五九四、〇〇九	五三二、五五五	四九五、一〇三	三八三、一二七	四五、一八二
九月	五三七、〇六九	二七、一九三	七九八、八〇二	六五五、九〇〇	五三〇、五二一	四三二、六六六	四三、二五六
十月	五五四、一六七	三三七、一八三	八九二、一三〇	八三八、〇九七	五八三、八七七	四五四、八四七	四〇一、四六六
十一月	四四一、三四一	二一九、一四八	六六一、四九七	六四一、一四七	六〇二、八四〇	三六一、四四四	四〇一、四六六
十二月	五七〇、八一三	三六、四八八	八三九、〇二八	一、一七四、〇九一	九三三、三五三	七一、一二七	八三九、〇二八
計	五八八、一四八	二五一、〇三二	八三九、一八〇	九三五、一〇八	九四五、四四一	八〇二、六六六	四五三、三八一
一ケ月平均	四〇七三	一五九、二五五	四八八、一〇〇	七三、一一七	七八、七〇一	六六、八三三	三七、六一一

荷爲替の部　仕向高（單位圓）

月次	四十四年			四十三年	四十二年	四十一年	四十年
	朝鮮内	日本内地其他間	計				
一月	五二、五三三	二五、八二三	七八、三五六	三五、六四五	一六、四二九	一四、四七一	一九、五九九
二月	五〇、九五五	二二、三五三	七三、二〇八	三二、三四五	一五、四一九	一三、四七一	一八、三四九
三月	六三、九二四	八六、九二八	一五〇、八五二	三七、三四一	一七、四一九	一四、四七一	一八、三四九
四月	三六、三三三	七二、三〇七	一〇八、〇四〇	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
五月	四三、八六五	一五、四八八	五九、三五三	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
六月	四三、四六四	一六、〇一〇	六〇、一七四	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
七月	三四、五八六	一三、二六一	四八、一四七	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
八月	四五、〇六七	一九、三五九	六四、四二六	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
九月	三六、八三五	一三、二四一	四九、〇七六	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
十月	三二、二四五	一二、九五八	四五、二〇三	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
十一月	三五、九五五	一二、九五八	四八、九一三	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
十二月	二九、八一三	一二、九五八	四二、七七一	二四、四一八	一四、四七一	一四、四七一	一八、三四九
計	四八、七八一	一七、九〇二	六六、六八三	二九、三〇五	一七、六六五	一四、四七一	一八、三四九
一ケ月平均	四〇七三	一五九、二五五	四八八、一〇〇	二四、九四九	一四、七二一	一一、七八九	一五、六二四

同上　被仕向高（單位圓）

月次	四十四年 朝鮮内	日本内地其他間	計	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
一月	四八、三六四	一〇七、七二八	一五六、〇九二	一二三、二三四	一九八、三六二	一七七、七四四	一五五、七七八
二月	三〇、一五〇	二五六、六一七	二八七、一六七	七七、七四五	八一、三五六	九八、七四〇	五五、七六八
三月	三八、三一七	二六七、九五五	三〇六、一八二	六七、一八八	六七、二五六	七九、四九五	六六、一六五
四月	四〇、五八七	四五、五八八	八五、七七五	七九、〇六八	四五、九五五	六二、九五九	八六、一六五
五月	三九、六三五	四〇、七〇三	八〇、三三八	四三、〇三五	四五、〇四三	七七、二八九	八〇、七七〇
六月	一、八八七	四五、〇八〇	四六、九六七	三五、七四九	五五、四四九	八二、〇一三	四四、七七一
七月	六八二	四五、〇八〇	四五、七六二	四九、八八五	五〇、七〇五	七五、一〇三	四四、七七一
八月	一六、七八二	七五、一〇三	九一、八八五	五一、九八三	五一、九八三	八一、九一一	五五、一六五
九月	二九、七三三	一五四、九五五	一八四、六八八	八一、一九一	八一、一九一	二一、七二二	四四、七七一
十月	五八、九四八	一四五、三五〇	二〇四、二九八	二一、七二二	二一、七二二	四三、〇三三	四四、七七一
十一月	五八、九四八	一一六、七三三	一七五、六八一	一七、八八一	一七、八八一	一八、一八一	四四、七七一
十二月	五八、四八二	一一六、七三三	一七五、二一五	一七、八八一	一七、八八一	一八、一八一	四四、七七一
計	三〇、九七九	七六四、〇一四	七九四、九九三	一七、三五四、七二三	一九、一九一、七六三	一七、九一一、七六三	一六、一六五、一六五
一ケ月平均	六三、六六八	一六、三八三	六六、二八三	一四五、九四七	一六、一六五、一六五	一四五、九四七	一三七、一六五

取立爲替の部　仕向高（單位圓）

月次	四十四年 朝鮮内地	日本内地其他間	計	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
一月	三九七、一八五	二四八、六一三	六四五、七八八	四〇六、四二二	四〇七、〇九五	三九五、一四三	三五七、一九二
二月	四〇八、一四三	九二、〇四三	五〇一、一八六	四二、一五五	四二、一五五	四二、一五五	四二、一五五
三月	三五六、一五〇	一四七、四七三	五〇三、六二三	三八、一一五	三八、一一五	三八、一一五	三八、一一五
四月	三五四、一九一	一二九、五七三	四八四、七六四	四八、六六三	四八、六六三	四八、六六三	四八、六六三
五月	三五七、八二六	一四一、二八四	四九八、一一〇	四三、九九九	四三、九九九	四三、九九九	四三、九九九
六月	三一三、三五三	二一七、九四四	五三一、二九七	三七、八四二	三七、八四二	三七、八四二	三七、八四二
七月	三八六、九三三	一〇六、九四五	四九三、八七八	四八、八四五	四八、八四五	四八、八四五	四八、八四五
八月	四九四、九〇九	三三六、九八三	七二一、八九二	四四、八四五	四四、八四五	四四、八四五	四四、八四五
九月	五三六、六〇九	一一七、二二一	六五三、八二一	四四、九六七	四四、九六七	四四、九六七	四四、九六七
十月	五一七、〇四三	一四四、七四三	六六二、七八六	三七、八八一	三七、八八一	三七、八八一	三七、八八一
十一月	五九九、五九五	一七一、〇三〇	七七〇、六二五	四七、八四五	四七、八四五	四七、八四五	四七、八四五
十二月	四五二、七八二	一七一、〇三〇	六二三、八一二	四七、八四五	四七、八四五	四七、八四五	四七、八四五
計	四、七七九、七八	一、八三二、三六三	六、六一二、一四二	五五、三四七、五五三	一、一六、一七、〇三六	一、一六、一七、〇三六	一、一六、一七、〇三六
一ケ月平均	三五七、二九六	一五二、六九七	五五一、一七八	四五、九四七	一、一六、一七、〇三六	四五、九四七	四五、九四七

同上被仕向高（單位圓）

月次	四十四年 朝鮮內	四十四年 日本內地其他間	四十四年 計	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
一月	四三〇、九四四	五一六、四七九	九四七、四二三	四九五、八三九	四一三、五〇九	四四六、七七六	三四〇、二七四
二月	二七六、七三六	二八八、九三五	五六五、六七一	二七六、二五四	三三三、〇一八	三四八、五四八	三二九、〇五六
三月	三七九、三〇五	三一一、〇一四	六九〇、三一九	四六二、三三八	四三三、〇〇一	四〇〇、九五〇	二七四、七六七
四月	三二三、七六七	三四八、九五九	六七二、七二六	四一九、五〇三	三一七、五三五	三八五、一四五	二八九、五二九
五月	二二二、五五一	三三七、〇四二	五五九、五九三	四八〇、五八九	三七三、三三八	二九七、八八〇	三五七、五九一
六月	一八七、二七四	二七二、〇九七	四五九、三七一	四一五、三七一	三五二、三四四	三〇一、二二一	二八八、四〇八
七月	一五九、八三三	三六二、一七六	五二二、〇〇九	三四七、九二〇	二七五、六八九	三〇六、六二七	二四八、四八三
八月	一八六、九八〇	三六〇、一一七	五四七、〇九七	四四三、一八五	三四一、四一三	四一二、三九八	二七九、八三五
九月	二〇二、〇二八	五三一、四八一	七三三、五〇九	五〇三、二二三	二四二、七二三	三六九、二二二	二九七、八五八
十月	二二八、六〇二	四三二、五八四	六六一、一八六	七五四、九二四	三九八、四一九	四二四、〇三三	四三五、二〇八
十一月	四〇六、九四六	六九七、五一九	一、一〇四、四六五	八二三、六〇〇	四四八、六一九	四三一、六〇三	三六九、九七三
十二月	四六五、二八九	七五〇、五七五	一、二一五、八六四	一、二三九、〇四九	六七二、二四五	四七九、八五〇	四五六、八四八
計	三、四六〇、二五五	五、二一八、九七八	八、六七九、二三三	六、六五二、七八五	四、五九九、九二三	四、五九四、二三三	三、九五七、八二九
一ヶ月平均	二八八、三五五	四三四、九一五	七二三、二七〇	五五四、三二五	三八三、三三七	三八二、八五三	三二九、八一九

各銀行取扱預金殘高五ヶ年表（單位圓）

月別＼種別	四十四年 公金預金	四十四年 定期預金	四十四年 當座預金	四十四年 小口預金	四十四年 其他預金	四十四年 計	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
一月末	一六三、二二五	五四一、二四五	八四三、三二四	五一九、一一一	四一、四二七	二、一〇八、三三三	二、一四〇、三三六	一、五七八、〇三四	一、八八二、二四〇	一、三七三、二三七
二月末	一七三、三一〇	五八〇、三四七	七八二、三三九	五〇三、四〇八	四五、六三三	二、〇八三、〇三六	二、二四七、五九四	一、五六一、四〇五	一、七五〇、一二〇	一、二〇三、九〇三
三月末	一四四、九一〇	五三四、三九五	八三六、五四八	五一三、一〇〇	五一、五六六	二、〇七九、五一九	二、一五四、三六〇	一、五七六、五三三	一、六九九、二八六	一、三五九、〇六七
四月末	一四七、五五四	五一八、〇六六	八五三、〇五三	五五三、〇六七	四三、〇五一	二、一一三、七九一	二、一五三、三〇一	一、五八五、〇六四	一、六七五、〇七四	一、七六五、二八八
五月末	一六九、七六三	五四一、八五九	一、〇四二、二六四	七〇六、五五九	三六、五二八	二、四九六、九七三	二、二五三、六五九	一、七〇〇、三〇一	一、六九三、四七〇	一、七四三、六九〇
六月末	一四〇、三四九	五四八、八二八	九四三、五四七	六三九、二〇五	五八、一四六	二、三三九、〇七五	二、一五二、八二〇	一、六四一、四二一	一、六〇四、八九〇	一、七六九、九四八
七月末	六七一	四六一、五六三	九一三、六四八	五七二、二七七	七三、四二五	二、〇二〇、五八四	二、一四〇、三四三	一、七〇五、五三五	一、五三三、八〇九	一、七二一、〇四五
八月末	三八、一五三	四八七、七一三	八七六、五七九	五五四、五六三	五〇、一九五	二、〇〇七、二〇〇	二、一四九、八〇四	一、七〇〇、三一六	一、四九四、四〇九	一、七三三、二三八
九月末	二九、〇〇三	五二三、八五一	八五一、八四七	五四四、六四〇	五八、九七三	二、〇〇八、三一四	二、二二六、七五一	一、七六〇、八一四	一、四〇八、一六九	一、七一三、二〇九
十月末	三七、九一三	五二四、七五九	八四七、六二〇	五七九、七一〇	五四、一三一	二、〇四四、一一三	二、二五三、四〇四	二、〇五三、七二七	一、六三〇、五三三	一、九九九、一六八
十一月末	二八、七六五	五五三、七八三	七四八、八六八	五五四、〇八一	四七、四一三	一、九三三、九〇九	二、四〇一、八七三	二、一二九、二八九	一、五九七、三四三	一、八三八、三三八
十二月末	八、四七三	五七四、八六六	七六八、七八二	五二六、七九九	八六、二七七	一、九六五、一九六	二、〇〇一、二七六	二、一五一、七七〇	一、四〇四、八九四	一、九二三、一六六
一ヶ月平均	九〇、〇九一	五三三、六〇六	八五八、八六七	五六三、六二六	五三、八一三	二、〇九九、〇〇三	二、一九五、二九四	一、七六一、九三四	一、六一四、五一八	一、六六九、九四一

各銀行取扱貸出金殘高五ヶ年表

（單位圓）

月別＼種別	四十四年 貸附金	四十四年 當座預金貸越	四十四年 手形割引	四十四年 計	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
一月末	九七三、〇七〇	四三〇、八三九	一、一一三、六九四	二、五一六、六〇三	二、三八一、三七六	二、七二七、七九九	二、八八四、七六八	二、七〇七、三五五
二月末	一、一三八、五六五	四三七、二四一	一、〇七三、七八三	二、六四九、五八九	二、三三三、六四六	二、六一三、三〇一	二、八九三、四四七	二、四四六、四一六
三月末	一、二三七、五五三	四四四、六〇六	一、一八六、九五三	二、八六九、一一二	二、三七八、八四五	二、五五三、七四二	二、八三五、五三六	二、六二四、三三〇
四月末	一、二九四、〇五五	四八六、四六九	一、一九七、二三六	二、九七七、七六〇	二、三七八、八八九	二、四六七、四三四	二、七五七、四三三	二、五三一、一四六
五月末	一、三三三、四八四	四三五、六三九	一、一九六、六二八	二、九六五、七五一	二、四六六、八一六	二、四四五、一九五	二、七四五、四九五	二、五一八、二五九
六月末	一、一七六、九六五	三七五、七一三	一、〇九二、七二一	二、六四五、三九八	二、三三四、二八九	二、三二一、七三六	二、五四八、七三四	二、四九七、五九八
七月末	一、〇六〇、三〇六	三九七、一六三	一、一〇六、一四〇	二、五六三、六〇八	二、一四九、九八六	二、二五五、〇七四	二、五二一、六四〇	二、三五九、二二四
八月末	九三九、一〇〇	四一三、九四八	一、二五二、二三五	二、六〇五、二七一	二、〇五三、六〇九	二、三一四、九三〇	二、三七二、二〇三	二、四八三、五六五
九月末	七一八、七八〇	三八四、三三九	一、二四九、七九九	二、三五二、八一八	二、二六一、〇九九	二、四三六、七六九	二、三五六、八五四	二、五五九、六九五
十月末	六八七、三三四	三八七、四六二	一、一九八、八三三	二、二七三、五一九	二、〇八三、九三六	二、四三八、六五七	二、四八五、一四二	二、五五六、四八七
十一月末	七三七、一三六	四八四、〇九四	一、三一八、三三八	二、五三九、五五九	二、一〇六、三一七	二、三一八、七四一	二、五三九、七六四	二、六四七、六九七
十二月末	七七九、二七四	四四九、九五六	一、五一七、八九九	二、七四七、一二九	二、五三三、六四三	二、五三七、五四〇	二、五五一、一四九	二、八六四、三二一
一ヶ月平均	一、〇〇六、二九二	四二七、二八〇	一、三〇八、六〇四	二、六四二、一七六	二、二七七、七〇四	二、四五〇、八二七	二、六二三、五一三	二、五六五、四八九

各種金利五ヶ年月別表

月次＼種別	貸附金（日歩）最高 銭厘	貸附金（日歩）最低 銭厘	貸附金（日歩）普通 銭厘	手形割引（日歩）最高 銭厘	手形割引（日歩）最低 銭厘	手形割引（日歩）普通 銭厘	當座預金（日歩）最高 厘	當座預金（日歩）最低 厘	當座預金（日歩）普通 厘	定期預金（年利）一年以上 分厘	定期預金（年利）半年以上 分厘	定期預金（年利）三ヶ月以上 分厘
四十四年一月	三、四	二、三	二、七	三、四	二、二	二、八	七	三	七	六、〇	四、五	四、〇
二月	三、一	二、三	二、七	三、〇	二、六	二、八	七	七	七	五、〇	四、〇	四、〇
三月	三、一	二、三	二、七	三、〇	二、六	二、八	七	七	七	五、〇	四、〇	四、〇
四月	三、二	二、三	二、六	三、三	二、二	二、八	七	三	七	六、〇	四、五	四、〇
五月	三、二	二、三	二、七	三、三	二、七	二、八	七	三	七	六、〇	四、五	四、〇
六月	三、二	二、三	二、七	三、三	二、二	二、七	七	三	七	六、〇	四、五	四、〇
七月	三、〇	二、四	二、七	二、九	二、六	二、七	七	六	七	五、〇	四、五	四、〇
八月	三、〇	二、四	二、七	二、九	二、六	二、七	七	六	七	五、〇	四、五	四、〇
九月	三、二	二、四	二、七	三、三	二、四	二、七	七	三	七	五、〇	四、五	四、〇
十月	三、二	二、四	二、六	三、三	二、四	二、七	七	三	七	五、〇	四、五	四、〇
十一月	三、二	二、四	三、二	三、二	二、七	三、〇	｜	｜	八	六、〇	五、五	四、〇
十二月	三、一	二、四	二、八	三、〇	二、六	二、八	七	七	七	五、〇	四、五	四、〇
四十四年平均	三、一	二、三	二、七	三、一	二、五	二、七	七	四	七	五、四	四、五	四、〇
四十三年平均	三、六	二、四	二、九	三、七	二、四	三、〇	七	四	七	五、四	四、六	四、二
四十二年平均	三、五	三、一	三、二	三、四	三、一	三、三	一、〇	五	一、〇	六、二	五、七	五、三
四十一年平均	四、五	二、八	三、五	四、二	三、〇	三、五	一、八	五	一、〇	七、〇	五、五	六、一
四十年平均	三、五	三、二	三、四	三、五	三、二	三、四	一、〇	一、〇	一、〇	六、六	六、三	六、四

三　手形交換

本港商業の發展に伴ひ近年各種商業手形の流通益增多せるを以て本港各銀行に於ては事務簡捷の爲め昨四十四年四月を以て手形交換事務を開始するに至りしが開始當時は交換月額手形枚數五六千枚金額百貳拾萬圓臺なりしが現今は枚數七千餘枚金額貳百萬圓臺に達し前途益增加の趨勢を呈せり今交換開始以來の月別交換額を擧ぐれば左の如し

手形交換高

種別	月末合計				一日平均			
月次	手形枚數	交換金額	交換差額	差額の割合	手形枚數	交換金額	交換差額	差額の割合	一枚平均金額
四十四年四月	五、五四六	一、二一五、八九六、三八〇円	三四〇、三六四、九〇〇円	六、三八	二四一	五三、八六五、〇八〇円	一四、七九八、四〇〇円	二、八	二一九、二四〇円
五月	六、五七八	一、三九九、六一五、三九〇	三一三、四九六、〇二〇	六、六七	二四四	六三、六五三、四二〇	一二、五八三、一八〇	二、五	一九、四九〇
六月	六、二〇〇	一、二八四、六一二、一一〇	三一三、四九六、〇二〇	六、四八	二四八	五一、三八四、四九〇	一三、二五九、四二〇	二、六	二〇七、二〇〇
七月	六、一一六	一、四一三、三六六、二四〇	五四四、八二七、一四〇	八、二三	二三五	五四、三五八、七一〇	一三、二五九、四二〇	二、三	二三一、二〇〇
八月	六、〇四八	一、二七三、九五六、一六〇	三五〇、九五六、〇三〇	七、〇九	二三三	四八、九八四、三一〇	一二、四九八、一六〇	二、七	二一〇、六四〇
九月	六、一八四	一、二七四、六〇〇、八三〇	三一八、四六〇、四六〇	六、八〇	二三八	五一、三八四、四九〇	一三、二五九、四二〇	二、六	二〇七、二〇〇
十月	六、八四八	一、四一七、一五一、三五〇	三九二、四八五、九三〇	六、七一	二七六	五九、〇四六、〇五〇	一四、七九八、四〇〇	二、八	二一九、二四〇
十一月	七、〇三一	一、四二四、九三五、九三〇	三九九、六八五、七三〇	五、八八	二九三	六〇、六二二、三三〇	一四、二五二、五四〇	二、四	二〇八、三六〇
十二月	八、三六三	一、九五三、八〇〇、九二〇	四六三、二一〇、九〇〇	六、五五	三一〇	七二、三四五、九二〇	一七、一五六、九六〇	二、四	二三五、三八〇
合計	七四、四〇三	一五、八九二、三五四、一四〇	三四〇、三七九、二五〇	六、三八	二四一	五三、八六五、〇八〇	一四、七九八、四〇〇	二、八	二一九、二四〇
四十五年一月	六、五六六	一、四〇六、五六二、二五〇	四一、五七二、七二〇	二、九二	二一八	四六、八九五、〇五〇	一、三七二、四〇〇	二、六	二一〇、四五〇
二月	六、三一九	一、六三四、六一三、一三〇	四一、五七二、七二〇	二、五一	二一八	五二、四九五、〇五〇	一、三七二、四〇〇	二、六	二一〇、四五〇
三月	六、二四九	一、五二一、九五八、二九〇	三七四、二四八、七二〇	二四、六〇	二七四	六四、八七六、〇二〇	一、五六二、四〇〇	二、九	二四〇、九四〇
四月	六、四一四	一、七〇六、一〇二、〇五〇	五〇〇、一〇五、九八〇	二九、四〇	二九八	七〇、五〇二、五二〇	一、七三二、四〇〇	三、〇	二四七、二〇〇
五月	七、〇三四	二、〇三二、三五八、四三〇	五九、九〇〇、三一〇	二、九〇	三二八	六五、四八三、〇九〇	一、八九二、四〇〇	三、〇	二七二、〇〇〇
六月	七、〇三四	二、〇三二、三五八、四三〇	二七八、五〇〇、三一〇	一三、七〇	三二八	六五、四八三、〇九〇	一、八九二、四〇〇	三、〇	二七二、〇〇〇
合計	三九、四〇三	一〇、三五八、四三〇、一四〇	二七八、五〇〇、三一〇	二、六九	二七六	七〇、一九三、五七五	一、八八三、九六八	二、六	二六二、一一二

四　其他の金融機關

銀行以外の金融機關としては一種の貯蓄會社たる釜山共益株式會社(資本金參萬圓あり一面會員を設け各種の貯蓄的積立金を爲さしむると共に他面には其貯蓄額及信用に應じて資金の融通を計るものにして目下の積立金額約壹萬貳千圓其貸出高貳萬五千餘圓に至れり尙本港に於ける中流以下の商人及其他一般の融通機關として盛に流行し尠なからざる勢力を有するものを講頼母子)と爲す講には抵當講(抵當を徵し落札金を渡すもの)あり信用講(連借若くは保證人を立てめ落札金を渡すもの)あり其融通金額一ヶ月約八萬圓を下らず小商人は其資金融通上多大の便宜を得つゝあり而して釜山警察署の調査(本年三月調査)に依れば講の總數八十八口あり其取當金額一ヶ月七萬七千

參百餘圓にして其內所謂抵當講に屬するもの四十三口其一ヶ月取當金最高四千貳參百圓より最低貳百七八拾圓合計六萬七千餘圓所謂信用講に屬するもの四十五口一ヶ月取當金最高四五百圓より最低百圓前後合計壹萬餘圓なりと云ふ然れども一般階級の間に流行しつゝある大小多數の講を悉く網羅し來れば其數其額の決して此に止まらず更に一層の巨額をなすべきは疑を容れず其運用の如何に依り弊害の伴ふもの亦尠なからざるべしと雖も兎に角本港の一種金融機關として其勢力決して侮るべからざるものあり其他金融機關としては金貸業者及質屋營業者あり金貸專業として標榜するものに至りては其數僅に數人に過ぎざるも本業の傍ら貸金を爲すものに至りては其數尠なからず其金利は程度一ならずと雖も月二分を以て普通となす又本港に於ける質營業者は其數尠なからず夙に同業組合を組織し目下其數四十二戶ありて總督府發布の質屋取締規則の下に營業しつゝあり是亦本港下級社會の金融機關として其貸出額尠なからず今同組合規定の利率を示せば左の如し

一金壹圓迄　一ヶ月六分　一金拾圓迄　一ヶ月五分

資本金千七拾五萬圓
積立金六百七拾貳萬圓

明治六年創立

株式會社 第一銀行釜山支店

電話番號 一一番 五一一番
振替口座 京城一二三番

本店　東京市日本橋區兜町壹番地
支店　大阪、京都、横濱、神戸、四日市、下關、名古屋、兵庫、西區(大阪市)南區(同上)新大阪町(東京市)伊勢町(同上)深川(同上)伏見、京城、函館、小樽、根室、釧路
其他　內外各樞要ノ地ニ爲換取組先アリ

(中付三七)

資本金 五百萬圓

株式會社 百二十銀行

監督 安田善次郎

頭取 安田善三郎

本店 大阪市高麗橋

釜山支店 釜山本町

支店出張所所在地

京城、朝鮮、仁川、平壤、鎮南浦、

大阪市內 地內 船場、堀江、安治川、難波、八住吉、平野、軒屋、曾根崎、西濱、小倉、行橋、茨木、福井、舞鶴、新舞鶴、中津、博多、若松、八幡、

（申付三八）

一金五拾圓迄　一ヶ月四分　一金五拾圓以上百圓迄　一ヶ月三分五厘

一金百圓以上千圓迄　一ヶ月二分

第四節　倉庫事業

一　普通倉庫

本港に於ける現在の私營倉庫事業は釜山倉庫株式會社の經營に係るものと及韓國興業株式會社の經營に屬するものとの二あり就中釜山倉庫會社は其設立既に久しく日清戰役後本港貿易の漸次發達するに伴ひ貨物の集散も亦漸く其數を增加し來り漸く商品保管機關の必要を感するに至れるを以て本港有志者は遂に明治三十年十一月資本金貳萬五千圓を以て釜山倉庫株式會社なるものを設立し倉庫事業を開始するに至りしが爾來年を逐ひ貿易の發展と共に貨物の集散益增加の趨勢を呈し貨物輸送の仲介或は商品保管の施設一層必要の度を加ふるに至り次て三十九年に至り東京、横濱及本港其他の資本家は茲に見る所あり資本金貳百萬圓を以て韓國倉庫株式會社（本店釜山）を設立し既設の日韓倉庫株式會社を買收

して倉庫業、運送業及荷爲替、委托販賣其他の附帶業務を經營せしが四十二年六月同社は在東京なる韓國興業株式會社と合併の協定成り爾後興業會社釜山支店の經營として今日に至れり而して現在に於ける兩社倉庫の坪數は韓國興業會社に屬するもの煉瓦普通倉庫八棟此總坪數七百八十一坪四合、上家倉庫三ヶ所此總坪數百九十六坪七合五勺又釜山倉庫會社に屬するもの土藏倉庫二棟此坪數百七十坪、木造倉庫二棟此坪數八十坪及亞鉛葺上屋一棟坪數八十四坪なり今最近三ヶ年間に於ける兩社倉庫の出入貨物數及現行保管料を示せば左の如し

釜山港倉庫貨物出入數三ヶ年表及保管料

(イ) 韓國興業會社倉庫の部

品別＼年次	四十二年				四十三年				四十四年			
	前年越高	入庫	出庫	殘高	前年越高	入庫	出庫	殘高	前年越高	入庫	出庫	殘高
白米	七八〇四	一五、一三〇	一三、三六〇	四〇〇	一五、八一	七、六七六	九、〇一九	一、六八	二三八	八、三三〇	八、一六八	二、一七
玄米	一四、四九六	八、三九二	八、八七〇、五七	一、九四七	二、三四	六八、二八二	六八、二八二	一、四七八	二四、五三一	三九、〇四四	六一、四五八	一、九四七
大麥	二、一八	三、七三	二、一九六	二七六	一、五三五	四、二三一	四、九三三	二七六	三七七	二、二三一	六一	二七六
小麥	九、〇九	四、五九四	六、五〇七	一、六〇四	一、六〇四	四、九八三	六、七六九	一、六〇四	五、三一九	四、一九三	六、六八九	一、六〇四
豆類	九、〇九	五、〇四	一、五〇四	四五、八四二	四五、八四二	一、一三四	四五、九四一	五五、四〇〇	五五、四〇一	一、一四〇	一、四〇四	五六、三六
雜穀	七〇六											

品別＼年次	四十二年				四十三年				四十四年			
	前年越高	入庫	出庫	殘高	前年越高	入庫	出庫	殘高	前年越高	入庫	出庫	殘高
酒類	二〇	一八五	一八七									
食鹽	一六五	三五四	四一五									
粉類												
砂糖												
食料品	一九四	六〇〇	五七四	二〇〇	二〇〇	三五三	三五三					
綿類		七	三	四	四	三五	三五					
紡績糸		五六三	五六三									
綿布	六七三	一、二四八	一、二四九	七二	七二	一、二四九	一、二四九					
絹布		一五	一五									
毛布	三	八	一〇	一	一							
麻布類	二三	二六九	二六六	一六	一六	二三六	二三六					
紙類	一〇三	三三四	三二八	一七八	一七八	五九八	五九八					
鐵材		四四八		四四八	四四八			四四八	四四八			
金屬製品		三一六	三一六									
雜金屬	六七三	一九七七	一九二五	一一七三四	一一七三四	九三五	一五	三二四	三二四			
木材		三〇二	一五	三二七	三二七			三二七	三二七			
繩叺及莚	四、八六五	一四、九四三	一、六七〇、八	一二、二〇〇	一二、二〇〇	一、六七〇、八	一、六七〇、八	一二、二〇〇	一二、二〇〇			
乾物		一二九	一二九									
海草		三、六〇二	二、八九九	七〇二	七〇二	二、八九九	二、八九九	七〇二	七〇二			
魚類		一〇〇	一〇〇									
肥料	六七	一、〇〇二	一、〇〇二									
皮革類												

藥材染料費	一七三	一〇九	二七五	一四五六	九
製業費	九〇〇	一、〇二八	一、〇三三	一三〇	七
製造費	五五	九七	一二五	七〇	一
其他	二五五	三〇一	四〇八	一五七	一
計	四三、三九五	二〇四、三一二	一九九、八八六	三二、二四一	九

同上月別表

年次	月次	前月越高	四十二年 入庫	四十二年 出庫	前月越高	四十三年 入庫	四十三年 出庫	前月越高	四十四年 入庫	四十四年 出庫	残高
	一月	四三、三九五	二九、四三五	一〇、四〇三	四七、八二一	三三、一九	六、三三〇	四七、一六九	一九、九四九	三一、三三九	四五、七六六
	二月	六二、四二七	一五、五五五	一〇、六九九	七四、七九〇	一五、四九四	二〇、一二九	四五、七六六	二三、三五三	一七、二四三	五一、八五五
	三月	六七、三三三	七、〇三五	二〇、四三一	七二、一五五	一二、三五五	一五、四七三	五一、八五五	七、〇三五	一〇、〇四一	六五、二六八
	四月	五三、九〇六	一九、四七三	二一、六〇一	六六、〇七九	一八、四八三	一九、七六六	六五、二六八	一四、五二九	七、三一九	七三、七八八
	五月	五一、七七八	二五、六三九	二四、四三三	六三、八四四	九、四四五	二〇、六七八	七三、七八八	一三、七九七	一二、六三八	七七、三五六
	六月	五三、九八四	一四、五六三	一三、七九七	五三、九〇九	一一、九二一	二四、七九〇	七七、三五六	一八、二四四	一二、三三七	四六、三三三
	七月	五三、五九〇	六、三八四	一八、二八八	四一、三〇	一三、三二	一三、〇二一	四六、三三三	六、三八四	一八、二八八	三四、三〇一
	八月	四一、三〇	二一、三二	一六、七二三	四六、九六四	一七、三一一	一九、六八四	三四、三〇一	二一、三二	一六、七二三	三八、一〇一
	九月	四六、九六四	一七、三一一	一六、七二三	四七、四六三	五、一五五	二一、七三七	三八、一〇一	一七、三一一	二三、九三七	四二、四三三
	十月	四七、四六三	五、一五五	二三、九三七	二八、六八二	一四、四三三	一八、九四八	四二、四三三	五、一五五	一七、〇六六	二九、八二二
	十一月	二八、六八二	一四、四三三	一七、〇六六	一三、四九五	四、六二五	一七、八二三	二九、八二二	一四、四三三	一七、〇六六	二六、一九二
	十二月	二六、一九二	一四、四三三	一七、〇六六	一三、四九五	四、六二五	一七、八二三	二六、一九二	一四、四三三	一七、〇六六	二三、五六九
	一ヶ月平均	四八、〇二六	一七、〇六六	一九、六七七	五七、三一八	一二、〇四三	一五、三三三	四七、二三五	一七、〇六六	一九、六七七	四五、二三三
	計	五七六、三一八	二〇四、三一三	一九九、八八六	六八、〇七四	一三五、二五〇	三六、四四三	四五、一三	一三、四三五	一二、七六三	二九、一四一

同上保管料及貨物出入賃錢表

品名	荷造	單量	保管料割合	出入賃錢	品名	荷造	單量	保管料割合	出入賃錢
米穀	叺及袋	四、五斗	參	錢金壹錢四厘	粗米	素麵	箱入	五貫内外	金貳錢
	同	三斗五升迄	金貳錢五厘	金壹錢貳厘		韓俵	百	斤	金參錢
	叺入	二斗五升迄	金壹錢五厘	金壹錢		叺入		斗	金壹錢
	同	三斗五升迄	金 貳 錢	清酒		樽入	四斗	斗	金參錢
	同	五斗五升迄	金貳錢八厘	醬油		樽入（一斗四一）		斗	金壹錢
	同	六斗五升迄	金參錢五厘	酒		箱入四	打	金	金壹錢四厘
	同	七斗五升迄	金四錢	竹莚		百	斤	金	參錢
	袋入	二斗五升迄	金壹錢參厘	砂糖		包	斤	金	參錢
	同	三斗五升迄	金壹錢八厘	葉莨		包	貫	金	壹錢四厘
	同	五斗五升迄	金貳錢五厘	莨		包	貫	金	壹錢四厘
	同	六斗五升迄	金參錢貳厘	和洋卷莨		箱入二	萬	本	金參錢
	同	七斗五升迄	金參錢六厘	同		百	斤	金	參錢
	同	七斗五升以上	金四錢五厘	絹、綿布		包	六十	疋	金參錢
	韓俵	一	石金五錢	莚表		包	五十	斤	金參錢

大麥	叺入	五	斗籾	同	斷籾	同
麥粉	（韓俵）袋入	一	石同	同	同	同
生及晒金巾	一箱入	五十	疋金	五拾錢	金	六錢
四甲紙	一箱入	二千	枚金	貳錢	金	壹錢
厚紙	同	二千	枚金	參錢	金	壹錢
見樣紙	同	三千	枚金	拾七錢	金	壹錢
ライスペーパー	箱入	百	卷金	貳拾五錢	金	四錢
皮革	繩メ	二百五十	斤外金	參拾五錢	金	六錢四厘
同	繩	拾	斤內外金	六錢	金	參錢
鑵詰類	叺	（廿枚メ）五斗	入金	五錢	金	貳錢
同	箱入	一ポンド打	四入金	參錢	金	壹錢
同	同	一三拾枚以上	金	七錢	金	貳錢
漁網	莚包	十貫內外	金	拾錢	金	壹錢

毛布	箱入	二	打金	七拾錢	金	七錢
布布	包同	五十	反金	拾五錢	金	參錢
麻糸	莚包	二十	玉金	拾五錢	金	參錢
硝子板	メ百		斤金	參錢	金	貳錢
セメント樽入	小樽		樽金	六錢	金	四錢
亞鉛板枠入	五十	枚金	貳拾錢	金	壹錢	
陶器藥包	二個合		金	貳錢	金	壹錢
釘樽入	百斤內外		金	參錢	金	貳錢
牡丹線布包			金	參錢	金	壹錢四厘
葉煙草	叺入	十	貫文	金	參錢	金	壹錢四厘
明太魚	繩メ	三十	連金	參錢	金	壹錢四厘
海鼠	莚包	百斤	金	六錢	金	參錢
干鰯	莚包	百斤	金	五錢	金	參錢
鋼鐵	箱入	百斤			金	貳錢

備考　保管料は一ケ月の料金にして其月の十五日を期界として上下二期に分ち出入庫貨物共各一期のときは半月分を徴し二期に渉るときは一ケ月分を徴せり

又火災保險料は本表の保管料金に含む

（ロ）釜山倉庫會社の部

品別	年次	四十二年			四十三年			四十四年			殘高
		前年越高	入庫	出庫	前年越高	入庫	出庫	前年越高	入庫	出庫	
米類		一一、九六八	四二、六六三	（一）三一、六三	二三、二六〇	一	二五、三三七	二三六	八、七九九	七、二九一	一、二四四
籾		一	一	一	一	一	（一）	四〇五	七〇五	九、七〇四	一、三四六
大麥		一	七〇七	七〇七	一	一	一	一	一	一	五六
小麥		五五九	八〇八	八〇四	二、二八一	九四六	二、一五八	一、四四五	六、七九	二、一三	三一
大豆		二、三〇三	一、四三四	一、四三五	五一九	一	五一九	五一九	一、七九六	一、七九五	一
小豆		一	一、六四	一、六四	一	一	一	一	一	一	一
雜穀		一	二、四二二	二、四二二	二、四一八	一	二、三五	六一四	一、六二三	二、一五七	七〇
韓錢		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
綿類		二四	二四	二四	五〇	一	五〇	一	一	一	一
紡績糸		五八	三〇	三六	二四九	一	二四九	一	一	一	一
木綿		二四四	五八	八〇二	三六	一	三六	一	一	一	一
金巾		四二	六二	九二	一七	一	一七	一	一	一	一
葉莫莫		二二九	二一	二〇九	二九二	一	二九二	一	一	一	一
卷莫莫		九四	九四	九四	二六九	一	二六九	一	一	一	一
織物類		四三五	二七五	二七五	二三	一	二三	一	一	一	一
牛皮		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
雜品		五〇四	一、五四	一、五四	二四一	一	二四一	四九四	一、九三	一、九三	五八六
計		四、九三六	五、一〇二	四〇九二	一五、一〇六	三八、五七七	四五、四二〇	八二三	三一、六九七	三三、四八	六四三

同　上　月別表

年次 / 月次	四十二年 前月越高	四十二年 入庫	四十二年 出庫	四十三年 前月越高	四十三年 入庫	四十三年 出庫	四十四年 前月越高	四十四年 入庫	四十四年 出庫	残高
一月	四、九三六	一〇、三五二	三、三八六	一五、一〇六	四、九八〇	五、五一〇	八、二一三	二、四三六	一、一七五	九、四七四
二月	一二、〇五四	三、八六三	二、〇八六	一四、五六六	三、二四九	三、九二七	九、四七四	二、四六二	一、三四四	一〇、五九二
三月	一三、八三一	一、七九八	四、五四三	一三、八九八	四、六四四	三、七八一	一〇、五九二	四、〇二九	一、三七八	一〇、八四〇
四月	一〇、〇八七	一、一七八	五、五九七	一三、五六六	三、三一一	四、六四三	一〇、八四〇	六、八一三	一、八六八	一三、八八四
五月	七、二七七	三、五〇三	二、三五八	一四、四八九	一、九六五	三、三一一	一三、八八四	一、七一三	三、八三六	一三、五五三
六月	八、九三六	二、四六四	一、二〇四	一三、五三三	一、九三一	一、九六五	一三、五五三	一〇、八四〇	四、〇二九	一〇、三五四
七月	一〇、二〇八	〇、二〇八	五、四二一	一〇、三五四	六、九一一	一、九三一	一〇、三五四	六、九一一	三、七九一	九、四七四
八月	七、九三一	四、五三八	四、六八九	九、四七四	二、二〇六	六、九一一	九、四七四	二、二〇六	三、七九一	七、八八九
九月	七、〇三九	一〇、一七	四、四二一	七、八八九	一、八四	二、二〇六	七、八八九	一、八四	二、六六七	六、三六六
十月	九、四四一	九八一	四、四二一	六、三六六	一、九八	一、八四	六、三六六	一、九八	一、七一八	六、三四六
十一月	六、〇〇一	六、六六	一、六三一	六、三四六	一、〇二一	一、九八	六、三四六	一、〇二一	一、七一八	六、三四九
十二月	五、〇三五	一四、三六九	一、六三一	六、三四九	一、三三〇	一、〇二一	六、三四九	一、三三〇	九三一	六、七六〇
計	九四、八〇	五二、八三	四〇、九二三	八、二一三	二、四三六	一、一七五	九、四七四	二、四六二	一、三四四	九、四七四
一ケ月平均	七、九〇七	四、三七	三、四〇九	九、一〇一	三、〇四	三、七九	七、八九五	二、七四一	三、七九	七、九〇七

同　上　貨物保管料表

品名	個數	數量	保管料割合	品名	個數	數量	保管料割合
韓錢	壹個	百貫文	金參拾錢	牛皮	壹個	二百五十斤	金參拾錢
穀類	同	五斗入	金貳錢五厘	海草	同	百五十斤	金九錢
木綿	同	五十疋	金拾八錢	酒類	同	四斗入	金拾錢
支那布	同	五十疋	金拾八錢	叺	同	三十枚	金五錢
綾木綿	同	五十疋	金拾八錢	醬油	同	四斗入	金拾錢
紡績	同	二十玉	金拾四錢	干鰯	同	百斤	金五錢
綿類	同	五十斤	金拾錢	素麵	同	五貫目	金貳錢
金巾	同	五十疋	金五拾錢	紙巻煙草	同	壹萬五千本及二萬本入	金拾六錢
油類	同	二斗入	金參錢	葉煙草	同	十貫目	金拾錢
明太魚	同	三十連	金參錢				

備考　保管料は一ケ月の料金にして其月の十五日を期界として上下二期に分ち出入庫貨物共各一期のときは半月分を徴し二期に渉るときは一ケ月分を徴せり又火災保險料は本表の保管料金に含む

二　官設保稅倉庫

本港に於て始て稅關保稅倉庫の創設せられたるは明治四十年(隆熙元年)七月に在

り當時は保稅倉庫の利用未だ一般に周知せられざりしを以て之を利用するものは僅に二三の西洋雜貨商に過ぎざりしが故に倉庫出入貨物の如きも甚だ微々たりしが爾來該倉庫の効用の漸次普知せらるゝに及び出入貨物も亦逐年增加の趨勢を呈せり現今に於ける釜山稅關の新設倉庫は煉瓦造二棟にして其總坪六百七十二坪を有せり今最近三ヶ年の保稅倉庫出入貨物數及現行倉敷料定率を擧ぐれば左の如し

官設保稅倉庫出入貨物三ヶ年表

品名	四十二年		四十三年		四十四年	
	入庫	出庫	入庫	出庫	入庫	出庫
飮食物	二五、八八二円	一八、三八二円	三三、二二〇円	三二、八九七円	四八、三一六円	五二、六八三円
藥材染料及塗料	六〇	六〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、二〇九	六五一
油及蠟	—	—	—	五、〇〇四	七五	七五
絲縷繩索及布帛類	—	—	二、二五二	七八二	二二、五九四	二三、五四一
衣服及附屬品	—	—	二、一七三	一、五〇〇	一、六五一	二、三二四
金屬及同製品	一四、〇二七	一三、六六七	—	四四〇	—	—
煙草	五六〇	五六〇	二、〇三九	一、四一五	一、〇一二	一、六三六

同上倉敷料定率表（明治四十五年四月一日より施行）

番號	品目	一箇月庫敷料	立方尺	車輛及船舶	紙及紙製品	雜品	計
一	穀物及種子	一〇	同				
二	穀粉	一〇	同				
三	砂糖（アンペラ包又は麻袋のもの）	一〇	同				
四	酒類	一〇	同				
五	其他の飮食物	二〇	同				
六	煙草（各種）	二〇	同				
七	皮骨角蹄類	二〇	同				
八	藥材、化學藥、製藥及調劑藥	二〇	同				
九	油、脂蠟及蠟燭	二〇	同				
十	染料、顏料及塗料	二〇	同				
十一	綿織系及綿絲系	二〇	同				
十二	其他の系絲、繩索及同材料	二〇	同				
十三	金巾、天竺布、白木綿及綿フランネル	一五	同				
	計			—	六〇〇 七、〇七七	—	六〇〇 七、〇七七
				—	六〇〇 二、〇七三	—	六〇〇 二、〇七三
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
				—	—	—	—
	計			—	四八、二〇六	—	四八、二〇六
				—	三五、三四二	—	三五、三四二
				—	四三、六八六	—	四三、六八六
				—	四五、八五二	—	四五、八五二
				—	七六、九六〇	—	六七六 七六、九六〇
				—	八三、二〇一	—	六七六 一、六一五 八三、二〇一

十四	其他の布帛及布帛製品	毎立方尺	〇二〇
十五	衣服及附屬品	同	〇二〇
十六	印刷料紙	同	〇一五
十七	其他の紙、紙製品及繪畫	同	〇二〇
十八	金屬（條、塊、筒、管竿及板の類にして包裝なきもの）	毎百斤	〇一〇
十九	其他の金屬及金屬製品	毎立方尺	〇二〇
二十	陶磁器、玻璃及玻璃製品	同	〇一五
二十一	龜甲、象牙、麝香、龍腦及芝片、金液及銀液、白金、貴石及眞珠、懷中時計及同部分品、鉞盤及同部分品、時計及同部分品（航海用のもの）其他の貴重品	從價千分の五	
二十二	別號に揭げざる物品	毎立方尺	〇二〇

備考　一、一箇月未滿の庫敷料は十五日迄は半月分十五日を超ゆるときは一箇月分を徴收す

但庫入の初日は日數に算入し庫出の日は日數に算入せず

二、一立方尺未滿は一立方尺又百斤未滿は百斤として計算す

三　明太魚倉庫

本倉庫は會興社と稱し草梁に在り其組織は參萬圓の合資組織にして朝鮮人の出資經營に係り主として北鮮より移入せらるゝ明太魚の保管を以て目的とし其他綿絲、綿布、食鹽、紙類等の保管預を爲す由來明太魚は鮮人一般の最大嗜好品なるを以て其需用額實に巨額に上り而も其產地は北鮮咸鏡道沿岸なるを以て交通の關係上從來主として本港に移入せられ更に本港より鮮內各地へ供給せらるゝを以て年々本港に集散せらるゝもの其額百萬圓の巨額に達し本港沿岸貿易品中の重要移入品と爲す而して是等は大部分該倉庫に寄託せられ其倉庫證券を以て同地慶尙農工銀行支店に就き金融を計りつゝあり該倉庫の設備は其數五棟あり何れも木造瓦葺にして總坪數約四百坪を有せり今最近三ヶ年の貨物保管數及保管料を示せば左の如し

會興社明太魚倉庫貨物出入三ヶ年表

別種	明治四十二年 入庫高 個數	金額	出庫高 個數	金額	同四 入庫高 個數	金額
明太魚	一五〇、〇〇〇個	七六五、〇〇〇	一四四、〇〇〇	七三四、四〇〇	一八〇、〇〇〇	八六四、〇〇〇
蒼	二、〇〇〇個	一三、二〇〇	二、〇〇〇	一三、二〇〇	一、七〇〇	一一、九〇〇
木綿白	三〇〇個	二四、〇〇〇	三〇〇	二四、〇〇〇	一五〇	一四、二五〇
米	三、〇〇〇個	一八、〇〇〇	三、〇〇〇	一八、〇〇〇	三、五〇〇	二二、七五〇
青魚	三、〇〇〇個	五、一〇〇	三、〇〇〇	五、一〇〇	二、五〇〇	一五、〇〇〇
計	一五八、三〇〇	八二五、三〇〇	一五二、三〇〇	七九四、七〇〇	一八七、八五〇	九二七、九〇〇

	十三年		同　四十四年			
	出庫高		入庫高		出庫高	
	個數	金額	個數	金額	個數	金額
明太魚	一七五、五〇〇	八四二、四〇〇	一三四、八五〇	八〇九、一〇〇	一三四、八五〇	八〇九、一〇〇
鰊	一、七〇〇	一一、九〇〇	二、六六三	一八、六四一	二、六六三	一八、六四一
同	一四、二五〇	二二、七五〇	一〇七	九一〇	一〇七	九一〇
白米	三、五〇〇	一五、〇〇〇	七〇 雜品 同	五六〇	七〇 同	五六〇
青魚	二五〇	一五、〇〇〇	四三九	二、一七三	四三九	二、一七三
一個	一八一、一〇〇	九〇六、三〇〇	一三八、一二九	八三一、三八四	一八八、一二九	八三一、三八〇

備考　一、四十四年雜品中には入庫出庫共大豆三百叺價額壹千貳百圓を含む
　　一、藁は海草若目なり

同上保管料

品名	荷造	保管料	品名	荷造	保管料
明太魚	一個	〇、〇三〇円	白米	一叺	〇、〇三〇円
藁	同	〇、〇六〇	青魚	一個	〇、〇六〇
木綿	同	〇、〇六〇			

第五節　保險事業

本港に於ける保險事業は明治十三年東京海上保險株式會社の第一銀行釜山支店に代理店を托し海上保險の業務を開始せしを以て始となす爾後日清戰役前後に至り火災及生命の二三保險會社の代理店を設くるものありしと雖も當時港民尚土著永住の觀念に薄く保險思想一般に幼稚なりしを以て各種保險何れも微々たるの狀を免れさりしが日露戰役後に及び居留人口の劇增、貿易の發展等本港の狀態頓に其面目を一新するに至り各保險會社も亦漸く本港の有望なるに著目し爾來本港に代理店を設くるもの尠なからず各社皆競爭的に保險の勸誘に努むる所あり之と共に港民の保險思想も亦大に發達し何れの保險事業も爾後逐年其契約高の增進を見るに至れり尙各種保險の概況は左の如し

一　海上保險

本港の如く海上貿易を以て主眼とする開港地にして海上保險の發達を見るべきは自然の數なりと雖も日露戰役前に在りては本港の貿易も尙未だ大に發展の域に達せず隨て海上保險の如きも當時既に二三保險會社の代理店ありしも尙著しき發達を見るに至らざりしが戰後貿易の發展、商取引の頻繁と共に海難保險の必要を感ずること一層其度を增し加ふるに荷爲替取組等の關係上爾來著しく斯業の發達を促し今や海上保險會社の代理店を設置せるもの其數七社に及び保險契

約高も亦著大の增加を示せり而して其被保險貨物は主として內地向移出貨物及朝鮮沿岸廻送貨物にして即ち穀物牛皮綿布雜貨等を以て重なるものとす今各社代理店及保險契約高を示せば左の如し

海上保險會社代理店一覽表

會社名	代理店設置年月	所在	代理店名
日本海上運送火災保險株式會社	明治四十三年八月	本町二丁目	第一井谷義三郎
同　上	同　三十三年三月	濱天町一丁目	第二池忠助
同　上	同　四十一年三月	本町一丁目	特約取次店
東京海上保險株式會社	同　十三年一月	本町二丁目	十八銀行支店
神戸海上運送火災保險株式會社	同	濱天町一丁目	第一銀行支店南鮮代理店
同　上	同　三十七年七月	本町二丁目	大池忠助
帝國海上運送火災保險株式會社	同	本町一丁目	五島合名會社
同　上	同　四十年十二月	琴平町	百三十銀行支店
ニュージーランド海上保險會社	同	同	韓國興業株式會社支店
東洋海上保險株式會社	同　四十五年四月	同　上	同　上
橫濱、火災、海上運送、信用保險株式會社	同　四十五年五月	大倉町本町三丁目	澤山兄弟商會山田惣七郎

四十四年中取扱高

	件數	契約金額	保險料
海上保險	一〇、三一〇	七、一九八、一六六、〇一〇円	一二、八六六、六三〇円

二　火災保險

戰役後本港人口の增殖に伴ひ家屋の建築益增加し港民漸く財產の安固を思ふと共に火災保險の必要を感ずるに至り當時既に二三火災保險の代理店あり且つ消防組の組織、水道消火栓の裝置等多少の防火設備ありしと雖も當時祝融の災屢々起り殊に明治三十五年本港未曾有の大火災（南濱町燒失家屋百七十餘棟）ありし以來港民をして益火災保險の必要を認めしむるに至りしが日露戰役後建築家屋の劇增と家屋所有者の之を擔保として金融を計るもの增加せると將た又倉庫業者保管貨物の增加等相俟て益本港火災保險事業の增進を促し且つ四十及四十一年の交彼の五大火災保險會社が高率なる協定保險料率を本港に實行せしが爲め被保險者に尠なからざる打擊を與へ爲めに外國保險を誘致するに至り今や內外火災保險の代理店を合せ其數十有五に及べり今各社代理店、保險契約高及保險料率を示せば左の

如し

火災保險會社代理店一覽表

會社名	代理店設置年月	代理店所在	代理店名
共同火災海上運送保險株式會社	明治三十九年十二月	本町二丁目	迫間房太郎
東京火災海上運送保險株式會社	同四十年九月	富平町二丁目	福本春芳
大阪火災海上運送保險株式會社	同四十四年三月	本町二丁目	井谷義三郎
濵花火災保險株式會社	同四十四年四月	大鑑町二丁目	上四收五郎
神戸海上運送火災保險株式會社	同四十四年五月	辨天町二丁目	大池忠助
横濱火災海上保險株式會社	同三十九年八月	同上	同上
日本火災保險株式會社	同二十五年四月	本町一丁目	十八銀行支店
明治火災保險株式會社	同二十七年一月	本町二丁目	第一銀行支店
ニューヂーランド火災保險會社	同四十年十二月	佐藤町	韓國興業會社支店
ノールウキツチユニオン火災保險會社	同四十一年十月	同上	同上
同上	同四十一年九月	本町二丁目	ホームリンガ商會
ローヤル、エキスチエンヂー、アツソーセーションコーポレーション	同上	同上	同上
ユニオンクラウン火災保險會社	同上	同上	同上
サン火災保險會社	同上	同上	同上
サウスブリチツシュ火災海上保險會社	同上	同上	同上
ローヤル、インシュアーランス會社	同上	同上	同上
キヤントンユニオンインシュアーランス株式會社	同上	同上	同上
ヤンツーインシュアーランス、アツソセーション	同上	同上	同上
ノースチヤイナ、インシュアーランス株式會社	同上	同上	同上

四十四年中取扱高

	件數	契約高	保險料
火災保險	一、二〇五	二、五〇九、六七〇、〇〇〇円	二八、三三三、四四〇円

釜山港火災保險料率一覽

被保險物件 ＼ 保險料	保險金一千圓に對する一ケ年保險料						
木造瓦葺又は亞鉛葺住宅店舖	一五円	一〇円	七円	五円	一二円	六円	
同上塗土藏造倉庫	一二円						
煉瓦造住宅店舖							
同倉庫							
公共所有物木造							
同煉瓦石造							

備考　保險料は主として五大保險會社協定率を示したるものにして釀造業、ペンキ業、は本表記載保險料の三割增又料理業湯屋業は五割增なり

三　生命保險

日清戰役後は本港居留民も著しき增加を見たりしと雖も當時港民尙多くは永住的觀念に薄く隨て一般に後顧遠慮の意念乏しかりしを以て生命保險事業の如き未だ適當の機運に達せざりしが日露戰役前後に至り居留民の劇增と港民一般に

土著的方針を以て各種の施設經營に從ひ永住的の根據漸く確立の狀勢に至れるを以て各生命保險會社も漸く本港方面に事業の擴張を試むるに至り是より以後代理店を設け或は常設勸誘員を置くもの續出し競て勸誘に努めたる結果爾來年年被保險者の數を增加し現今は啻に內地會社の代理店のみならず外國生命保險會社の代理店をも見るに至れり今各代理店名及保險契約高を示せば左の如し

四十四年中取扱高

件數	契約高	保險料
生命保險 一、九七三	一、二七八、三〇〇圓〇〇〇	四〇、四九二圓六四四

生命保險會社代理店一覽表

會社名	代理店設置年月	所在	代理店名
日本生命保險株式會社	明治四十年一月	本町一丁目	西本榮一
明治生命保險株式會社	同三十八年七月	本町一丁目	十八銀行支店
帝國生命保險株式會社	同四十年五月	本町二丁目	高瀨支店
東洋生命保險株式會社	同四十二年五月	佐藤町	韓國興業會社支店
共濟生命保險株式會社	同二十八年七月	本町一丁目	松本石油部
千代田生命保險相互會社	同三十七年八月	堀立(ホリタテ)町	長谷川龜太郎
大同生命保險株式會社	同四十年五月	琴平町	萩野彌左衞門
太平生命保險株式會社	同四十三年十月	本町二丁目	迫間房太郎
眞宗信徒生命保險株式會社	同三十年七月	本町一丁目	村上元治郎
愛國生命保險株式會社	同三十七年七月	大廳町	島田歸
日淸生命保險株式會社	同四十五年五月	西町二丁目	伊藤甚三郎
蓬萊生命保險相互會社	同四十五年五月	本町三丁目	永吉庄次郎
日本共立生命保險合資會社	大正元年九月	本町四丁目	田中善支店
太陽生命保險株式會社	明治四十五年五月	本町三丁目	內山米太郎
チヤイナ、ミューチュアル生命保險會社	明治三十七年十二月	本町二丁目	ホームリンが商會
スタンダード生命保險會社	同上	同上	同上
ローヤル生命保險會社	同上	同上	同上
ウエスタン生命保險會社	同上	同上	同上
ヤンツー生命保險會社	同上	同上	同上
キヤントン、ユニオン生命保險會社	同上	同上	同上
合衆國エクキタブル生命保險會社	同上	同上	同上

第六節　市場

本港に於ける市場は釜山穀物商組合及釜山穀物輸出商組合の共同經營に係る穀

物市場、釜山水産株式會社の經營に係る魚市場及釜山食糧品株式會社の經營に屬する食糧品市場(主として青物)あり其他個人の經營に屬する魚菜類市場二あり而して穀物市場は兩組合員若くは會員にあらざれば賣買することを得ず又魚市場と食糧品市場とは會社承認の仲買人に限り賣買することを得るものにして何れも直接一般需要者に販賣せず其他個人の經營に屬する市場は素より一般需要者に販賣するを以て目的とするものなり今各市場の狀況を略記すれば左の如し

一　釜山穀物市場

本港は夙に韓國穀物の集散地點にして韓人との間に早く穀物の取引行はれたりしが當時居留地本邦商人と韓人との取引狀態たる不正の行爲多く確實の取引行はれざるのみならず此弊風は益增長の傾嚮ありしを以て當時の我領事及釜山日本人商業會議所に於ても之が改善の必要を認め一方當業者も亦取引上一定の規矩を設くるの必要を感ずるに至り數次協議の結果去る三十四年時の領事の認可を得釜山商業會議所監督の下に釜山穀物商及釜山穀物輸出商の兩組合を組織し當業者積立金の制度を定め商取引の鞏固を圖れり然るに爾來本港貿易の發展と

共に穀物の集散高も亦舊時の比にあらざるを以て賣買機關として現物市場を設くるの必要を認め遂に明治三十九年十月兩組合共同經營の下に時の理事官の認可を得て釜山穀物市場を設立し同年十一月一日より開市せり同市場に於て賣買を爲し得るものは前記兩組合同盟員及會員に限り市場は日曜祭日等の外毎日午前九時より午後四時迄(時期に依り營業時間を變更す)開場し其賣買は凡て見本に依り之を行ひ又現品の受渡に關しては釜山商業會議所に於て設定したる受渡濱法規程(濱法規程は釜山穀物兩組合の建議に依り會議所に於て設定し時の理事官の認可を經て實施し後四十三年十二月現行に改正)に從ひ之か受授をなすものとす今現行受渡濱法規程並最近五ヶ年間市場賣買高を示せば左の如し

受渡濱法規程(明治四十三年十二月十二日改正實施)

第一條　釜山港に於て穀物及海產物賣買の受渡を爲すものは本規定に據るべし

第二條　受渡に使用する量器及衡器は總て日本若くは朝鮮總督府の度量衡法に依り證印あるものに限る

第三條　穀物受渡には斗桝を用ひ左記各項を嚴守すべし

但し斗桝は釜山穀物商組合及釜山穀物輸出商組合に備付け受渡の都度當

事者に貸與するものとす

一、受渡桝廻に對する廻個數は左の割合に據るものとす

一一百叭まで　四　叭
一一百叭以上五百叭まで　八　叭
一五百叭以上一千叭まで　十　叭
一一千叭以上五百叭を加ふる毎に二叭を增す

二、廻し叭は總て其量目を計量し其平均量目に該當するものを以て桝廻をなすものとす若し之に該當するものなきときは平均量目に最近のものを以て之に充つ

但し平均量目に最近のもの上下二個あるときは抽籤を以て之を定む

三、廻し叭中平均量目に對し上下八百目以上の差あるものあるときは廻し俵に加へす之を取換へ更に平均量を計出するものとす

四、桝廻俵は第二項に規定したる一叭を斗量し二番廻までに限るものとす

五、團扇遣ひは蹴煽ち一回限りとし其時間は一時間以上に亘ることを得ず且入桝をなさゞるものとす

六、斗量の際箕を以て簸出しを爲さゞるものとす

七、買受人は斗量濟まて一切量器に手を觸るべからず

八、左記の穀物は煽りをなさず有桝に依り左の歩引をなすものとす

一大　麥	五　歩	
一小　麥	四　歩	
一蕎　麥	五　歩	
一胡　麻	三　歩	
一荏　子	三　歩	
一粟	一　歩	
一籾	一　割	
一肥料大豆	四　歩	
一黍	二　歩	

第四條　海產物受渡は風袋明引き二歩入となすものとす

第五條　本規程は釜山府尹の認可を經て明治四十三年十二月十二日より實施す

釜山穀物市場賣買個數五ヶ年表

品目	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
磨擦米	四〇、三二四個	四七、六九五個	四二、六七二個	二七、〇五三個	一六、六九四個
中白米	一七、一五五	三五、三八九	八一、九四六	一三二、五五一	八二、一〇〇
玄米	二七四、五四八	三九〇、九七五	三七七、二九〇	二九七、六〇八	一三六、〇五六
糯白米	四、三一八	六、六九四	四、一八八	三、七四八	二、五一一
糯玄米	三、二四一	二、五二七	一、六二五	五六九	四一一
粉米	一、九四二	三、三四四	三、九二一	三、七七六	一、二〇六
糀米	二、一九七	三九〇	二、六九	五三五	三二五
大豆	一一二、九二二	一九三、〇二三	二五一、六三三	一七四、七三一	二四〇、一九〇
小豆	四、九〇八	六、三三二	四、二六四	一、四四五	六八四
大麥	四、七四九	一二、八一一	一八、三四七	四、七九三	二、九七九
小麥	九、〇三五	一七、七一四	一四、五二〇	七、六八二	一〇、七六九
荏胡麻子	一、六四九	一、二四八	一、六四七	二、一一九	三、五三三
粟	一五、四九三	一九、三六四	七、八二二	一二三	一〇
黍	一、九七七	二五	一	一	一
其他雜穀	五八六	一、二六一	二、六四七	一七四	二、二七四
計	四九六、〇四四	七三八、六九二	八一四、八九一	六五六、八〇七	四九九、七四二

備考　本表中壹個は五斗入叺とす

同上月別表

月次	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
一月	七〇、一七七個	九九、一七五個	八七、三七七個	九一、一四七個	六四、五八四個
二月	五一、一七七	五六、七六二	五五、四八五	四五、〇三六	三一、一二八
三月	四九、九七五	七二、三九八	六五、〇七九	四五、九三〇	三六、四一七
四月	四六、二四三	五三、〇七〇	六六、一二二	四三、六九六	二七、六〇九
五月	三八、一四〇	五三、七三七	五七、二六〇	三七、五三八	三六、四六一
六月	二八、八九四	三一、〇一四	四一、二一八	四四、六八七	二五、四六四
七月	二九、六八三	三八、四二八	四二、四二一	五〇、〇四四	一六、八二二
八月	三二、一〇六	三九、〇〇五	四三、四八九	四三、〇三六	一四、四二五
九月	三〇、八六六	五六、七三一	五八、六八〇	五二、二二九	三八、六八九
十月	三八、五一二	九二、一八五	九三、二六八	五四、九二八	七三、八四三
十一月	四一、〇三五	六九、九一〇	八九、六二〇	六三、七五三	五九、七五七
十二月	三九、二三六	七六、二七七	一一三、八七二	八二、七八三	七四、五四三
計	四九六、〇四四	七三八、六九二	八一四、八九一	六五六、八〇七	四九九、七四二
一ヶ月平均	四一、三三七	六一、五五八	六七、九〇八	五四、七三四	四一、六四五

備考　本表中壹個は五斗入叺とす

第十章　商業　第六節　市場

二　魚市場

本市場は釜山水産株式會社の經營に屬し明治二十二年五月開始せられたる者にして魚類主として鮮魚の委托販賣を取扱ひ其營業時間は毎日午前六時より一回開市し（毎年五月より十月迄は午前七時より一回午後二時より一回開市す）其販賣方法は糶賣、算當賣及入札賣の三種とし會社の承認したる仲買人（現在五十人）をして買取らしむ尤も魚類非常に堆積したるとき又は不適當の廉價なるとき又は他より注文あるときは會社自ら糶市に立會し買收することあり會社は販賣手數料として其鮮魚たると乾鹽魚たるとを問はず糶賣は一割算當又は入札賣は五分を徴收す又靑魚、鯖魚の二種に在りては市場にて糶賣を爲さず別に專門の仲買人ありて荷主と直接取引を爲し唯市場の一部を使用するに過ぎざるを以て是等の魚類は單に通過手數料として買取主より其買取直段の百分の五を收受す而して委托荷主に對する仕切勘定は直に仕切々符を交附し置き仕切金の請求あるときは仕切々符引替に仕切勘定書を添へ支拂を爲すものとす又會社は仲買人奬勵として會社の收入すべき糶賣手數料の十分の一を戻口錢として毎半期計算の上交附し且毎半期間魚類購入高（糶賣に限る）に應じ夫々賞與の方法を設けり本市場は一ヶ年の賣上高六拾萬圓以上に上り賣買額の多き在鮮各魚市場中の巨擘と爲す今二十ヶ年間同市場に於ける魚類水揚高及最近三ヶ年魚類別水揚高を示せば左の如し

二十ヶ年間魚類水揚高表（釜山魚市場）

年次	水揚金高	年次	水揚金高
明治二十五年	三〇、七〇〇円	明治三十五年	九五、四七五円
同二十六年	二七、九三一同	同三十六年	一〇四、六三七同
同二十七年	四一、六三七同	同三十七年	一五七、五四一同
同二十八年	七二、七七二同	同三十八年	三三四、四九四同
同二十九年	一一二、六一七同	同三十九年	四〇二、一三一同
同三十年	一一一、八九六同	同四十年	五四七、三三九同
同三十一年	一〇四、四四九同	同四十一年	六五二、七三七同
同三十二年	一〇三、八三一同	同四十二年	六二二、〇九三同
同三十三年	九三、六七三同	同四十三年	六〇五、八三三同
同三十四年	一〇一、一四二同	同四十四年	六三一、〇六三同

最近三ヶ年間魚類別水場高表（釜山魚市場）

年次 / 魚名 / 新舊價額	四十二年		四十三年		四十四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
		円		円		円
鰯	二四二、九二一	一六、〇六三	二三七、二四一	一三、七二一	二四八、三〇九	一四、八二〇
鰆	一七五、〇三一	四八、三一〇	一三一、一三一	四〇、一四一	九六、九二一	三四、〇九一
平目	二九、〇一九	二一、七二一	一八、三一九	一八、八一四	三〇、九一三	一八、八一八
鱚	八一、七一四	四六、一一四	三三、九四三	二〇、一一四	八四、八一四	五三、三一九
鰡	一六九、九三八	一六、一二〇	一〇三、八四一	一六、一四一	一三五、一三一	二一、九四一
老海鼠	五六、九二八	三五、七五一	三五、七四八	二四、六一四	四九、一四一	三四、九四一
アナゴ	五、七〇〇	六、四九四	六、一四一	五、三三五	九、三一四	七、一一九
鯖	六、一四一	一、一〇一	一七、三一七	一、九一四	一七、一一四	一、九一四
目張	一七、〇三四	二、一九五	一九、一四一	二、一九一	一九、一四一	二、一九一
鯛	六、三四三	四、六七〇	五、一四一	三、九一四	五、一四一	三、九一四
鰹	二、二一七	二、七一一	一、一四一	一、三一四	一、一四一	一、三一四
太刀魚	二六、四三五	八、五八八	一四、一四一	四、三一四	一四、一四一	四、三一四
コノシロ	五、〇八四	三、三五八	一、一四一	一、三一四	一、一四一	一、三一四
鯖	七七、七三〇	二九、八四八	一四、一四一	五、三一四	一四、一四一	五、三一四
九、八四一	六、五九八	二、七八九	一、一四一	一、三一四	一、一四一	一、三一四
ガチ	九、一八六	四、四三四	一、一四一	一、三一四	一、一四一	一、三一四
鳥賊	九、一八六	五、四一一	一、一四一	一、三一四	一、一四一	一、三一四
ハモ	六、一四四	四、八〇九	一、一四一	一、三一四	一、一四一	一、三一四
スマキ						

入港漁船數	四三、五六		四三、六七		二九、九三五				
アジ	四、二九一	八、〇五五	八、三五八	一、五一一	六、四八一	一、五一一			
其他	四六、三九	七三、四四八	六〇、五五八	一一、七一一	四九、一四一	一一、七一一			
合計	六二、三〇〇	九〇七、一八六	六一、八四四	一四、九一四	五一、一四一	一四、九一四			

三　食糧品市場

本市場は釜山食糧品株式會社の經營に係り明治四十年四月創設せられたるものにして蔬菜、果實、乾物を始め鑵詰、漬物、鳥類、鷄卵、乾鹽魚等各種食糧品より雜穀、農具種子、種苗、花卉及肥料の類に至る迄各品の委托賣買を營み其營業時間は毎日日出より正午迄及午後三時より同五時迄の二回とし其販賣方法は糶賣、示談販賣及委托販賣の三種にして同社承認の仲買人(現在三十名)をして仲介賣捌を爲さしむ而して地方よりの委托荷主に對しては送荷の運賃、關稅其他萬般の手續を了したる上商品の預證として符符を送附し現品賣捌の後賣付報告と同時に仕切金の勘定を爲す又會社は委托者に對しては左の割合に依り賣捌手數料を徵す

野菜　百分の十二　　乾物　百分の六

果實　百分の十
漬物　百分の十
食糧品　百分の十
乾鹽魚　百分の六
鑵詰　百分の六
肥料雜穀　百分の四

又仲買人に對しては其一ヶ月買受金高に應じ野菜、果實、漬物等は百分の三、乾物、鹽乾魚、鑵詰類は百分の一、五の戻口錢を同社より交附するものとす今最近四ヶ年間同市場の賣上高を示せば左の如し

最近四ヶ年間賣上高

品種	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年
果實	一八、九七四・三三七	三四、〇三八・〇九八	三五、三二八・一九一	四五、九五五・三八二
野菜	一九、四七四・〇〇九	二九、五三一・五三六	三〇、八八二・二三一	四二、七二七・六八二
乾物	三三六・一九七	九三五・七〇六	四八〇・一九八	九五八・六八二
鹽魚	二、五八〇・〇一七	六六・八六〇	八二二・一三七	六三〇・一四四
乾魚	九八一・〇四二	三、〇七八・三三四	一〇七・二八九	一八八・九〇一
海鼠	一	一	一	一
鑵詰	九五二・五三〇	三四二・八五〇	三五〇・二九一	六三五・七六九
漬物	一	一	一	一

穀物食料品	計	四三、二九八・一三二	六八、三八一・一一四	六八、三九九・〇五三	九一、六一九、八四二
		一	三二二・二〇八	四二八・七一六	五二三、二八三

四　日韓共同市場

日韓共同市場は市內富平町三丁目にあり明治四十三年六月伊藤祐義氏始めて之を設立し獨力經營せるものにして其地積五百五十坪を有し場內には日鮮各商人雜居出店し魚菜、鳥獸肉、及日用雜貨等を直接需用者に販賣するを以て目的とし市內此方面に於ける魚菜の供給機關たり又本市場の特色は場內、屋外に於て使用料一坪に付一日金貳錢宛を徵收して何人を問はず出賣を許可するを以て小商人の集合するもの日々百數十名に達し日出より日沒迄顧客の出入絶へず頗る殷盛を極めり

五　釜山魚菜市場

釜山魚菜市場は市內西町四丁目四十九番戶に在り初め高橋長次郎なるもの明治三十九年十一月之を設立して專ら經營せしが市況振はず爾來悲運に傾きしに其

後高橋佐太郎外五名發起となり同業組合を組織し四十三年十二月以來之を繼續經營し現今組合員の數三十三名を算するに至れり同市場は直接需用者に販賣するを目的とするを以て朝夕購客の出入するもの多く場内常に雜沓せり

第七節　商業會議所及陳列館

一　釜山商業會議所

釜山商業會議所は其創立遠く明治十二年八月に在りて實に朝鮮に於ける商業會議所の權輿たり當に朝鮮に於て然るのみならず之を内地の會議所に求むるも其設立の早き多く其比倫を見ず即ち商工業の中心大都に於ける而も内地會議所の嚆矢たる東京及大阪の兩商法會議所（共に明治十一年に設立せらる）に遲るゝこと僅に一年に過ぎず蓋し本港は朝鮮に於ける最始の開港地たりしを以て商業の發達も最も早く隨て商業機關の如き其設備亦他港に先鞭を著くるもの鮮なからず商業會議所の如き正に其一例たらずんばあらず本港は夙に明治九年開港の頃より既に時の管理官監督の下に居留地に關する公共事務と貿易上の事務とを併せ取扱ひたる役

資本金參百萬圓

株式會社
十八銀行

本店　長崎築町一番戸
大阪支店　大阪東區大川町
大阪西支店　同西區南堀江通
佐世保支店　佐世保松浦町
熊本支店　熊本市米屋町
嚴原支店　長崎縣嚴原
京城支店　朝鮮京城
仁川支店　同　仁川

釜山支店　朝鮮釜山本町
元山支店　同　元山
木浦支店　同　木浦
群山支店　同　群山
羅州出張所　同　羅州
龍山出張所　同　龍山
龜江出張所　長崎縣五島龜江
武生水同上　同縣壹岐武生水
爲替取引先　日清露樞要各地

（中村三九）

資本金百貳拾五萬圓

銀行一般ノ業務ハ精々御
便利ニ取扱可申候

株式會社 周防銀行釜山支店

本店 周防國柳井津

爲替取引先ハ諸國樞要ノ
地ニアリ

場の設置せらるゝものありしと雖も未だ純然たる商業機關の設立を見ざりしが後數年にして居留人口漸く增加し其數既に千數百人に及び外は日韓の貿易、內は韓人との取引も亦漸く頻繁に至り居留地商界の情勢漸く多事ならんとするに至れるを以て本港有志者は商業貿易の利弊得喪を商議し斯業の發達に資すべき商業機關の必要を認め遂に明治十二年八月を以て時の管理官の認可を經別に釜山商法會議所を創立するに至れり即ち其目的、組織及經費に關する規定事項は左の如し

一、目　的

兩國貿易に關する一切の利害得失を商議し又貿易上官廳の下問に答へ及意見を官廳に建議し兼て物品陳列所を管理す

一、組　織

會員は在港貿易、銀行、海運及問屋(問屋は後に追加す)の四營業者を以て組織す

議員は定數を三十四名とし四營業者選出議員及有志議員を以て組織す

役員は正副會頭、會計委員、內外商況調査委員、輸出入物品調査委員を以て組織す又各部委員は常務規則に依り毎日出務擔當事務を處理す

一、經　費

輸出入物品に對し原價壹圓に付貳厘宛を徵收し之を共有金と稱し會議所の經費に充つ

同十四年會議所を新築し七月十五日を以て落成式を擧行せり而して會議所規則及共有金徵收方法等に關しては創立以來屢々多少の改正を施せしと雖も其組織に就ては未だ著しき變革を見ざりしが十八年二月に至り會議所の組織を變更し從來の會員に關する制限（從來會員は貿易、銀行、海運及問屋の四營業者に限れり）を廢し更に其範圍を擴張して在港商賈一般を以て會員と爲せり蓋し當時仲買商は貿易商と共に本港商界に勢力を有せる一團なりしも會議所組織は之を會員外と爲し仲買商側は別に協約社なるものを設立して一團體を爲せしが當時會議所の制限的組織を非とし其性質上一般營業者を網羅して完全なる會議所を組織すべしとの議ありしに依れり然るに此改革は幾くもなくして再び故の組織に復舊し協約社と分立するに至れり同二十三年六月再び從來の組織を變更し更に小間物商を會員に加へ議員定數を二十五名とし役員を正副會頭の外會計委員及商況調査委員の二と爲し同時に

維持法を改正し從來の厘金徵收の制を廢し更に釀金規則を設け一般會員より釀金を徵集する事と爲し釀金等級を三等に分ち一等月額參圓、二等金貳圓、三等金壹圓と爲し而して會員の釀金申込等級は各自の任意に委せり同二十四年二月時の領事立田革氏は二十三年九月發布の法律第八十一號商業會議所條例に準據し更に規則を編成の上認可を受くべき旨を達したるを以て爾來組織革新に付之が調査審議を重ね遂に二十五年十二月該條例に準據せる定款を議定し領事の認可を得て翌二十六年一月より之を實施せり是れ創立以來の一大改革にして即ち會員の組織を商法第四條及第五條に揭げたる商取引の各部に屬する營業者と爲し其營業種目三十種を指定し議員の定數を三十名と定め又經費の賦課法を改め賦課金を一般及特別の二種と爲し一般賦課金は毎月貳拾錢とし特別賦課金は之を三等に分ち一等月額貳圓、二等同壹圓五拾錢、三等同五拾錢とし會員の任意申込に依り徵收するものと爲し是れと同時に所名を釜山港日本商業會議所と改稱す是に於て大に會議所の面目を一新するに至れり而して從來賦課金の徵收は厘金制度の當時に在りては第一銀行及各回漕業者に委托せしが此改正と共に其の徵收事

務を更に居留地總代役所に委任せり同年八月議員撰出に關し定款を改正し會員を、銀行、會社、問屋、貿易商、仲買商、小間物商、雜商、の五部に分ち各部より定數議員即ち銀行、會社及問屋より四名、貿易商より六名、仲買商より六名、小間物商より四名、雜商より六名を撰出する事と爲せり同二十七年六月商業會議所條例第十七條に依り特別議員を置く三十四年七月木浦商業會議所の首唱に依り在朝鮮日本人商業會議所の聯合會成立し（在鮮會議所聯合會に就ては先是明治二十七年聯合會開設の議起り本會議所は之に關する規則の起案等幹旋の勢を取りしも時機尙將に其成立を見んとせしも不可なるものあり遂に中止せり）同年十一月十六日を以て其第一會を仁川に開き本會議所亦委員を出し參加す是れ現今の在朝鮮日本人商業會議所聯合會の濫觴なりとす三十五年會議所內に附屬事業として商品見本陳列所を設け同四月を以て開館し一般公衆の縱覽に供せしが越て三十六年更に西町一丁目に煉瓦三階の陳列館を新築し三十八年四月より開館せり同年十月在鮮會議所聯合會の名を以て日本商業會議所聯合會に加盟せり次で四十一年に至り時勢の進運に鑑み且つ會計整理の必要より同年三月定款に改正を加へ從來の階級選擧を改め單級選擧と爲し且議員選擧權に關する納稅資格を昂上して民團納稅年額拾圓以上（從來は五圓以上）と爲し之と共に會議所名稱を釜山商業會議所（日本人の字を削除す）と改むる而して從來附屬商品陳列館の經營に就ては特別會計を設け且專屬職員を置き會議所と其事務及經濟を區別せしも經費の節約と事務の統一とを圖らんが爲め四十一年度より其特別會計と專屬事務とを廢止し之を會議所に合併せり越て四十二年經費の徵收成績に鑑み更に選擧有權者の納稅資格を昂上して會員の淘汰を圖るの會計上反て得策なるを認め同年三月定款を改正し納稅資格を貳拾五圓以上に改め同時に賦課徵收期を年六期（從前は年四期）に改正し以て今日に及べり而して現今朝鮮に在りては未だ商業會議所に關する法規の制定なきを以て（朝鮮商業會議所法の設定に付ては多年會議所聯合會の問題として當局に要望すること一再に止まらず）在鮮日本人會議所は內地會議所の如く商工業の公共機關として法律に依り確定せられたる公法人たるの資格を有せず唯從來時の領事官若くは理事官に依り認可せられ現今は道長官の監督に屬する一種の商工團體に過ぎざるの觀ありと雖も現今其實際に於ては其組織何れも商業會議所法に準據せるを以て本會議所の如きも其定款の內容は殆ど內地會議所と異なる所なし且本會議所財政狀態に至りては創立年久しきを以て其基礎も既

に鞏く今や土地家屋の不動産を有するもの其價格拾壹萬五千餘圓に達し現在の收入豫算年額八千五百餘圓の中財產收入は其四割以上を占むるに至れり之を要するに本會議所は創立以來屢規則定款を改正して組織其他に變更を加へしこと尠なからずと雖も三十餘年の久しき其間依然として機關の活動を連續し未だ曾て頓挫中絕の事なく而も創立後十數年間の狀態は本港商業も尙未だ幼稚の域を脫せず商界の秩序亦未だ整頓を見ざりし時代に在りたるが故に商事の指導誘掖すべきもの弊害の監督矯正すべきもの一にして足らず加ふるに當時取引其他に關し韓人との關涉事件紛出し居留地商業の爲め利權の擁護せざる可らざるもの亦尠なからざりしを以て其間會議所の本港商業の爲め努力し施設したるもの實に多緖多端なりしが尋て本港發展の時代に入りても年一年機運の進展に伴ひ商工業に關し研究を要すべき問題、施設經營すべき事項も益其多きを加ふるに至り創立以來三十有餘年の間本會議所の本港商工當業者の利害を代表して努力貢獻し施設經營したるもの實に枚擧に遑あらず今創立以來の主要なる事績を左に揭げ參照に資せんとす

創立以來主要事績

一、輸出入品價格の鑑査

明治十三四年の交當業者より差出すべき輸出物品船積免許願及輸入物品陸揚免許願を檢閱し其價格の當否を鑑査して檢印を交付す

一、取引弊害取締

十四五年の頃韓人との取引上各種の弊害少なからざりしを以て粗惡品の賣買、不正權衡の使用及韓人口錢等に關する取締規約を設け權衡の檢査を行ひ韓人口錢取業者に證票を交付す

一、陸便の開始

十六七年の交當時海上交通未だ甚だ不便なりしを以て會議所は元山及仁川へ陸路飛脚便を開始し各商店の爲めに定時信書の送達を爲せり

一、上海直輸入計畫

對淸貿易漸次有望の趨勢を呈せるを以て上海直輸出入計畫の爲め十七年五月議員二名を各種の見本携帶實況調査として上海へ派遣す

一、國產販路擴張計畫

本邦物產を普く韓人に紹介し我商品の販路擴張の目的を以て毎年春秋二期大邱仝市の開期我商品の出賣を決議し大邱市場行商方法を定め十八年秋季開市を以て其實行を開始し委員二名を派し其商況を調査せしむ爾後二三年之を行ふ

一、港灣の改善上申

埠頭修築、海底浚渫及燈標建設、港灣改善の件に付十八年九月其筋へ上申す

一、假貿易場の設置

十九年夏虎疫流行の爲め韓人に對し居留地への交通を禁止せられたる爲め取引杜絶を見んとするを以て領事の認可を得牧ノ島及富民洞に假貿易場を設け議員出張して事務の取扱を爲し以て彼我の取引に便す後二十三年も之を行ふ

一、穀物競買取締

穀物競買に伴ふ弊害防止の爲め十八年一月穀物價格制限取締規則及處分法

を議定し仲買商團體たる協約社と共に其取締を處理す

一、貿易規則に關する意見開申

日本人民貿易規則の便否に付二十一年八月其改正意見を領事に答申す

一、消防機械の設備

二十二年六月當時人家稠密火災豫防の必要を認め貳百餘圓を以て消防機械一組を購入し總代役所に委托す

一、桝器の取締

貿易上使用の斗桝取締の爲め二十四年六月より取締を實施し爾後會議所の檢定を經たる桝器に非れば一切使用を禁じ且桝器の販賣は凡て會議所に於てし私に輸入販賣を爲すことを得ざらしむ

一、防穀實況視察

二十五年四月當時の問題たりし不正收稅所及防穀事件に付福田議員を慶尙、全羅各道の要地へ派し其實況を調査す翌年再び各地へ委員を派し輸出米禁止實施後の狀況を調査し領事に報告す